

島根県簸川郡大社町

五反配遺跡

古代出雲歴史博物館建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書



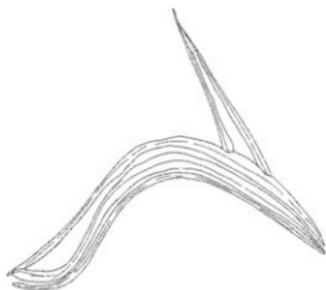
2004年3月

島根県教育委員会

島根県簸川郡大社町

五反配遺跡

古代出雲歴史博物館建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書



2004年 3 月

島根県教育委員会

序

鳥根県は、全国に誇りうる本県の歴史文化を展示紹介する古代出雲歴史博物館の整備を、平成18年度の開館にむけて進めているところです。平成14年度には、博物館建設予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施し、このたび調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回調査を実施した五反配遺跡は、弥生時代から平安時代までの水田開発に関係する河跡や水路跡、木組み遺構、水田畦畔などが検出されました。これらは当時の土木技術や、出雲大社周辺に広がる景観の形成過程を知るうえで貴重な資料となりました。

また、同時に出土した大量の建築部材や木製品については、古代の建築や生活の具体的様子を解明する手がかりとなるもので、周辺にある出雲大社境内遺跡や原山遺跡との関係も注目されるところです。

本書が地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書を刊行するにあたりご協力を頂きました地元の皆様や大社町をはじめ、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

鳥根県教育委員会教育長

広 沢 卓 嗣

例 言

1. 本書は、鳥根県教育委員会が平成14年度に実施した歴史民俗博物館建設予定地内埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2. 発掘調査地は下記のとおりである。

五反配遺跡 鳥根県巖川郡大社町杵築東99-4ほか

3. 調査組織は下記のとおりである。

調査主体 鳥根県教育委員会

平成14年度 現地調査

〔事務局〕 宍道正年（鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（副所長）、
内田 融（総務課長）、今岡一三（調査1係長）

〔調査員〕 東森 晋（調査1係主事）

〔調査補助員〕 松山智弘（臨時職員）、岩橋康子（同）

平成15年度 報告書作成

〔事務局〕 宍道正年（鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（副所長）、
永島静司（総務課長）、西尾克己（調査1課長）、柳浦俊一（調査2係長）

〔調査員〕 東森 晋（調査2係主事）

〔調査補助員〕 岩橋康子（臨時職員）

4. 現地調査、及び報告書の作成にあたり、下記の方々から御指導・御助言・御協力をいただいた。（敬称略、五十音順）

浅川滋男（鳥取環境大学教授）、穴澤義功（たたら研究会委員）、井上寛司（大阪工業大学教授）、岩本次郎（帝塚山大学教授）、景山真二（大社町教育委員会）、佐伯純也（駒米子市教育文化事業団）、清水真一（桜井市教育委員会）、相山林継（國學院大学教授）、園山 薫（出雲市文化財室）、高安克己（鳥根大学汽水域研究センター長）、田中義昭（鳥根県文化財保護審議会委員）、濱 隆造（鳥取県教育文化財団）、濱田竜彦（鳥取県教育委員会）、藤永照隆（出雲市文化財室）、山田昌久（東京都立大学教授）、山田康弘（鳥根大学助教授）、渡邊貞幸（鳥根大学教授）、出雲市芸術文化振興課、大社町教育委員会、木の文化研究会

5. 挿図で使用した方位は、測量法による第3座標系X軸方向を指し、平面直角座標系XY座標は日本測地系による。また、レベル高は海拔高を示す。

6. 本書で使用した図のうち、第2図は国土地理院発行のものを、図版1・3・20は大社町発行の「平成6年版大社町全図」を、図版14・15は㈱ワールドに委託した。また、写真図版1・6～8は㈱ワールドが撮影したものを、写真図版5は日本地図センター発行の49756（4B）を使用した。

7. 本書に掲載した木製品の保存処理は株式会社京都科学に委託した。

8. 本書に掲載した遺物の実測および図版の作成は柳浦、中川、東森、松山、岩橋ほかが行った。

9. 本書に掲載した遺物の写真撮影は調査担当者として株式会社京都科学が行った。

10. 本書の執筆は東森が行い、第4章は渡辺正巳氏（文化財調査コンサルタント㈱）に委託した。

11. 本書掲載の遺跡出土資料及び実測図、写真などの資料は鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33）で保管している。

凡 例

1. 本文中の文献番号は、本文28項の参考文献の番号と一致する。
2. 遺構図中の土層番号および土色は統一してある。
3. 遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗りにし、金属器と石器は断面に斜線を入れ、それ以外は白抜きにした。また、木製品のうち、木目を認識できたものは断面内に表現しているが、カシ類については放射状繊維を表現した。
4. 本文中、図版中、写真図版中の遺物番号は一致する。
5. 本書で用いた土器・石器・木製品の分類および編年観は基本的に下記の各論文・報告書に依拠している。

(1)縄文土器

高根県教育委員会 『三田谷I遺跡vol.3』 2000

(2)弥生土器

松本岩雄 「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年 一山陰・山陽編一』 木耳社 1992

鹿島町教育委員会 『南講武草田遺跡』 1992

(3)土師器（古墳時代）

松山智弘 「出雲における古墳時代前半期の土器の様相—大東式の再検討」『島根考古学会誌』第8集 島根考古学会 1991

鹿島町教育委員会 『南講武草田遺跡』 1992

松山智弘 「土器から見た出雲における前期古墳」『山陰の前期古墳 第30回山陰考古学研究会資料』山陰考古学研究会 2002

(4)須恵器

大谷晃二 「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集 島根考古学会 1994

高根県教育委員会 『西川津遺跡Ⅱ』 2001

(5)土師器（平安時代以降）

広江耕史 「島根県における中世土器について」『松江考古』第8号 松江考古談話会 1992

高根県教育委員会 『青木遺跡vol.1』 2004

(6)陶磁器

太宰府市教育委員会 『大宰府条坊跡Ⅴ—陶磁器分類編一』 2000

(7)石器

石器の分類については、古代文化センター丹羽野裕の指導を得た。

(8)木製品

奈良国立文化財研究所 『木器集成図録 近畿原始編』『奈良国立文化財研究所史料』第36冊 1993

中川 亨 「出雲における木製耕起具の変遷について」『島根考古学会誌』第17集 島根考古学会 2000

山田昌久 『考古資料大観8 弥生・古墳時代 木・繊維製品』 小学館 2003

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	(東森) … 1
第1節 調査に至る経緯	… 1
第2節 調査の経過と概要	… 1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	(東森) … 3
第3章 調査の結果	(東森) … 7
第1節 遺構	… 7
第2節 出土遺物	… 11
第4章 五反配遺跡発掘調査における自然化学分析	(渡辺) … 15
第5章 まとめ	(東森) … 23

表目次

第1表 古代出雲歴史博物館整備に向けた主要な経過	… 1
第2表 周辺の遺跡	… 6
第3表 掲載木製品の数量	… 12
第4表 土器観察表(1)	… 29
第5表 土器観察表(2)	… 30
第6表 土器観察表(3)	… 31
第7表 土器観察表(4)	… 32
第8表 石器観察表	… 32
第9表 鉄器観察表	… 32
第10表 木製品観察表(1)	… 33
第11表 木製品観察表(2)	… 34
第12表 木製品観察表(3)	… 35
第13表 木製品観察表(4)	… 36
第14表 木製品観察表(5)	… 37
第15表 木製品観察表(6)	… 38
第16表 木製品観察表(7)	… 39
第17表 木製品観察表(8)	… 40
第18表 木製品観察表(9)	… 40

挿図目次

第1図 五反配遺跡の位置	… 4
第2図 五反配遺跡の位置と周辺の遺跡	… 5
第3図 弥生時代の河道	… 7
第4図 木組み遺構・畦畔	… 9
第5図 平安～鎌倉時代の地割	… 10
第6図 試料採取地点	… 18
第7図 No.1地点の花粉ダイアグラム	… 19
第8図 No.1地点のプラント・オパールダイアグラム	… 20
第9図 No.2地点のプラント・オパールダイアグラム	… 20
第10図 No.3地点のプラント・オパールダイアグラム	… 21
第11図 No.4地点のプラント・オパールダイアグラム	… 21
第12図 土器に付着した炭化物	… 24
第13図 五反配遺跡出土木製品と類似する木製品	… 26
第14図 鳥取市桂見の集落遺跡	… 27

図 版 目 次

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 図版1 平成13年度確認調査トレンチ配置図 | 図版37 木製品01容器 |
| 図版2 トレンチ土層断面 | 図版38 木製品02容器 |
| 図版3 平成14年度調査区配置図 | 図版39 木製品03雑具 |
| 図版4 縄文時代の遺物出土状況 | 図版40 木製品04雑具 |
| 図版5 弥生土器出土状況 | 図版41 木製品05雑具 |
| 図版6 河道土層断面 | 図版42 木製品06雑具 |
| 図版7 古墳時代の遺構 | 図版43 木製品07雑具 |
| 図版8 A区溝および木組み・畦畔 | 図版44 木製品08雑具部材 |
| 図版9 B区畦畔 | 図版45 木製品09雑具部材 |
| 図版10 C区北側畦畔 | 図版46 木製品09雑具部材 |
| 図版11 D区溝および木組み | 図版47 木製品09雑具部材 |
| 図版12 D区北側矢板列、D区北側枕列 | 図版48 木製品02雑具部材 |
| 図版13 E区木組み、12T | 図版49 木製品03建築部材 |
| 図版14 A・B区土師器・須恵器・木製品出土状況 | 図版50 木製品04建築部材 |
| 図版15 C～E区土師器・須恵器・木製品出土状況 | 図版51 木製品05建築部材 |
| 図版16 A区地割遺構 | 図版52 木製品06建築部材 |
| 図版17 B・C区地割遺構 | 図版53 木製品07建築部材 |
| 図版18 地割遺構遺物出土状況 | 図版54 木製品08建築部材 |
| 図版19 11T地割遺構 | 図版55 木製品09建築部材 |
| 図版20 地割遺構と周辺の地形 | 図版56 木製品09建築部材 |
| 図版21 縄文時代の遺物 | 図版57 木製品04建築部材 |
| 図版22 弥生土器(1) | 図版58 木製品02建築部材 |
| 図版23 弥生土器(2) | 図版59 木製品03建築部材 |
| 図版24 土師器(1) | 図版60 木製品04建築部材 |
| 図版25 土師器(2)・須恵器(1) | 図版61 木製品09建築部材 |
| 図版26 須恵器(2)・平安時代以降の遺物・石器 | 図版62 木製品06建築部材 |
| 図版27 木製品(1)工具・農具 | 図版63 木製品07建築部材 |
| 図版28 木製品(2)農具 | 図版64 木製品08建築部材 |
| 図版29 木製品(3)農具 | 図版65 木製品09建築部材 |
| 図版30 木製品(4)農具 | 図版66 木製品09建築部材 |
| 図版31 木製品(5)農具 | 図版67 木製品04建築部材 |
| 図版32 木製品(6)農具・紡織具 | 図版68 木製品02建築部材 |
| 図版33 木製品(7)運搬具・漁撈具 | 図版69 木製品03建築部材 |
| 図版34 木製品(8)漁撈具・武器 | 図版70 木製品04建築部材 |
| 図版35 木製品(9)食事具・容器 | 図版71 木製品04その他・用途不明品 |
| 図版36 木製品09容器 | 図版72 木製品06その他・用途不明品 |

図版73 木製品50その他・用途不明品
図版74 木製品50その他・用途不明品
図版75 木製品50その他・用途不明品

図版76 木製品50その他・用途不明品
図版77 木製品50その他・用途不明品
図版78 木製品50その他・用途不明品

写真図版目次

写真図版1

上：遺跡遠景 下：遺跡遠景

写真図版2 調査区全景（南東から）

写真図版3

上：C区畦畔 下：D区河道

写真図版4

上：D区6層上面弥生土器（24）出土状況

下：B区14層上面縄文土器（1）出土状況

写真図版5

1947年米浜東京空撮撮影空中写真

写真図版6

上：調査区全景 下：A・B区

写真図版7

上：B区北側 下：B区南側

写真図版8

上：C区 下：D区

写真図版9

上：A区地割遺構 下：A区地割遺構

写真図版10

上：A区地割遺構調査風景

中：A区地割遺構北壁土層断面

下：A区地割遺構東壁土層断面

写真図版11

上：11T地割遺構

下：11T地割遺構調査指導風景

写真図版12

上：畦畔・木組み検出後全景

下：畦畔・木組み検出後全景

写真図版13

上：A区溝南側の矢板列

中：A区溝南側の矢板列

下：A区溝南側の矢板列

写真図版14

上：A区矢板と河道内の木の関係

中：A区溝南側の矢板列調査後全景

下：A区溝北側の矢板列

写真図版15

上：A区溝内杓子（169）出土状況

中：A区溝内曲柄又鋤（134）出土状況

下：A区溝北側田下駄（147）出土状況

写真図版16

上：A区北側畦畔 中：A区北側畦畔

下：B区南側畦畔

写真図版17

上：B区中央の杭列 下：B区中央の杭列

写真図版18

上：B区東側の杭列 中：B区東側の杭列

下：B区南側畦畔須恵器（88・89）出土状況

写真図版19

上：C区北側畦畔・木製品検出状況

下：C区北側畦畔・木製品調査風景

写真図版20

上：C区北西木製品調査風景 下：C区調査後全景

写真図版21

上：C区溝両側の矢板・木組み

中：C区木組西側板材出土状況

下：C区北側の木組み

写真図版22

上：D区溝両側の木組み

下：D区溝内土師器（83）出土状況

写真図版23

上：D区溝両側の木組み 下：D区溝両側の木組み

写真図版24

上：D区溝 中：D区溝Dライン土層断面

下：D区溝Cライン土層断面

写真図版25

上：D区溝内木製品（410）出土状況

下：D区溝内掛矢（129）出土状況

写真図版26

上：D区溝縦断面土層 中：D区溝縦断上層

下：D区北側畦畔矢板列

写真図版27

上左：D区畦畔矢板列調査風景

上右：D区矢板と河道内の木の関係

中：D区畦畔矢板列完備後

下：D区畦畔矢板列土層断面

写真図版28

上：D区北側畦畔の木組み

下：D区北側畦畔の木組み

写真図版29

上：河道Cライン土層断面

中：河道Cライン南岸部分

下：河道Cライン北岸部分

写真図版30

上：A区河道南側の木組み

下：A区河道南側の木組み

写真図版31

上：A区河道南側木製品出土状況

中：A区河道内の杭と菱 下：A区河道南側の石

写真図版32

上：A区河道南岸部分弥生土器（36）出土状況

下：A区河道南岸部分弥生土器（36）出土状況

写真図版33

上：A区河道内跡出土状況

下左：A区河道内田下駄（141）出土状況

下右：A区河道内櫓（165）出土状況

写真図版34

上：A区河道内跡出土不明遺物1

中：A区河道内出土不明遺物2

下：A区河道内出土不明遺物取り上げ風景

写真図版35

上：D区河道調査後 下：D区河道調査後

写真図版36

上：D区河道調査後 中：D区河道北岸部分の石

下左：D区河道北岸部分弥生土器（24）

下右：D区河道内門脚礎（171）出土状況

写真図版37

上：B区河道内木製品（379～385）出土状況

下：C区河道北岸部分木製品（400・409）出土状況

写真図版38

上：B区14層上面縄文土器（1）出土状況

下：B区14層上面木製品（12）出土状況

写真図版39

上：10T 中：10T南壁土層断面 下：12T

写真図版40

上：縄文土器 下：弥生土器

写真図版41 弥生土器

写真図版42 弥生土器

写真図版43 弥生土器・土師器

写真図版44 土師器 壺

写真図版45

上：土師器 壺 下：土師器 高坏・椀

写真図版46

上：土師器 高坏・低脚坏 下：須恵器 坏・皿

写真図版47

上：須恵器 甕 下：土師器 坏

写真図版48

上：土師器 坏・皿、須恵器、青磁、鉄器

下：石器、軽石

写真図版49 種実類

写真図版50 種実類

写真図版51

上：縄文時代の木製品、工具 掛矢

下：平安時代以降の木製品、農具

写真図版52

上：農具 鋤 下：農具 鋤

写真図版53 農具 田下駄

写真図版54 農具・紡織具

写真図版55 農具・漁撈具・武器

写真図版56 武器・食器具・容器

写真図版57 容器
写真図版58 容器
写真図版59 容器
写真図版60 容器・雑具 腰掛
写真図版61 雑具 腰掛
写真図版62 雑具 箱
写真図版63 雑具 箱
写真図版64 雑具部材
写真図版65 雑具部材
写真図版66 雑具部材
写真図版67 雑具部材
写真図版68 雑具部材・建築部材
写真図版69 建築部材
写真図版70 建築部材
写真図版71 建築部材
写真図版72 建築部材
写真図版73 建築部材

写真図版74 建築部材
写真図版75 建築部材
写真図版76 建築部材
写真図版77 建築部材
写真図版78 建築部材
写真図版79 建築部材
写真図版80 建築部材
写真図版81 370～376用途不明品
写真図版82 用途不明品
写真図版83 用途不明品
写真図版84 用途不明品
写真図版85 用途不明品
写真図版86 用途不明品
写真図版87 用途不明品
写真図版88

上：内面に炭化物が付着した弥生土器

下：河遺出土額箱

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

鳥根県立古代出雲歴史博物館（本調査実施当時は鳥根県立歴史民俗博物館と仮称。以下歴博といふ）は、斐川町荒神谷遺跡で出土した大量の青銅器をはじめとする本県の考古・歴史・民俗資料を展示する拠点施設として建設が計画された。歴博の整備に向けた主な経過は以下のとおりである。

第1表 古代出雲歴史博物館整備に向けた主要な経過

S59. 7～S60	斐川町荒神谷遺跡で大量の青銅器出土（銅剣358本、銅矛16本、銅鐙6個）
H2. 1	「鳥根古代文化活用委員会」の提言 ○鳥根の古代文化を調査研究・活用するために、拠点となる「古代文化研究センター（仮称）」を設置
H4. 4	埋蔵文化財調査センター、古代文化センター設置
H6. 3	県長期計画に計上
H8. 2	県中期計画に計上（平成10年代中ごろを目標に整備）
H8. 10	加茂岩倉遺跡で大量の銅鐙出土（銅鐙39個）
H9. 5～12	古代出雲文化展の開催（東京・鳥根・大阪で巡回展示。入館者443,960人）
H11. 10	歴史民俗博物館・古代文化研究センター基本構想の提言（基本構想検討委員会） ○古代文化を中心とした鳥根県の歴史と文化を調査研究し、その成果を発信、活用していくための拠点施設として設置
H12. 2	県中期計画に計上（平成10年代後半を目標に整備）
H12. 4	出雲大社で巨大神殿の柱が出土 ○「金輪御造営迹区」にみられる巨大な3本の柱（宇豆柱）を確認。10月には心御柱、側柱を確認
H12. 8	鳥根県立博物館が歴史系博物館としてリニューアルオープン
H13. 1	歴博・古代研立地場所発表 ○歴博：大社町 古代研：松江市
H13. 12	歴博・古代研整備基本計画策定
H16. 2	歴博の名称「鳥根県立古代出雲歴史博物館」に決定

平成13年1月に歴博の建設予定地が発表され、県埋蔵文化財調査センターが、同年5月から建設予定地内の埋蔵文化財の確認調査を実施することになった。

第2節 調査の経過と概要

1. 平成13年度確認調査（図版1・2）

確認調査は平成13年5月28日より開始した。調査前の建設予定地は株式会社日本交通所有の駐車場と庭園になっており、調査当時建設予定地は未買収だったので、調査対象地のうち植栽・庭石等の無い地域について確認調査を実施した。調査は10×10m～15×50mの試掘トレンチを合計11か所設定した。7月9日に3T北で矢板列を検出し、精査の結果さらに東西に続くことを確認

した。そこで矢板列の延長線上に5 Tを設定したところ、横板を杭で固定した木組み遺構を検出した。遺構の時期は出土遺物より弥生時代後期から古墳時代前期と判断された。確認調査は8月31日まで行い、1 T・3 T北・3 T南・5 Tで近世以前の遺物が出土した。

この結果、小字名から名称を互反配遺跡とし、文化庁に遺跡の発見通知を提出した。同年9月に鳥根県古代文化センターと協議を行い、平成14年度に古代文化センターの予算令達を受けた埋蔵文化財調査センターが、建物の建設範囲内の発掘調査を行うことに決定した。

2. 平成14年度発掘調査 (図版 8)

本調査は平成14年7月3日より開始した。前年度植栽等の関係でトレンチを設定できなかった部分は、用地買収後に確認調査を行いその結果対応することとした。

初めに、前年度の確認調査で検出した河道と木組み遺構の主軸に合わせて調査区を設定し、さらに東からA～E区を設定した。A区から掘削を行い、重機で2層までを除去し3層以下を人力で掘削した。7月11日には矢板列を検出し、7月23日には矢板列北側の4層上面で平安時代の地割を検出した。その後調査区を西へ拡張したところ、矢板列は河道とは別の溝に伴う木組み遺構の一部であることが判明した。8月29日には本調査区の北側に他の遺構を確認するためのトレンチ(10・11 T)を設定した。その結果9月4日に11 TでA区と同様の地割遺構を検出した。しかし、これ以外は若干の縄文土器と弥生土器が出土しただけで遺構・遺物は希薄と判断されたので、北側への調査区拡張は行わないことに決定した。9月11日からは駐車場に設定したB～D区の調査を開始し、A区同様地割遺構やその下層で河道や溝、木組み遺構を検出した。ここで検出した木組み遺構は当初の予想をはるかに上回り、遺構の検出や実測に多くの時間を割くこととなった。このためE区の調査は木組み遺構の範囲と方向を確認するに留めた。12月12日には調査区の北西に12 Tを設定し、河道の一部と若干の木を検出した。この間9月24日に岩本次郎氏、10月22日に浅川滋男氏、12月6日に田中義昭氏の調査の指導をいただいた。また、1月30日には現地説明会を開催し、雨天にもかかわらず多数の参加を得た。12月6日にはラジコンヘリによる木組み遺構の空撮を行った。その後、河道内の掘削を行うとC区を中心に大量の木製品が出土し、12月25日まで河道の掘削と遺構検出を行った。翌年1月17日に遺構の実測を終え、現地調査を完了した。



現地説明会風景

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

五反配遺跡は鳥根県畿川郡大社町に所在し、出雲平野の北西端に位置する。遺跡は出雲大社の境内から南東約300mの地点で、北に北山山地がそびえ南は砂丘に囲まれた低地である。調査前の遺跡はアスファルト舗装された駐車場と庭園になっていたが、それ以前は全城が水山で（写真図版5）、出雲大社境内の東側から南東に流れる吉野川は遺跡内を通過して堀川へと流れていた。五反配遺跡の近隣には県内の著名な遺跡が多く、北西約300mに出雲大社境内遺跡、北方約250mに真名井（命主社境内）遺跡、東方約200mに修理免本郷遺跡、南東約400mに原山遺跡、南西約500mに鹿蔵山遺跡が所在する。以下、五反配遺跡周辺で確認された主要な遺跡を概観しておく。

縄文時代

菱根遺跡では早期後葉の土器が、石器、骨角器、動物・魚類の骨と共に出土しており、周辺で最も古い時期の集落と考えられる。これ以後は後期まで町内で遺跡は確認されておらず、原山遺跡で後期初頭から前葉の土器が出土している。また、鬼ノ目谷遺跡では前述の石斧と別の地点で後期中頃の土器が出土している。その後は出雲大社境内遺跡で晩期の土器が出土し、五反配遺跡や付近の弥生時代の遺跡の状況から杵築地区では継続して集落が営まれたようである。このほか縄文土器は確認されていないが、日御碕地区の鬼ノ目谷遺跡と川井戸で草創期の局部磨製石斧と見られる石斧が出土し、稲佐遺跡で石皿・敲石・石斧が出土している。

弥生時代

弥生時代には遺跡数が増え、町内各所で遺構や遺物が確認されている。原山遺跡は出雲・隠岐地方で最古の弥生土器であるI-1様式の土器が出土した遺跡である。致次にわたる発掘調査や表採によって前期から後期にかけての遺構・遺物が検出され、前期の配石墓と後期の貼石墓が複数調査されている。出雲大社境内遺跡では前期から後期の土器が継続して出土し、鹿蔵山遺跡・稲佐遺跡・南原遺跡では前期や後期の土器が出土しているので、当該期の集落が存在したと考えられる。また、真名井（命主社境内）遺跡では寛文5（1665）年、神社の裏山の巨石の下から4本の武器形青銅器と硬玉製の勾玉が出土している。このうち銅戈と勾玉が現在出雲大社に宝物として伝わっている。このほか日御碕地区のひろげ遺跡で、弥生時代後期から奈良時代に至る祭祀遺構が検出されている。

古墳時代

出雲大社境内遺跡で前期の溝や比熱面が検出され、勾玉、円玉、手づくね土器が出土している。そのほか遺構は検出されていないものの、10回以上の工事・調査の結果、前期から後期の遺物が出土している。鹿蔵山遺跡・稲佐遺跡・南原遺跡では弥生時代に続き前期から後期の土器が出土しているが、中期以降は出土量が減少する。修理免本郷遺跡は弥生土器が出土せず、古墳時代前期以降から遺物が出土している。このころ大社町南東部の湿地が開発され、利用され始めた可能性が考えられる。遙基地区の菱根西祖で弥生時代終末から古墳時代前期の土器が出土し、亀谷遺跡でも中期の土器が出土している。また、可耕地の少ない日御碕地区でも日御碕神社境内遺跡やおわし遺跡、黒田遺跡で古墳時代後期の土器が出土し、後期古墳である高岡ヶ原古墳が知られている。

奈良・平安時代

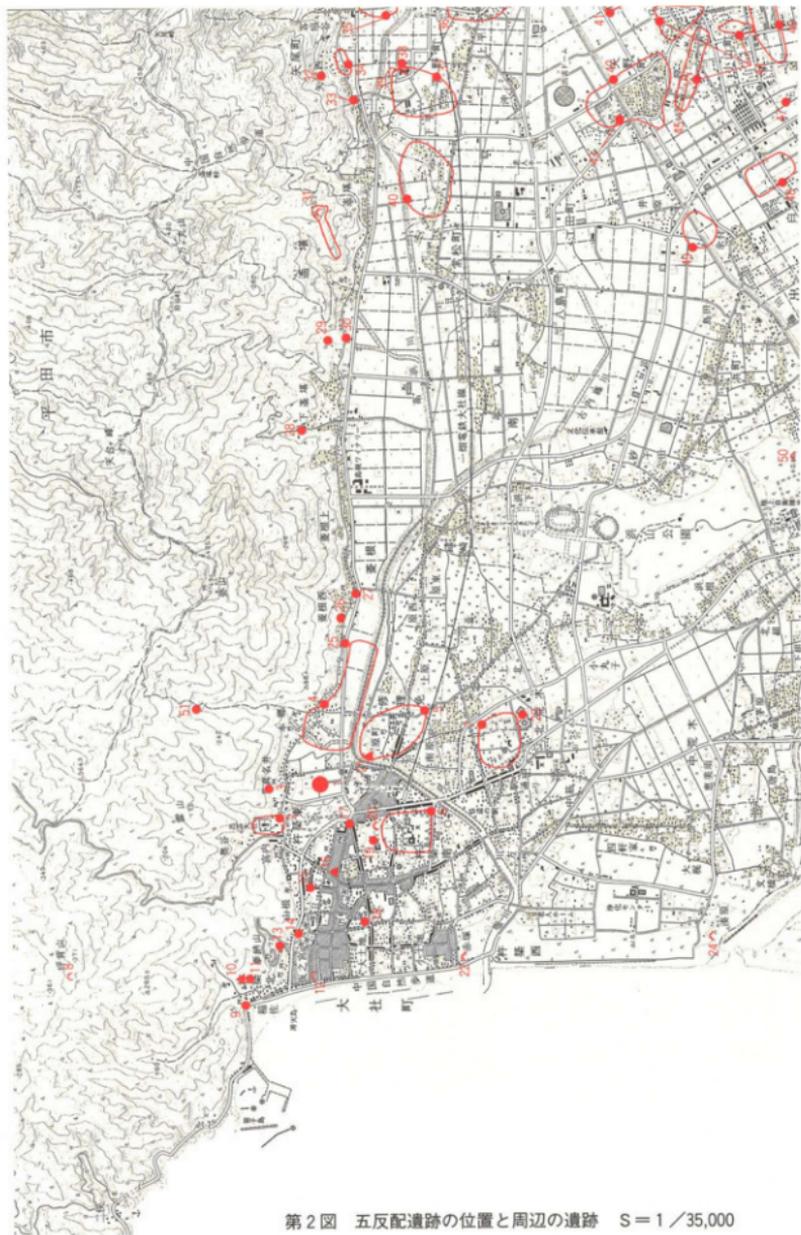
奈良・平安時代は町内各所で遺構・遺物が見つっている。また、出雲大社境内遺跡では、文献資料から制度化した神社としての出雲大社が営まれていたことが確実である。鹿蔵山遺跡では奈良時代の井戸や貝塚が調査され、土師器・須恵器のほか奈良三彩や150点もの墨書土器が出土している。奈良時代の貝塚は中分貝塚でも発見され、鉄製のヤスが出土している。古代には『出雲国風土記』に載る神門水海と呼ばれる入海が存在し、その汀線にあたると思われる。このほか南原遺跡では奈良時代の須恵器・土製品が出土し、集落の可能性が考えられる。また、ひろげ遺跡では奈良時代まで祭祀遺構が確認されている。

中・近世

出雲大社境内遺跡で、宝治2（1248）年に建てられた本殿の柱と考えられる3本一組の巨大な柱や、中・近世の本殿・欄列が確認されている。原山遺跡では平安時代末から鎌倉時代初めの土師器や白磁碗が出土している。誓願寺古墓では室町時代の土師器・陶器と共に羽口・鉄滓・鉄器が出土しており、遺構は確認されていないが小鍛冶が行われていた可能性が考えられている。このほか町内では古墓や経塚の調査も行われている。鹿蔵山経塚では土師器皿や古銭が出土し、土師器の多くに梵時が墨書されていた。奉納山経塚では金銅板製経筒17口分・銀装銅板製経筒1口分と古銭65枚、土師器が出土している。



第1図 五反配遺跡の位置



第2図 五反配遺跡の位置と周辺の遺跡 S=1/35,000

第2表 周辺の遺跡

No	名称	種別	所在地	概要	備考	遺跡番号
1	五反配遺跡	水田跡	特築東 五反配	水田跡、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、木製品、板材	発掘、一部消滅	Z 42
2	出雲大社境内遺跡	散布地	特築東 宮内	旧木殿遺構、桐跡、川跡、焼土、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器、玉類、石斧、青銅針、鉄斧、古銭、鉄鏃、鍋蓋鉄片、石器、土製品、木器、羽目、瓦、巨大柱状物		Z 3
3	真名井遺跡 (命主社境内)	銅戈出土地	特築東 真名井	銅戈、硬玉勾玉	銅戈、硬玉勾玉 重要文	Z 28
4	修理免水堀遺跡	散布地	修理免 本郷	土師器、須恵器、田下駄他	出土品町指定	Z 7
5	原山遺跡	散布地	修理免 原山	縄文土器、弥生土器、石斧、磨製石剣、古式土師器他	出土品町指定	Z 9
6	鹿蔵山遺跡	貝塚他	特築南	土師器、須恵器、奈良三彩、貝類、石斧、人骨、他	出土品町指定	Z 1
7	南原遺跡	散布地	北荒木 南原	弥生土器、土師器、須恵器、貝類、鉄斧、鹿骨他		Z 2
8	馬見埴跡	埴跡	豊賀山			Z 38
9	稲佐間屋跡	陶甕跡	特築北 稲佐		消滅	Z 35
10	稲佐他家跡	家跡	特築北 稲佐	竈道具	消滅	Z 23
11	稲佐溝跡	散布地	特築北 稲佐	弥生土器、土師器、須恵器、石儀他	出土品町指定	Z 5
12	飯ノ宮台場跡	台場跡	特築北 飯ノ宮		消滅	Z 32
13	奉納山経塚	経塚	特築北 飯ノ宮	経筒、紙経、木經、古銭他	消滅、出土品町 指定	Z 30
14	山根遺跡	散布地	特築北 山根	弥生土器、石鏡		Z 6
15	神宮寺跡	寺院跡	特築北 山根	石垣	消滅	Z 21
16	越前橋家跡	家跡	特築東 四ツ角		消滅	Z 24
17	垂光寺跡	寺院跡	特築東 大鳥居	五輪塔、陶器	消滅	Z 19
18	願勝寺古基	古基	特築南 下大工堀	和鎧、人骨、古銭	消滅	Z 29
19	願成山経塚	経塚	特築南 願成山	一字一皿経(梵字書入)、土師質土器、宋銭	消滅	Z 31
20	鹿蔵山城跡	城跡	特築南 鹿蔵山	古太刀、鏃、銅他	消滅	Z 26
21	乙見焼窯跡	窯跡	修理免 乙見	窯道具、磁器他		Z 25
22	赤塚台場跡	台場跡	特築西 赤塚		消滅	Z 33
23	中分貝塚	貝塚	北荒木 中分	筴、漁具、散骨、貝殻他		Z 8
24	清原台場遺跡	台場跡	特築西 清原		消滅	Z 34
25	薮根溝跡	散布地	薮根	縄文土器、人骨片、石鏡他	ヤノハ遺跡	Z 12
26	薮根古墳群	古墳	薮根 西組	土師器、石鏡、須恵器	消滅	Z 16
27	薮根間屋跡	間屋跡	薮根 河原谷	間の地蔵	破壊	Z 36
28	阿式谷遺跡	散布地	下逢堀 阿式谷	勾玉、須恵器、土師器		Z 13
29	龜谷遺跡	散布地	下逢堀 龜谷	土師器		Z 4
30	藤代古墳	古墳	下逢堀 藤代	鐵刀	消滅	Z 17
31	蛇山城跡	城跡	下逢堀 蛇山	郭	消滅	Z 27
32	大前山古墳	古墳	矢尾町 矢尾西	横穴式石室	W 181	
33	石臼古墳	古墳	矢尾町 矢尾西	横穴式石室	W 182	
34	野見谷遺跡	散布地	矢尾町	須恵器	W 173	
35	下澤遺跡	集落跡		土師器	W 221	
36	高浜1遺跡	散布地	里方町	弥生土器、土師器	W 171	
37	高浜2遺跡	散布地	里方町	土師器、須恵器	W 172	
38	里方八石塚遺跡	散布地	里方町 八石塚	須恵器、土師器、磁石、土鏡、水晶	発掘調査	W 180
39	岡田城跡	城跡	平野町		岡田屋敷、消滅	W 223
40	高浜川遺跡	散布地	下逢堀	弥生土器、須恵器、土師器		Z 39
41	大塚遺跡	散布地	大塚町	土師器		W 93
42	矢野遺跡	貝塚他	矢野町	土師器、弥生土器、土師器、須恵器、古式土師器、貝類、鹿角、鹿角、石斧、尖頭器、人骨、散骨、魚骨、骨器、黒曜石	市指定	W 3
43	八神神社附近遺跡	散布地	矢野町	弥生土器、土師器		W 7
44	小山遺跡	集落跡	小山町	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、かわらけ	岡崎公民館附近 遺跡を含む	W 15
45	三木氏館跡	館跡	小山町	郭、土壘、堀		W 224
46	蔵小路西遺跡	集落跡、館跡	渡橋町、小山町	掘立柱状物跡、墓、土坑、火炉、井戸、河溝、しがらみ、井登、縄文土器、弥生土器、土師器、陶磁器、木製品、石器、刀子、古銭		W 211
47	渡橋沖遺跡	集落跡	渡橋町 渡橋沖	掘立柱状物跡、土坑、溝跡、橋列、塚跡、土師器、土師質土器、青磁、陶器、木製品、五輪塔		W 210
48	白枝堂神遺跡	散布地	白枝町	弥生土器、土師器、石斧	(旧) 堂神屋敷遺跡	W 109
49	井原遺跡	集落跡	白枝町		保存措置	W 120
50	馬見埴跡	埴跡	浜町		大社町坪青山の 跡あり	W 102
51	神光寺跡	寺院跡	修理免 坊床	仏像(木像)、石垣、墓石	仏教遺物 町指定	W 20

第3章 調査の結果

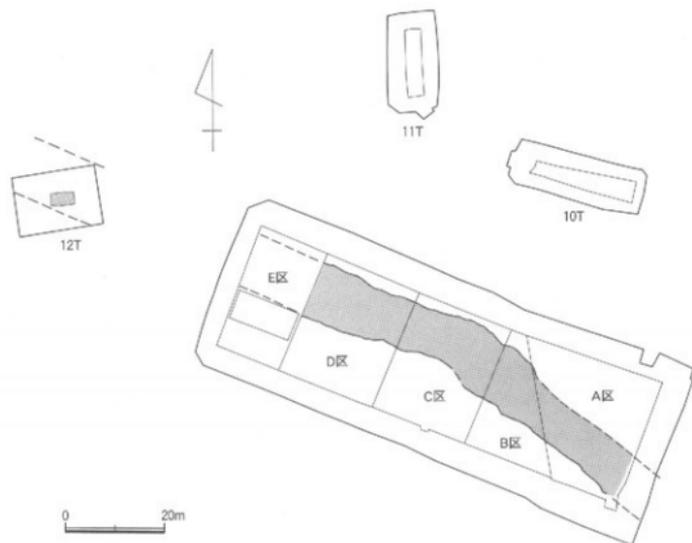
調査はA区から順に西側へ進めた。この結果、3層除去後に平安時代以降の地割を、4層除去後に木組み遺構や溝、河道を検出した。以下、遺構・遺物について年代の古いものから順に報告する。

第1節 遺構

1. 河道 (図版5・6、写真図版3・29~37)

平成13年度の確認調査時に3T北と5Tで検出した遺構で、北西から南東に向かって流れ、幅は9~11.5m、深さは0.4~0.5mである。4a~5b層除去後にプランを検出した。6・12・13層を切っており、遺構内には7~9層が堆積する。床面に石や砂が堆積しておらず、土層の堆積状況からも水の流れは非常に緩いかほとんど流れが無かったと推測される⁽¹⁾。

河道内と岸部分では縄文土器と弥生土器、木製品等が出土した。縄文土器はいずれも小片で上流からの流れ込みと考えられる。これに対し河道の時期を判断できる弥生土器が幾つか出土している。A区南岸部分では拳大から人頭大の石と弥生前期の壺の底部(18)がまとまって出土した(写真図版31下)。また、同じA区南岸で9層にめり込むようにして弥生後期前葉の壺(36)が出土している(写真図版32)。さらにA区では北岸に近い矢板列手前の地点で、やはり9層内で弥生後期前葉の壺(37)が出土した。B区では河道のほぼ中央の床面で、弥生中期の壺(25)が小片



第3図 弥生時代の河道 S=1/1000

(1) 渡辺正巳氏の御教示による。

に砕けた状態で出土した。最も上流に近いD区北岸では拳大の集石に近い位置で弥生中期の壺(24)が出土した(写真図版36中・左下)。このほかI-2様式からV-1様式の弥生土器が僅かずつではあるが出土しているので、河道が流れていた時期は弥生時代前期から後期前葉頃と考えられる。

河道内では木製品が多数出土しており、河道床面や岸近くで出土した杭等の長い材の中には組み合わせた様な状態で出土したものもあった(写真図版30・31中)。河道出土の木製品で、用途の判断できるものでは農具が最も多かったが、A区で穂柄具(135)の近くで炭化した穎稲が出土している点が注目される。また、A区では植物質の細かい繊維が集まると見られる**不明遺物1・2**が出土し(写真図版34)、分析を行ったが性格は明らかにできなかった。

河道は12Tでは現駐車場造成以前の吉野川のコンクリート製護岸の下から検出された。また、確認調査時に3T南で近世以後と考えられる流路を検出しており、吉野川は歴史建設予定地の中で幾度か流れを変えていたと考えられる。

以上の点から今回検出した弥生時代の河道は、最も古い段階の吉野川の流路と判断され、水田耕作に関係したと考えられる。

2. 溝(図版7・8・11、写真図版2・3・14・15・24)

河道とほぼ並行する位置で、4a～5b層除去後にプランを検出した。河道がB区とC区の境でやや南に曲がるので、A区では河道の北側に位置し、C・D区では河道の南側に位置する。B区では河道と重複していると考えられ、溝を検出できなかった。A区も溝の南側が河道と重複しており壁面を検出できなかったが、木組みの位置からおよそ溝の規模を復元できる。溝の規模は幅が2.3～2.8m、深さは0.4～0.5mである。6・12・13層を切っており、遺構内には11層が堆積する。前述の河道の岸部分が緩い傾斜で6層をブロック状に崩しながら形成されるのに対し、溝の壁面は比較的きれいに形成され人為的に掘られたことがわかる。

溝の両側には2列一組と考えられる欠板列や木組みが有り、調査時に認識できなかった上手が溝の両側に構築されていた可能性が考えられる。遺構内からは縄文土器・弥生土器・土師器・木製品が出土した。検出面に近いレベルで土師器がまとまって出土し、床面近くでは縄文土器・弥生土器(6・23・31・38・53)が出土した。

この溝が機能していた時期は、溝の木組み周辺で出土した土師器や、D区で検出した溝に直行する畦畔が河道の埋まった後に構築されている点から、古墳時代前期から中期前半頃と判断される。ただし、床面で出土した遺物の時期から、溝が掘られた時期は弥生時代中期後葉から後期前葉に遡る可能性がある。

3. 木組み遺構・畦畔(図版7～13、写真図版2・3・6～8・12～14・16～28)

4a層を除去すると、欠板・杭で長い板材や樺材を固定した木組み遺構や、欠板・杭だけの列が調査区のほぼ全域で検出された。調査区中央を東西に伸びる中心的な木組み遺構は、確認調査の3T北・5Tで検出されたもので、前述の溝状遺構の両側に構築され2列1組となる。杭列間の幅は約0.3～0.4mで、さらにこの杭列が2組セットになって計4列で間に溝のある遺構を構成していたと考えられる。調査区内では約85mにわたって検出され、検出状況からさらに調査区外に続くことは間違いのないと思われる。

このほか南北方向に伸びる杭列や木組み遺構を多数検出している。A区では北側で溝や木組みと直行して延びる欠板や杭の列を検出した。東西軸のものとは異なり溝を作わないが、位置関係か

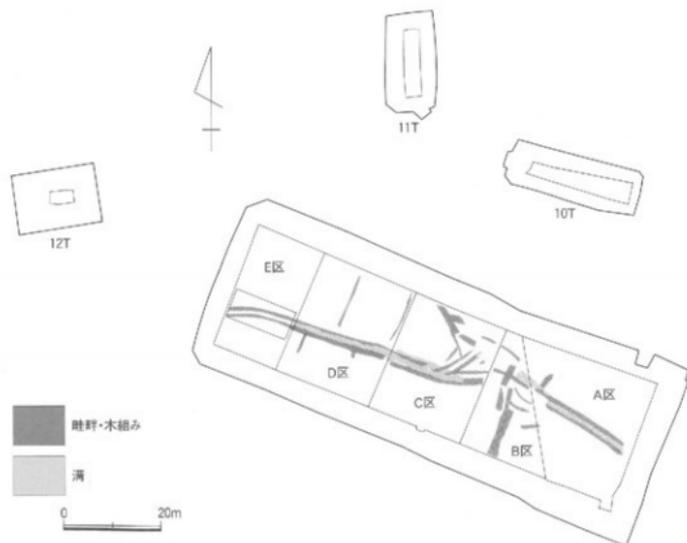
らはほぼ同時期のものと思われる。D区北側で検出した矢板列と杭列も、溝および木組み遺構と直行するように造られているので同時期の遺構と考えられる。また、D区では溝の南側でも短いが直行して伸びる杭列を2か所検出している。

B区は最も杭列が密集した所でそれぞれの前後関係を明確に判断できなかった。このうち南北に伸びる杭列は、切り合い関係の少ない南側を見ると、東西軸の木組みに似た2列一組になっている。さらに、残存状況は良くないが並行する杭列を確認できるので、同様の機能を持つ遺構の可能性が考えられる。また、B・C区では溝や東西軸の木組み遺構と全く異なる軸の木組み遺構を検出した。これらは調査区のほぼ中央から北東に向かって伸び、途中で直角に近い角度で北西に向きを変えて調査区の北側へと伸びている。C区のものには溝に伴う木組み遺構と構造が良く似ており、同時期が連続する時期の遺構と考えられる。E区では木組みが調査区の西側で若干南に曲がっていた。

これらの木組み遺構は形状から基本的に土留めを目的に構築されたと考えられ、D区北側で検出した杭だけのものは本来固定していた板材・棒材が外れたものと推測される。具体的な性格としては、県内外の同様な木組み遺構の例¹⁾から、溝の両側に構築された木組みは水田の水路の土手を補強するもの、1列の矢板・杭列は畦畔の補強を目的としたものと判断される。

4. 地割遺構 (図版16~20、写真図版9~12)

A~C区・11Tで3層除去後に検出した。細長い木を1.8~2.2mの幅で軸に合わせて並べており、



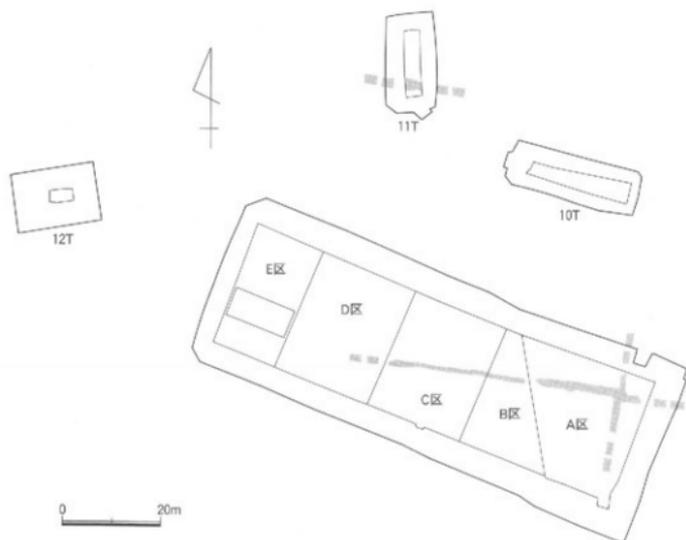
第4図 木組み遺構・畦畔 S=1/1000

(2) 県内では江津市古八幡付近遺跡(文献1)があり、県外では同じ日本海側の兵庫県豊岡市五反田遺跡(文献11)、同出石町佐川遺跡(文献12)、さらに遠方では静岡県湖名遺跡(文献19)を参考にした。

垂直に打ち込んだ木も部分的に残存する。木が並べられた範囲では拳大から人頭大の石が出土した。また、A区とC区では遺構と一部重複して白色の砂を検出した。このような遺構は当地域で報告された例が無いが、A区で十字に交差する部分がある点、東西の軸と並行すると考えられる並びが54～55m（約半町）北の11T内で検出された点、割付に使用したと考えられる石が出土した点、軸が方位に近い点などから水田の地割に関係する遺構と考えられる³⁾。遺構を構成する木や枝はほとんどが表面に加工が無く、若干板材が混じる。これらの木で用途の判断できる木製品は無かった。

地割遺構や周辺からは図版26に掲載した土師器の坏や皿、青磁椀、金属器が出土した。土師器の年代はおよそ平安時代後半から鎌倉時代の前半と判断され、出土状況から地割遺構に伴うもので、地割が機能していた年代の遺物と考えられる。また、調査区の南側で、土師器の坏がほぼ直線に並ぶように出土している（図版19）。これらは東西の地割の約18m南に平行しているので、同時期の畦畔を反映している可能性が考えられる。

地割遺構は検出状況や軸の方向から、基本的に古墳時代以降の水田の区画を大幅に改編して造られたと考えられる。この造成が行われた時期は、図版14に示すように地割と重なる位置で須恵器（91・93・96・98）が出土していることから、平安時代前半に遡る可能性も考えられる。



第5図 平安～鎌倉時代の地割 S=1/1000

(3) 岩本次郎氏の御教示による。幅が広く側溝が無いなど不明な点もあるが、桑田的な地割として大過ないと思われる。

第2節 出土遺物

今回の調査では縄文時代晩期から近世・近代にいたる様々な時代の遺物が出土した。このうち本書では近世以前の遺物を掲載した。また、出土した土器類は図がでるものは可能な限り掲載しているので、今回出土した土器の時代毎の数量や器種の比率をほぼ反映させている。

1. 縄文土器 (図版21、写真図版40)

縄文時代晩期の深鉢・浅鉢が出土した。今回出土した縄文土器はほとんどが細片で数も少ない。このうち1は14層上面で出土した深鉢で、器壁の状態は良好で表面に炭化物が付着していた。突帯文深鉢2は、文献3で無刻目突帯D類に分類されるものである。

2. 弥生土器 (図版22~24、写真図版40~44・88)

弥生土器は出雲・隠岐Ⅰ～Ⅴ様式のほとんどが出土した。しかし、当地域で比較的多くの集落・墳墓が確認されているⅤ-2～4様式前半(草田4期)の土器は出土せず、次に土器が出土した草田5期以降まで遺物の空白期間がある。器種毎の出土量は胴部の破片を含めると壺が大半を占め、壺はやや少なく高坏・器台は出土しなかった。また、大半が河道や河道の岸部分で出土し、炭化物が付着したものも多い。22は壺の肩で、外面に黒色の格子目文様が施されている。時期は、図示した肩部以外に接合できなかつた胴部下半の破片も出土しており、内面に縦方向のヘラケズリが施されるのでおよそⅣ様式のものと同判断される。24は直口壺で、口縁端部を外方に拡張し上面に4条の凹線を廻らせる。口縁内面には接合時の指の痕が明確に残る。25は厚みのある口縁部が短く屈曲するもので、内面下部にミガキ調整が施され、煮炊きの痕が無いことから短頸壺と判断した。36は大型の壺で、煮炊きによる炭化物の付着が明確に残る良好な資料である。口縁部から頸部の外面に長い刺突文を施す。37も同様な壺の口縁部で、頸部外面に沈線と刺突文を施す。内面にはヘラケズリの痕が明確に残る。40・41は器壁の薄い胴部片で外面には炭化物が厚く付着する。42~44は口縁端部に面を持たないもので、草田5期の壺と判断したが古墳時代前期の土師器の可能性もある。

3. 古墳時代の土師器 (図版24~26、写真図版、43~46)

今回の調査では古墳時代前期から中期の壺が最も多く出土した。木組み遺構や4層・7層上面で出土した木製品の多くはこの時期のものと考えられる。古墳時代前期前半の壺は基本的に山陰系の複合口縁壺で外来系のは見られなかった。また、出土量は多かったにもかかわらずほとんどが細片で全形に分かる資料は無く、一部が胴部上半まで復元できた程度である。前期後半から中期は退化した複合口縁と内彎する口縁をもつ壺が出土している。56は外面が真っ黒になるほど炭化物の付着し、肩部に間隔が不規則で広い刺突文を施す。64は不定方向にハケ調整を施した後丁寧に横方向のハケ調整を施し、丸い肩を形成している。須恵器の坏や壺が出土した古墳時代後期以降の土師器壺は出土していない。壺は弥生時代比べ出土量が減少している。直口壺73は口縁端部に面を持ち、厚みのある底部は僅かに面を持つ。高坏は図示できたのは坏部のみで、脚部の細片が数点しか出土しなかった。図示した坏部のうち80は内面が黒色に変色し蓋に使用した可能性が考えられる。82は外面に細く強いミガキ調整が施される。器種は低脚坏に分類したが、炭化物の付着状況から複合口縁壺の内蓋に使用されたと判断される。85・86は表面に赤彩の痕があり器壁はやや厚い。古墳時代後期以降の可能性はある。

4. 須恵器 (図版25・26、写真図版46~48)

古墳時代後期の壺坏が3点出土した。87は小型で天井部のケズリが見られない壺である。体外面に沈線を超らせ線を表現するなどあまり例を見ない形態であるが、およそ出雲大谷編年6期に並行するものと考えられる。88・89は出土状況からセットになると考えられる。89は丸みのある底部の外面中心部分に板目の痕が付いている。93は器壁が薄く壺類の胴部と判断した。壺は胴部の破片のみ出土し時期を明確に判断できなかったが、100はタタキの形態から平安時代後半のものと考えられる。壺120は肩部外面に細かい格子目タタキを施す。内面はナデ調整で指の痕が明確に残り、歪みも目立つ。平安時代後半から鎌倉時代初め頃のものと考えられる。

5. 平安時代以降の土師器 (図版26、写真図版47・48)

地割周辺で比較的多く出土した。101は底部にヘラ切りの痕が残るもので、口縁部を欠損するが青木遺跡出土の皿と類似することから皿と考えられる。坏類はやや厚みのある底部に内彎する体部が付くものが多い。全形に分かる資料は少ないが、広江氏の年代観や出雲市青木遺跡の土師器を参考にして、12世紀頃のものを中心であると判断した。104・107は内面全体に炭化物が付着している。105は底部外縁に高台の剥離後半皿に整えた痕がある。皿は底部のみで年代を判断できなかったが、出土状況や胎土・焼成から坏とほぼ同時期のものと考えられる。

6. 陶磁器 (図版26、写真図版121)

近世以前の陶磁器は、地割遺構で出土した青磁碗121のみである。

7. 金属器 (図版26、写真図版48)

C区南の4層上面で123が1点出土した。形状から釜または船釘と推測される⁽⁴⁾。

8. 石器 (図版21・26、写真図版48)

打製石斧2点と砥石4点が出土した。打製石斧は形状から遺物の出土している縄文時代晩期のものと考えられる。砥石は時期を判断できなかったが、古墳時代以降の可能性が高い。このほかD・Eの南側で軽石が出土している。全て4層より出土しており、この時期は水田になっているので、どのような目的で持ち込まれたのか不明である。

9. 木製品 (図版21・26~78、写真図版51~88)

今回の調査では非常に多くの木製品が出土した。遺構に再利用された建築部材や、先端を加工しただけの杭を含めると、5000点以上出土している。現地調査時に木器と判断したものは全て持ち帰ったが、遺構に再利用された部材や大割の部材は、当初の加工が残っているものや特徴的な部材のみ持ち帰った。現地から持ち帰った木製品の総数は609点である。このうち、種別が判断できるものと代表的な部材の計325点を本書に掲載した。

第3表 掲載木製品の数量

工具	農具	紡織具	運搬具	漁撈具	武器	食事具	容器	雑具	部材	用途不明品等	計
3	30	1	4	3	2	2	32	23	161	64	325

木製品の時期は、12層以下で出土したものは縄文時代晩期、地割遺構に伴うものは平安時代以降、それ以外は弥生・古墳時代のものと判断した。12は14層上面で出土した用途不明の木製品で、

(4) 穴澤義功氏の御教示による。

出土した層位から縄文時代晩期のものと考えられる⁶⁾。122は中世の漆椀で、内面は赤、外面には黒地に赤の緻密な文様の漆が塗られる。

128～449は弥生・古墳時代の木製品である。これらの木製品の時期は河道内の8・9層で出土したものは、土器の出土状況から弥生時代中期中葉～後期前葉のものと判断される。4層・7層上面付近・溝内で出土した木製品は、古墳時代以降のものが主で一部弥生時代の木製品が含まれると考えられる。以下、種別毎に記述する。

工具は掛矢のみ出土している。いずれも使用痕が残り、木組みや畦畔に接して出土している。これらの構築時に使用されたと考えられる。身と握りの境が次第に細くなる128と、明確な段を持つ129・130の2種類があり、128は加工が雑で枝の根元を残したまま使用している。

農具は鎌、鋤、山下駄、穂摘具、鎌柄、編台目盛板が出土した。山下駄は遺跡の性格を反映して比較的まとまった量が出土している。このほかに、用途不明品や他の種別に分類した木製品の中で山下駄の可能性が考えられるものもあり、総数はさらに増える可能性がある。3孔式、4孔式のほか側面にV字の挟りを入れる山下駄146も出土した。153は内側の3か所にくびれがあり、山下駄の可能性が高いと考えられる。154は松江市福富I遺跡出土木製品を参考にして、古墳時代後期以降の高足山下駄部材と判断した。穂摘具155は河道下層で出土した。県内での出土は稀で、付近で炭化した穎稻が出土している点も注目される。刃部は鋸歯状で、時期は弥生時代中期後葉から後期前葉と考えられる。157は間隔約12cmの刻みのある板材で、編台目盛板と判断した。

紡織具は紡錘158が1点出土したのみである。運搬具は天秤棒、緊締具、田舟が出土した。漁撈具は櫂が3点出土した。164は水かきに長方形の孔があるもので、スギを使用しており部材等を再加工したと考えられる。165は河道で出土した全形のわかる資料である。

武器は盾が2点出土した。166はC区の7層上面で出土したもので、本来の二分の一程度が残存する。割付線に合わせ多数の小孔が開けられ、小孔の間に縦紐の痕跡が残る部分もある。このほか2個1組の孔が上下に1組開ずつ開けられる。167は確認調査時に3T北で出土したもので、細片に砕けている。小孔が規則的に開けられ、表面には赤彩の痕跡がある。

食事は杓子が2点出土した。169は加工が粗く未製品の可能性がある。容器は主に槽・釜と刳物桶で、他に椀や蓋が出土している。173は側面と上面の窪み内に孔が開けられており小型の蓋と考えたが、詳しい用途は不明である。182は大型品で、3T北で木組みに使用されていた。刳物桶のうち、183・187・188は内面に、185は両面に黒色物が塗布される。

雑具は腰掛と箱が出土した。腰掛は刳物と指物の両方が出土している。指物腰掛の座板198は表面の残存状態が良く、上面の窪みが確認できる。箱の部品には残存状態の良いものが多く、204・205・208・209・211には木釘や楔が残っていた。211と212、213と214はそれぞれほぼ同地点で出土したもので、同一団体の部品である可能性が高い。

部材は最も多く出土し、雑具の部材と考えられるものと建物やその他の構造物の部材と考えられるもの分けられる。今回の整理作業では、比較的小型で厚さの薄いものや加工の丁寧なもの(215～263・444・445)を雑具部材に、大型で厚手のものや加工の粗いもの(264～369・447・448)

(6) これと似たものに、鹿島町神田遺跡(文献7)の最下層(縄文時代晩期前半の深鉢が出土)で出土した櫛状の木製品がある。

を建築部材におおまかに分類した。215・216・444は栓で、遺跡内に再利用を目的に運び込まれた部材に付いていたものと考えられる。217は片面の加工に特徴がある板材で意図的に凹凸を付けており、琴の上板の可能性が考えられる。245～252・256は同地点で組み合わせるように出土した部材で、出土状況は使用時に近い状態であると考えられる。

278はC区木組みの横板に使用されていたもので、古墳時代の建築部材と考えられる。削り出しで作られた円形突起の中心には、円の割付時に付いた小孔が残っている。327は枝を利用してL字に加工した部材である。C区の河道床面で出土したもので、A区の河道南岸部分でも同様の部材が出土している(写真図版31)。時期は弥生時代中期中葉から後期前葉と考えられる332・333はD区畦畔を構成していたと考えられる部材で、セットで使用されていた可能性が高い。時期は古墳時代前期から中期と考えられる。357・360～369は端部のみ加工した杭で、主に河道で出土し、弥生時代のものが多いと考えられる。長さ1.5～2m前後のものが多いが、長いものは3～4mにもなる。

用途不明品としたものは部材以外の木製品で用途を判断できなかったものである。370～376はC区の河道床面で組み合わせた状態で出土した。調査時に出土状況の図化・撮影を行っていないが、組み合わせの状況は写真図版81ようになる。写真は座り具合から転地を判断したもので、370の上に三角形の側版371・373・374を固定する。371に対し373が一回り小さいので374を縦ぎ足している。この上に372を突起が370の挟りに収まるようにして乗せ、楔375・376で固定する。さらに側版や楔を多数の木釘で固定するので、非常に強度を持たせようとしたことがわかる。372上面に見られる小孔は木釘で何かを固定したとも見られるが、詳しい用途や目的は不明である。また、377は同地点で出土した棒材で、組み合わせの状況は不明だが同じ木製品の部品の可能性がある。378はB区南の5層で出土したもので、外面には鋸歯状の文様が彫られ赤彩の痕跡がある。やや反りがある点や丸い孔が丁寧に開けられている点から短甲の破片の可能性もある。379～385は1か所でまとまって出土した(写真図版37上)。全て側面を丁寧に削って丸くし、先端も丁寧に加工で細く仕上げている。雑具部材とした241も同地点で出土しているので関連する可能性も考えられる。

400はC区の河道北岸に貼りついて出土した木製品で、一見の櫓のように見えるが他の櫓と形状、加工、広葉樹で作られている点などが異なる。特に注目されるのは断面V字の線刻で文様が彫られている点で、この文様は「和爾」または「竈」を表す可能性が考えられる⁶⁾。その場合400は儀器的可能性がある。401はD区の溝床面で出土したもので、大型であるが鳥形の可能性が考えられる。409は形状や内面の削り込みの特徴から輻形の木製品と考えられる。ただし、長さ103cm、厚さ5.6cmと非常に大型で重量があり、方形の孔が開けられる等不明な点も多い。付近で盾166が出土している。410はD区の溝内で水平になって出土した(写真図版25上)。木組みの杭を打ち込まれた際に「身」の一部を破損しているので、古墳時代前期かそれ以前のものと考えられる。転地は不明である。「柄」の部分は厚く角柱状になり、「身」の部分は端部が薄くならず反りがある。木製品にも見えるが、「身」の部分が丁寧に加工されているので製品と判断した。411～431は板材の片方の側面に挟りを入れるもので、遺跡内で多数出土した。大きさは大小あり、短辺を斜めに切断するものや丸く加工するもの、挟りが丁寧なものや粗いものなど、様々なバリエーションがある。部材を再利用したものが多く、用途は不明だが出土量の多さから遺跡の性格を反映する遺物と考えられる。

6) 埋蔵文化財調査センター内田律雄の教示による。

第4章 五反配遺跡発掘調査における自然科学分析

渡 辺 正 巳 (文化財調査コンサルタント(株))

はじめに

五反配遺跡は鳥根県中央部、簸川郡大社町杵築東に立地する遺跡である。五反配遺跡では、鳥根県立歴史民俗博物館建設に伴い緊急発掘が行われた。

本報は、上記緊急発掘に伴い、遺跡周辺の子木生などの「古環境」の推定を目的として、鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センターが文化財調査コンサルタント(株)に委託・実施した、自然科学分析(花粉分析およびプラント・オパール分析)結果の報告書を、まとめ直したものである。

試料について

分析試料は、第6図に示す各地点で、発掘担当者と協議の上、文化財調査コンサルタント株式会社から採取した。各地点の模式柱状図および試料採取層準を第7～11図の各種ダイアグラム左端に示す。

分析方法

花粉分析処理は渡辺(1995)、プラント・オパール分析処理は藤原(1976)のグラスビーズ法に従い実施した。全ての分析の観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じて600倍あるいは1,000倍を用いて行った。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。またイネ科花粉を中村(1974)に基づき、イネを含むイネ科(40ミクロン以上)と、栽培種を含む可能性の低いイネ科(40ミクロン未満)に細分した。ただし、多くの試料で花粉化石の含有量が少なく、木本花粉を200個体検出することができなかった。プラント・オパール分析では、グラスビーズが400個体以上になるまで検出を行い、同時に検出されるイネ他穀種類の機動細胞由来のプラント・オパールについて同定を行った。

分析結果

分析結果を第7図の花粉ダイアグラム、第8～11図のプラント・オパールダイアグラムに示す。

第7図の花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として各分類群毎に百分率を算出し、木本花粉を黒塗りスペクトルで、草本花粉を白抜きスペクトルで示している。また、花粉ダイアグラム右側に「針葉樹花粉」、「広葉樹花粉」、「草本花粉」に「胞子」を加えた総合ダイアグラムを示している。総合ダイアグラムでは、計数値の合計を基数にそれぞれの百分率を算出し、累積百分率で示してある。

図3～6のプラント・オパールダイアグラムでは、各分類群毎に検出数を1gあたりの含有数に換算し、スペクトルで示している。

花粉分帯

花粉組成の特徴から以下のように地域花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料Noも下位から上位に向かって記した。

(1) IV帯(試料No12～10)

アカガシ属のほか、マツ属(複雑管束亜属)、スギ属が他の種類に比べ高率を示す。また、草本

花粉の割合は低い、水生、湿地生の種類が多産する。

(2) III帯 (試料No 9～7)

スギ属が卓越傾向にあるほか、マツ属 (複維管束亜属)、アカガシ亜属が他の種類に比べ高率を示す。草本花粉ではカヤツリグサ科が卓越する。

(3) II帯 (試料No 6～3)

マツ属 (複維管束亜属) が増加傾向を、スギ属、アカガシ亜属はやや減少傾向を示す。草本花粉ではイネ科 (40ミクロン以上) が卓越する。

(4) I帯 (試料No 2、1)

マツ属 (複維管束亜属) が卓越するほか、特徴的に検出される木本花粉は無い。草本花粉ではイネ科 (40ミクロン以上) が卓越する

稲作について

プラント・オパール分析を実施した層準のうち、4 a層より上位でイネが高い検出量を示した。経験的に5,000個体/gの検出量が稲作判定の目安とされているが、3層上部の全てと、4 a層のほとんどの分析試料がこの値を上回っている。また5,000個体/gを下回るが、4 b層、5 a層からもイネが検出されている。堆積物中での生物擾乱を加味すると、3層、4 a層が稲作耕土であったと考えられる。また花粉分析結果では、5 a層より上位でイネ属を含むイネ科 (40ミクロン以上) 花粉が高い出現率を占めている。さらにこれらの試料では、オモダカ属やセリ科などの「水田雑草」も安定して検出されている。

プラント・オパール分析および花粉分析の結果から、3層、4 a層は水田耕土であったと考えられる。一方、4 b層、5 a層についても水田耕土であった可能性があるものの、生物擾乱による混入や他地点から流入した可能性も残る。

また、1 b層、2層も水田耕土と考えられるが、イネのプラント・オパールの検出量は低い。このことは、収穫方法 (穂刈りあるいは株刈り) の違いによる、水田内への葉 (分析対象としている機動細胞由来のプラント・オパールは、葉身に存在する) の残存状況や、水田としての利用頻度 (長さ) に由来すると考えられる。

古環境推定

花粉帯毎に、遺跡周辺の古植生を中心とした古環境を推定する。

(1) IV帯期

出土遺物および従来の14C年代測定結果から、縄文時代晩期頃の植生を示していると考えられる。また花粉組成から、大西ほか (1990) のスギ帯に相当すると考えられ、その推定年代と矛盾しない。

草本花粉では、ガマ属やカヤツリグサ科、イネ科、ヒシ属花粉が数%の出現率を示す事、ヨシ属のプラント・オパールが高い検出量を示す事、および層相の観察から遺跡近辺には、抽水植物や浮葉植物の繁茂する沼沢湿地が広がっていたと考えられる。

アカガシ亜属花粉が卓越し、背後に迫る北山 (弥山) 山地にカシ類が分布していたと考えられる。ここではシイ類花粉やクスノキ科花粉は検出されていないがカシ類とともに照葉樹林を形成していたと考えられる。マツ属 (複維管束亜属) は、遺跡西部から南部に続く砂丘地帯に主として生育していた可能性がある。このほかコナラ類とともに、北山 (弥山) 山地に小規模の遷移林

(二次林)を形成していた可能性もある。スギ属は同時に検出される針葉樹種と共に、北山(弥山)山地高所で温帯針葉樹林を形成していた、あるいは広葉樹とともに暖温帯針広混雑林を形成していた可能性がある。

(2) III帯期

出土遺物および従来の14C年代測定結果から、縄文時代晩期頃以降の植生を示していると考えられる。また花粉組成から、大西ほか(1990)のスギ亜帯に相当すると考えられ、その推定年代と矛盾しない。

草本花粉ではカヤツリグサ科花粉が卓越することと層相の観察から、遺跡周辺には沼沢湿地が広がっていたと考えられる。さらに、No1地点周辺にはカヤツリグサ科が繁茂していたと考えられる。

木本花粉ではスギ属が卓越し、北山(弥山)山地高所の温帯針葉樹林あるいは暖温帯針広混雑林中に生育していたスギが、谷斜面に沿って分布域を広げていったと考えられる。あるいは沼沢湿地周辺にまで分布を広げていた可能性もある。マツ属(複雑管束亜属)、アカガシ亜属の分布に関しては、前時期からの変化は考えにくい。

(3) II帯期

4b、5a層について堆積時期推定の決め手を欠くが、出土遺物からII帯期は古墳時代以降中世末頃までの植生を示していると考えられる。また花粉組成から、大西ほか(1990)のカシ・ナラ亜帯に相当すると考えられ、その推定年代と矛盾しない。

草本花粉では、II帯より上位でイネ科(40ミクロン以上)花粉が高率を示し、下位のIII帯とは異なるオモダカ属、セリ科などが検出されるようになる。このことは前述のように、遺跡周辺に水田が広がった事を示唆する。

木本花粉ではマツ属(複雑管束亜属)花粉が増加傾向を示し、スギ属、アカガシ亜属はやや減少傾向を示す。開発に伴い北山(弥山)山地山麓～山腹の照葉樹林やスギ林はアカマツを主体とする薪炭林(いわゆる「里山」)へと変わっていったと考えられる。

(4) I帯期

出土遺物から近代から現代の植生を示していると考えられる。また花粉組成から、大西ほか(1990)のマツ亜帯に相当すると考えられ、その推定年代と矛盾しない。

イネのプラント・オパールの検出量は低いものの、引き続きイネ科(40ミクロン以上)花粉が高率を示す。このことから、引き続き水田が広がっていたと考えられる。

木本花粉ではマツ属(複雑管束亜属)花粉が卓越し、コナラ亜属花粉やクマシデ属-アサダ属花粉を伴う事から、北山(弥山)山地は昭和初期に見られるような、アカマツ、コナラ類、シダ類などを要素とする薪炭林(いわゆる「里山」)で被われていたと考えられる。

まとめ

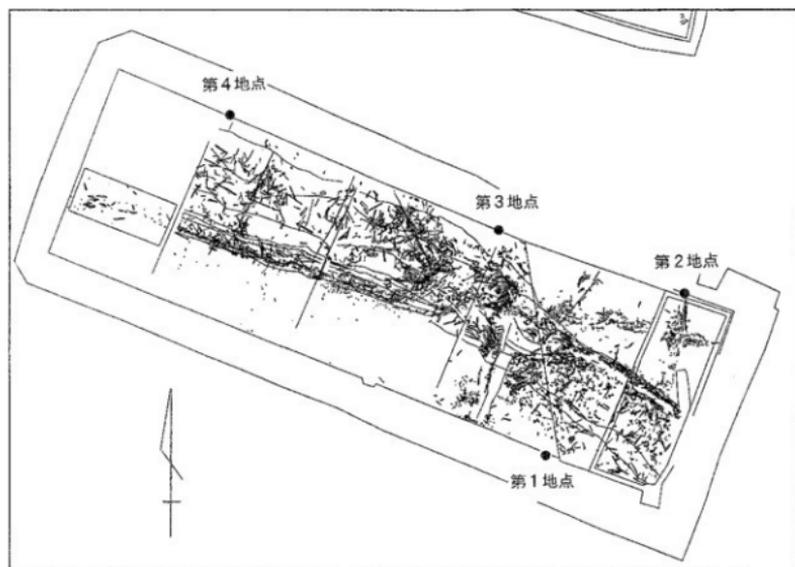
五反配遺跡で花粉分析、プラント・オパール分析を行い、以下のことを考察した。

- (1) 花粉分析結果から、I～IV帯の4花粉帯を設定した。
 - (2) 花粉分析結果およびプラント・オパール分析をもとに、縄文時代晩期以降の遺跡周辺の古環境を推定した。特筆すべき点は、以下の事柄である。
- ① II帯期(古墳時代以降)遺跡周辺で水田耕作が行われた。

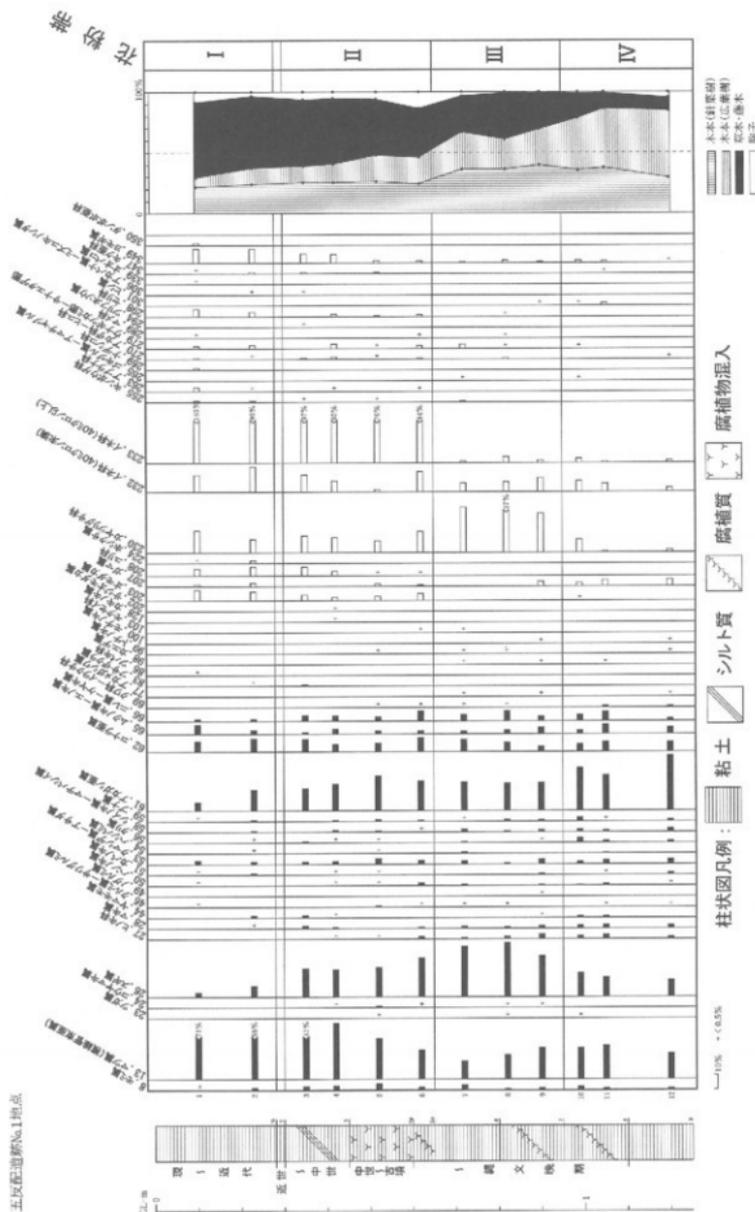
- ② 水田開発とともに森林の開発も進み、北山（弥山）山地に分布した照葉樹林、スギ林は「里山」へと移り変わっていった。
- ③ 縄文時代以前は、遺跡近辺には沼沢湿地が広がっていた。

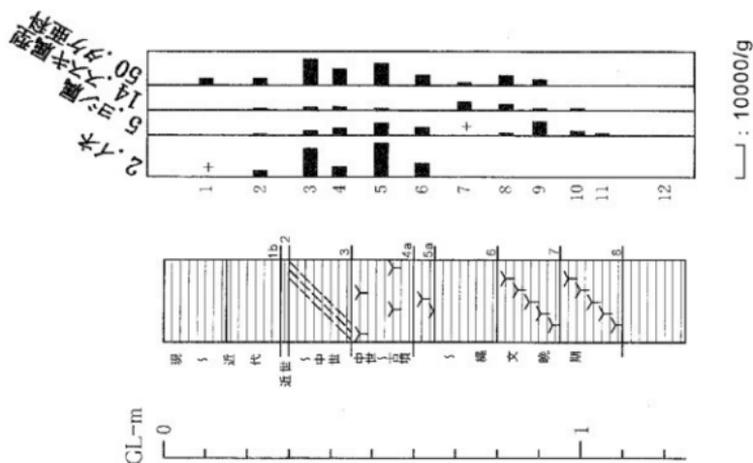
引用文献

- 大西郁夫・千場英樹・中谷紀子（1990）宍道湖湖底下完新統の花粉群。鳥根大学地質学研究報告、9、117-127。
中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネを中心として。第四紀研究、13、187-197。
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―。考古学と自然科学、9、p.15-29。
渡辺正巳（1995）花粉分析法。考古資料分析法、84、85。ニュー・サイエンス社

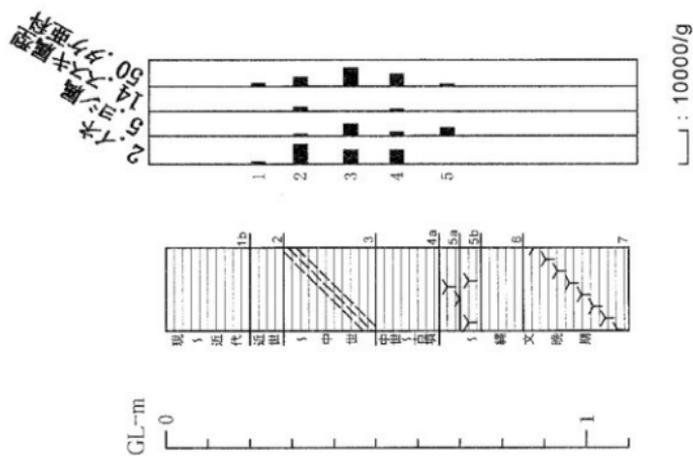


第6図 試料採取地点

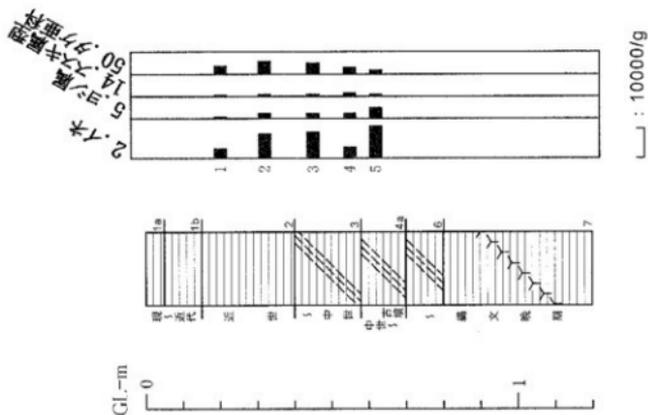




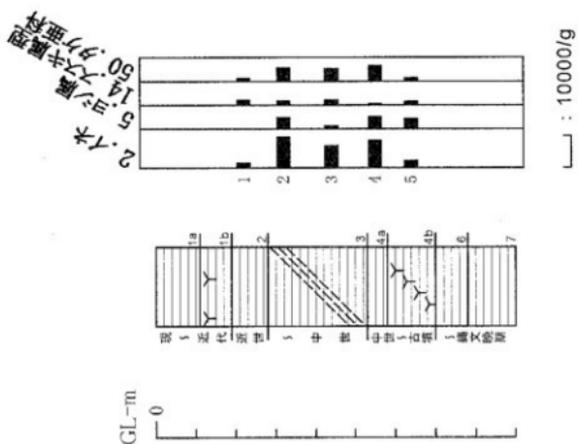
第8図 No.1地点のプラント・オパールダイアグラム



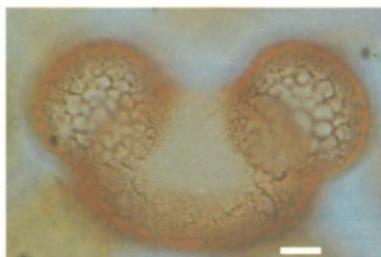
第9図 No.2地点のプラント・オパールダイアグラム



第10図 No.3地点のプラント・オバーダイアグラム



第11図 No.4地点のプラント・オバーダイアグラム



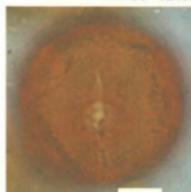
マツ属 (複維管束亜属)



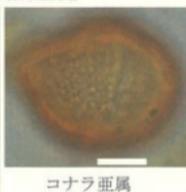
スギ属



カバノキ属



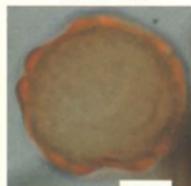
ブナ属



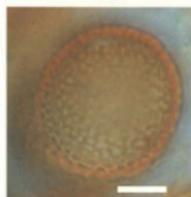
コナラ亜属



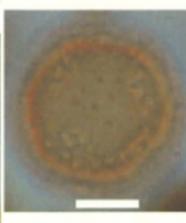
アカガシ亜属



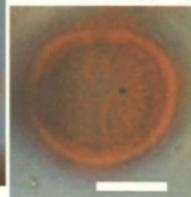
ニレ属-ケヤキ属



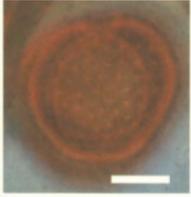
ガマ属



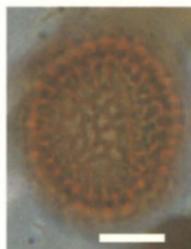
オモダカ属



ヨモギ属



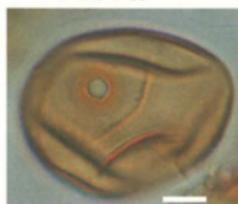
キク科 (オナモミ属Type)



アブラナ科



セリ科



イネ科 (40ミクロン以上)



ヒシ属

スケールバーは10μm (0.01mm)

花粉化石顕微鏡写真

第5章 まとめ

五反配遺跡は発掘調査の結果、弥生時代以降の水稲耕作に関わる遺構や遺物が確認され、古くから水田となっていたことが判明した。この章では各時期の状況を整理し、特徴的な遺構・遺物について検討を行ってまとめたい。

1. 各時期の状況について

縄文時代晩期 晩期の深鉢や椀状の木製品が腐植層（12・13層）の底で出土したことや、自然科学分析の結果から、縄文時代晩期の遺跡周辺は沼沢湿地が広がっていたと考えられる。この時期の集落は、土器が出土した出雲大社境内遺跡が立地する遺跡北側の低丘陵上にあつたと推測される。

弥生時代 遺跡全域で腐植層の上に灰白色の粘土（6層）が堆積し歩行可能となるのは、土器の出土状況から縄文時代晩期以降と考えられる。この粘土層は腐植層を刮平するように堆積し、遺跡周辺の便槽工事や修理免本郷遺跡の調査でも広く確認されているので、洪水などで北山方面から運ばれてきた粘土が堆積したものと考えられる⁷⁾。今回検出した河道は6層堆積後に形成されており、下層で古墳時代の遺物が出土しなかったので弥生時代の遺構と判断した。河道の下層や岸部分では主に中期中葉から後期前葉の土器が出土し、鋤・田下駄・穂柄具などの農具や穎稻が出土したことから、この頃には付近で水田耕作が行われていた可能性が高い。また、河道と並行する溝が掘られた時期は、弥生時代に遡る可能性も考えられる。

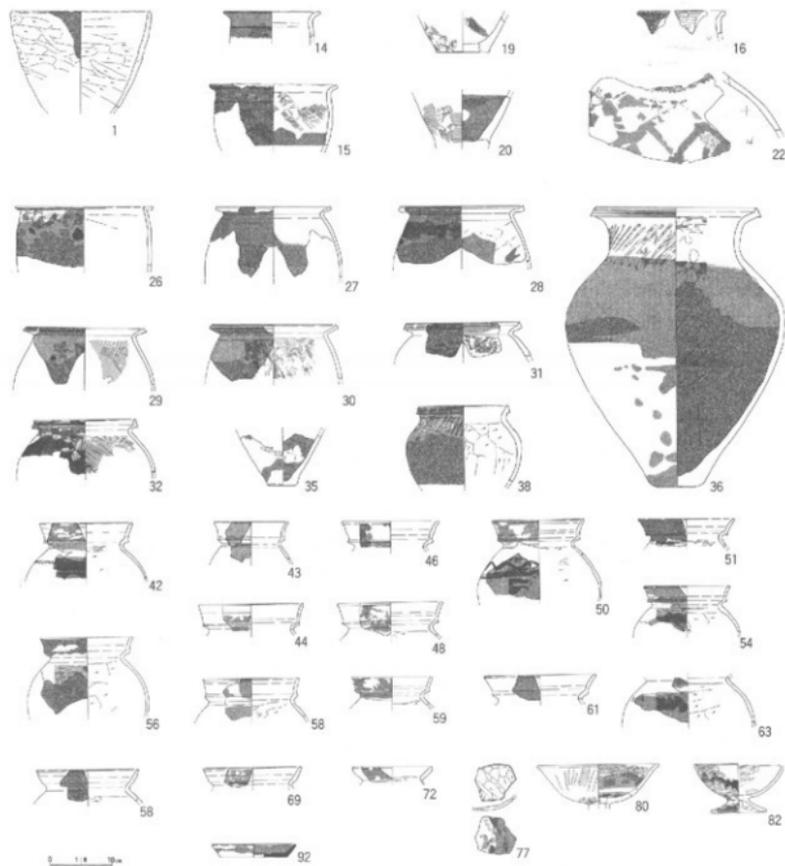
古墳時代 前述の河道は、土器の出土状況から古墳時代には埋まっていた可能性が高い。一方、前期には溝に伴う土手を補強する木組みやこれと直交する方向の木組み畦畔が構築され、水田はさらに整備されていたと考えられる。溝は水路として機能していたと考えられ、上層で古墳時代前期後半から中期前半の土器が出土することから中期には埋まっていたと考えられる。また、B区で検出された複数の杭列で構成される畦畔は、溝や溝に伴う木組みと方向が異なり、付近で古墳時代後期の須恵器蓋坏が出土した。このことから溝の方向と無関係の木組みや畦畔は溝が埋まった古墳時代中期以降に構築されたと考えられる。

木組みを構成する杭・矢板・横板は基本的に建築部材等を再利用したものであった。隣り合う杭や矢板に類似する例が多く、D区の木組みを構成していた353・354のように接合するものもあった。これは土手や畦畔を構築する際に、あらかじめ用意した建物等の部材を現地で再度適当な大きさ・形に再加工して使用したためと考えられる。今回整理を行った出土木製品の中には、矢板と杭に明確に区別しきれなかったものもあるが、再加工する際に先を斜めに切断する以外特に意識されなかった為と推測される。以上の点から、木組みを構成する杭と矢板の違いに特別な使い分けは無かったと考えられる。

平安時代以降 3層除去後に検出した地割遺構は出土遺物より平安時代以降のものと判断した。図版20は検出した地割を周辺の地形図にはめ込んだもので、方眼は調査区内の地割と11Tで検出した地割の間隔に合わせて54m（約半町）方眼にした。これを見ると遺跡周辺に地割り遺構と近い軸の区画が存在することがわかる。ケバで表現されているものや、砂丘上の小道や畑など近年

⁷⁾ 高安克己氏、渡辺正巳氏の御教示による。

整備されていない区画に軸の合うものがある点は注目され、周辺の古い区画は平安時代の地割を反映している可能性が考えられる。また、鎌倉時代中期の出雲大社と周辺を描いたとされる「杵築大社并神郷絵図」（千家尊祐氏蔵）では、遺跡周辺は整った水田として表現されている。これは単に模式的な表現でなく、今回の調査で検出された地割を表現したものと思われ、このころ絵図に描かれた範囲に調査区同様の地割が整備されていた可能性が考えられる。今回遺跡の小字名を確認する際大社町の切図で確認したが、現在の地図では単に庭園として表現される歴博建設予定地内に、地割と同じ軸の区画が存在していた。このため今後さらに調査を進めることで、より詳しくこの地割について知ることができると思われる。



第12図 土器に付着した炭化物 S=1/8

2. 炭化物の付着した土器について

今回出土した古代以前の土器には、表面に炭化物の付着したものが多く見られた。特に、写真図版41右下・88上に掲載した弥生時代中期中葉の甕の胴部内面には、煮炊きの際焦げ付いた粒状の炭化物が付着しており注目される。接合できなかつたが、Ⅲ-1様式の甕27の胴部下半の可能性が高い。炭化物の付着した土器のほとんどは甕であるが、壺や坏類も若干含まれる。甕は胴部最大径部分と口縁部に特に厚く炭化物が付着している。壺に分類される36は胴部下半も残存しており、内面に厚く炭化物が付着し外面は炭化物がとんだ状態である。高坏80とは蓋に使用されたと考えられる。低坏82は口縁部に炭化物が付着せず、体部と脚部の外面に付着していることから複合口縁甕の内蓋に使用したものと判断される。須恵器皿92は灯明皿に使用されたと考えられる。

3. 用途不明の木製品について

今回の調査では弥生時代から古墳時代の多数の木製品が出土したが、用途を判断できなかったものも多数あった。このうちのいくつかについては県内外の類例を探してみた。370～376を組み合わせた木製品は現在のところ確認できなかったが、部品372単独と似た木製品は県内外に類例がある。五反配遺跡から最も近い出土例は出雲市矢野遺跡で、弥生時代の層から出土している⁸⁾。県外の例では、京都府峰山町古殿遺跡（文献13）、滋賀県守山市下長遺跡（文献16）でよく似たものが報告されている。これらは多数の小孔を持ち、端部近くにやや大きな孔を開けている点から同様の木製品の部品の可能性が高い。儀器の可能性が考えられる。

400に類似する木製品は、鳥取県青谷上寺地遺跡（文献9）で報告されている。表裏に渦文の陰刻が施され、小ぶりで薄作りなので別の器種である可能性が述べられている。このほか、鹿島町稗山遺跡（文献7）で出土している身が楕円形の組合せ式甕も、文様は無いが身の形状や大きさがほとんど一致するので同様の木製品の可能性が考えられる。

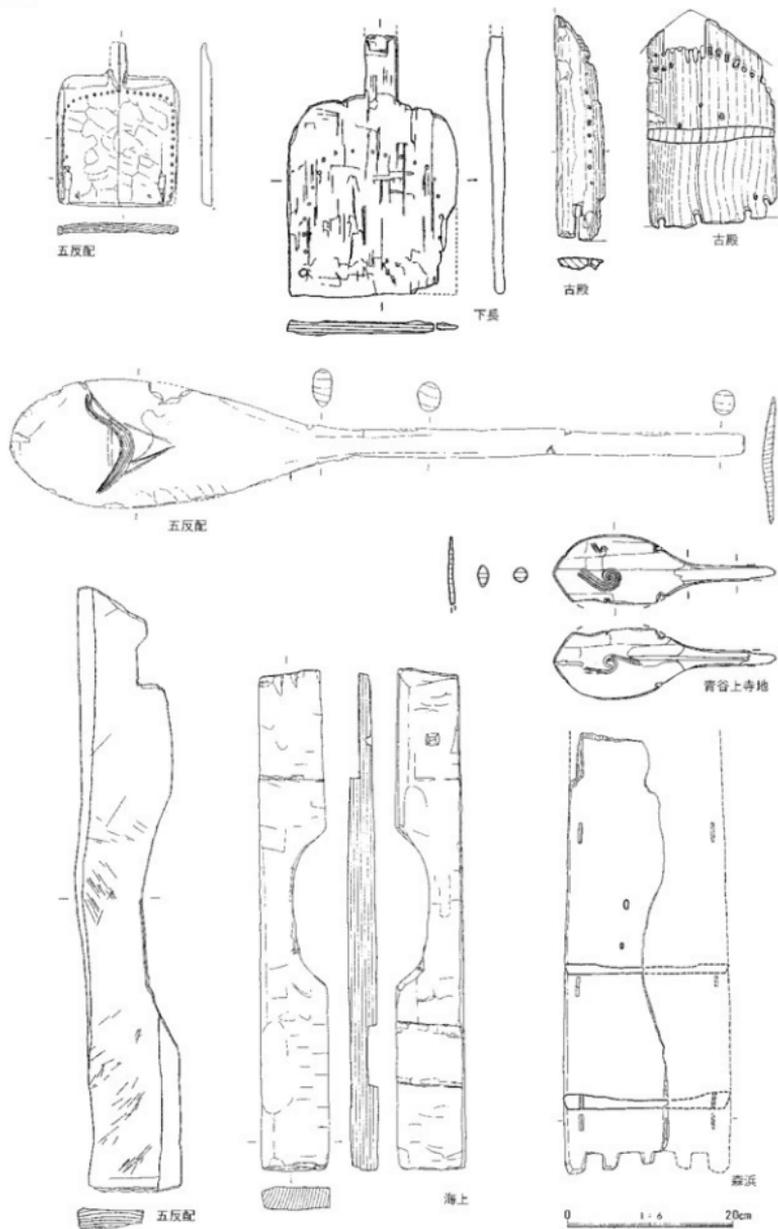
411～431のように板材の片方の側面に挟りを入れる木製品も、県内外で出土している。周辺では出雲市海上遺跡（文献6）で、312・313に似た部材の側面に挟りがあるものが報告されている。また、仁摩町大寺遺跡でも時期は不明だが同様の木製品が出土している。県外の類例はほとんど調べていないが、滋賀県森浜遺跡出土の琴上板（文献14・15）は、木目に沿って割れた部分の中央に挟りが入れている。五反配遺跡出土品も含めて板材を再利用したものが目立つ。以上、用途不明品の類例をいくつか挙げてきたが、今後は民俗例と比較しながら用途を検討する必要があると思われる。

4. おわりに

五反配遺跡の調査では、県内で類例の少ない弥生・古墳時代の水田耕作に関係する遺構が検出された。このような遺構は、調査例が少ないために特殊なものとして扱われがちで、周辺の同時期の遺構と関連づけて検討された例はあまり見ない。今回の調査のまとめとして、検出された遺構・遺物について単に同時期の類似する例と比較・分類するだけでなく、遺跡の立地する出雲大社周辺の集落の中でどのように位置づけられるのか検討してみたい。

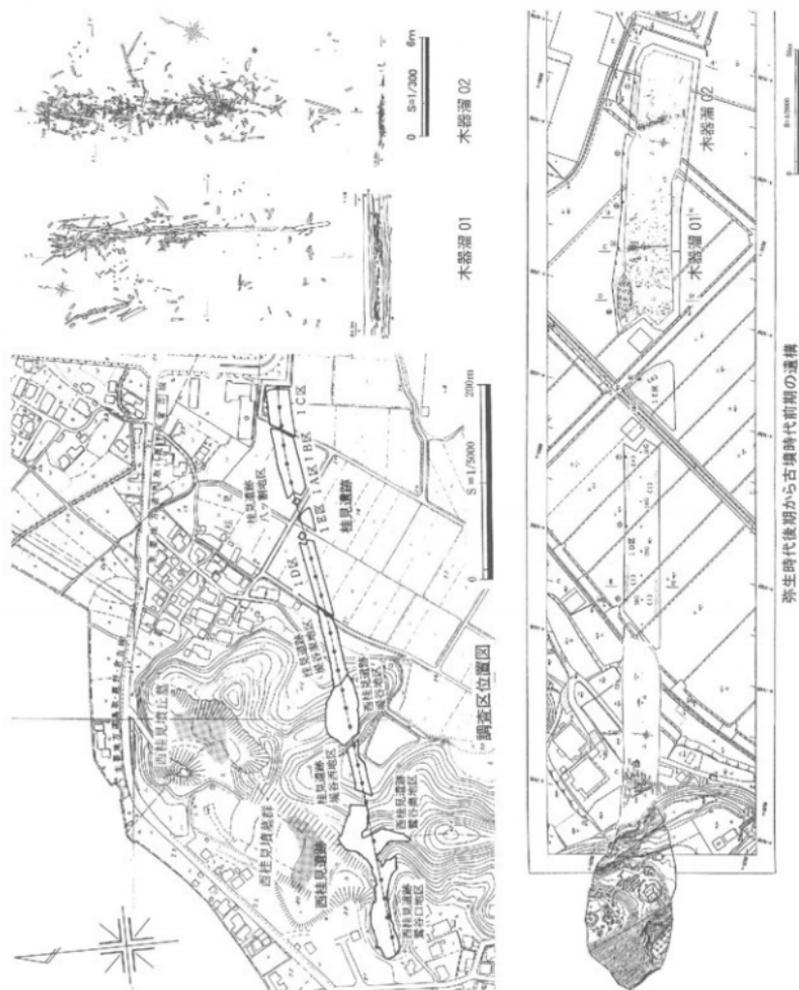
近年山陰地方では鳥取県西部の弥生時代後期を中心に集落の研究が盛んで、居住域や墓域、祭祀跡など集落全体の様子がわかる遺跡をモデルとし、各遺跡で検出された遺構が集落全体の中で

(8) 圓山 薫氏の御教示による。



第13図 五反配遺跡出土木製品と類似する木製品 S=1/6

どのように位置づけられるか検討され始めている。鳥根県で生産域（水田）や祭祀を含めた全体像を窺うことのできる集落遺跡の調査例が無いため、今回は鳥取県鳥取市桂見の遺跡群を参考にした。ここでは湖山地に面した丘陵の南側で居住域が検出され、北側には首長墓である西桂見墳丘墓をはじめ多数の墳墓が築かれている。この集落で五反配遺跡が参考にできるのは、多数の木製品が出土した桂見遺跡ハッ割地区で、弥生時代中期の自然河道が埋まった後に形成された木器



第14図 鳥取市桂見の集落遺跡

溜1・02である。それぞれ弥生時代後期、古墳時代前期の遺構とされ、付近で水田耕作が行われた可能性が高いと見られている。弥生時代中期に流れていた河道が埋まった後の遺構であるなど共通する部分があり、同様の遺構である可能性が考えられる。この遺構から西側の丘陵裾に位置する居住域までは約220mで、五反配遺跡の木組み遺構から北側の丘陵部までの距離もほぼ同程度である。このことから、五反配遺跡の水田を耕作していた集落の住人は、同時期の遺物が出土している遺跡北側の丘陵上に居住していたと考えて大過ないと言えよう。さらに、遺跡南東の砂丘に立地する原山遺跡（文献5）では、弥生時代後期の貼石墓と考えられる遺構も確認されている。原山遺跡が同じ集落の墓域にあたり、ここまで集落の範囲が広がる可能性が考えられる。また、祭祀関係では柱見の弥生集落から南西約1.2kmの高住の谷では銅鐻が1個出土している。五反配遺跡北側でも真名井遺跡で銅戈と勾玉が出土し、出雲大社境内遺跡で古墳時代前期の祭祀跡が確認されている。これまで弥生時代中期の遺物の出土量が少なくこの時期の集落の存在は不明だったが、今回の調査で水田耕作に関わったと考えられる弥生時代中期中葉から後期前葉の河道が確認されたことから、付近にこの時期の居住域が存在すると推測される。このほか、木組みや畦畔を構成する部材は、遺跡周辺の居住域で使用されていた可能性が高い。今後居住域が確認された場合、建物の構造や使用された雑具を考える重要な手がかりになると考えられる。

以上、五反配遺跡の発掘調査は、出雲平野部の弥生時代から古墳時代の集落象を、居住域・墳墓群・生産域・祭祀の面からより具体的に復元する資料を提供したと言える。

参考文献

- 1 鳥根県教育委員会 「姦久志遺跡・飯田C遺跡・古八幡付近遺跡」 1997
- 2 鳥根県教育委員会 「姫原西遺跡」 1999
- 3 鳥根県教育委員会 「三田谷1遺跡vol.3」 2000
- 4 大社町教育委員会 「修理免本郷遺跡」 1992
- 5 大社町 「大社町史 史料編」 2003
- 6 出雲市教育委員会 「海上遺跡」 2002
- 7 鹿島町教育委員会 「下谷遺跡・稗田遺跡」 1994
- 8 (財)鳥取県教育文化財団 「柱見遺跡—八つ刺地区・堤谷東地区・堤谷西地区—」 1996
- 9 (財)鳥取県教育文化財団 「青谷上寺地遺跡3」 2001
- 10 (財)鳥取県教育文化財団 「青谷上寺地遺跡4」 2002
- 11 兵庫県教育委員会 「五反山遺跡」 2002
- 12 兵庫県教育委員会 「人佐川遺跡」 2002
- 13 (財)京都府埋蔵文化財調査センター 「古殿遺跡」 1988
- 14 奈良国立文化財研究所 「木器集成図録 近畿原始編」 『奈良国立文化財研究所史料』第36冊 1993
- 15 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 「森浜遺跡発掘調査報告書」 1978
- 16 守山市教育委員会 「下長遺跡発掘調査報告書 Ⅷ」 2001
- 17 安土城考古博物館 「弥生の折り人—よみがえる農耕祭祀—」 1994
- 18 三重県埋蔵文化財センター 「六六A遺跡発掘調査報告(木製品編)」 2000
- 19 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 「額名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)」 1992
- 20 山陰考古学研究会集 『山陰の集落遺跡 第31回山陰考古学研究会集資料』 2003
- 21 内田律雄 「川を上る和服」 『古代近畿と物流の考古学』 2003 石野博信編 学生社
- 22 木の文化研究会 「第1回木の文化研究会資料」 2003

第4表 土器観察表(1)

図号	発掘 番号	年代 番号	種類	形状	出土層 No	出土 位置	口径 (mm)			用途・文様の用途	図案	土主	土底	備考
							一見	口径	底径					
1	21	46	縄文土器	高脚	04C	13				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元?
7	71	60	縄文土器	高脚	04C	3				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
3	21	40	縄文土器	高脚	04C	5				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
4	31	40	縄文土器	高脚	04C	7				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
5	31	40	縄文土器	高脚	04C	7				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
7	21	43	縄文土器	高脚	04C	9				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
8	21	40	縄文土器	高脚	04C	10				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
9	21	40	縄文土器	高脚	04C	9				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
13	31	40	縄文土器	高脚	04C	10				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	復元? 高脚
14	31	40	縄文土器	高脚	04C	9	11.51			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	1-2破片
15	31	40	縄文土器	高脚	04C	7-9	10.01			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	1-3破片
16	31	40	縄文土器	高脚	04C	11				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
21	31	40	縄文土器	高脚	04C	10				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	1破片
18	31	40	縄文土器	高脚	04C	5	9.8			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	1破片
19	31	40	縄文土器	高脚	04C	9		10.6		内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	1破片
20	31	40	縄文土器	高脚	04C	9				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	1破片
25	31	40	縄文土器	高脚	04C	10	10.01			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
28	31	41	縄文土器	高脚	04C	5-7-9				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
33	31	40	縄文土器	高脚	04C	10				内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
34	31	41	縄文土器	高脚	04C	3	10.25	6.1		内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2-1破片
23	31	41	縄文土器	高脚	04C	5-9-11	10.4	6.6	32	内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
26	31	41	縄文土器	高脚	04C	9	10.21			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
27	31	41	縄文土器	高脚	04C	9	10.31			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
28	31	41	縄文土器	高脚	04C	3-7	10.61			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
29	31	41	縄文土器	高脚	04C	9	10.0			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
30	31	42	縄文土器	高脚	04C	5	10.3			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
31	31	42	縄文土器	高脚	04C	10	10.21			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
32	31	41	縄文土器	高脚	04C	5	10.51			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
33	31	40	縄文土器	高脚	04C	11	10.41			内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
34	31	41	縄文土器	高脚	04C	7		6.2		内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
35	31	41	縄文土器	高脚	04C	9		4.4		内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片
36	31	43	縄文土器	高脚	04C	9	10.0	0.51	0.51	内径: 275 外径: 325	100mmの口径の 片・土器	内径: 275 外径: 325	内径: 275 外径: 325	2破片

第6表 土器観察表(3)

番号	調査年度	調査区画	調査地	調査内容	発掘	土器 (Lot)		用途・文相の特徴	形状	素材	数量	備考	
						種類	数						
69	25	41	土器区	瓦	CKE	3	13.5	上縁部が直上縁付	内：黒土質 外：黒土質、黒コハク土	内：黒土質 外：黒土質、黒コハク土	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土	2枚は埋蔵品あり	
70	25	41	土器区	瓦	AKT	6	12.5	上縁部は直上縁付 下縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質、黒コハク土	内：黒土質 外：黒土質、黒コハク土	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
71	25	44	土器区	瓦		1	13.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
72	25	44	土器区	瓦	AKT	4	12.8	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
73	25	45	土器区	瓦	CKE	2-4	12.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土	埋蔵品あり	
74	25	45	土器区	瓦	ANT, AN	4-7	13.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
75	25	46	土器区	瓦	CK	2	12.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
76	25	45	土器区	瓦	AKT	5		上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
77	25	45	土器区	瓦	CKT	4		上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
78	25	43	土器区	瓦	AKT, AN IL, BKBT	5-9 11	12.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土	埋蔵品あり	
79	25	42	土器区	瓦		4	13.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
80	25	48	土器区	瓦	AKT	4-5	13.5	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
81	25	46	土器区	瓦	AKT	7-8	13.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
82	25	43	土器区	瓦	AKT, AN IL, BKBT	7, 8, 9	11.4	10	3.0	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土	埋蔵品あり
83	25	46	土器区	瓦	AKT	4	13.2	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
84	26	45	土器区	瓦	AKT	1	12.5	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
86	25	45	土器区	瓦	AKT	5	12.5	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
88	25	45	土器区	瓦	AKT	5		上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
87	25	46	土器区	瓦	AKT	3-4	12.8	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
88	25	45	土器区	瓦	AKT	4-5	12.5	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
89	25	46	土器区	瓦	AKT	3	10.7	4.4	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土	
90	25	46	土器区	瓦	AKT	5		上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土		
91	25	46	土器区	瓦	AKT	3-4	11.9	3.8	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質、黒コハク土 外：黒土質、黒コハク土	
92	25	46	土器区	瓦	AKT	4	12.3	10.9	2.1	上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	埋蔵品あり
93	25	47	土器区	瓦	AKT	3-4			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
94	25	47	土器区	瓦	AKT	3			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
95	25	47	土器区	瓦	AKT	2			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
96	25	47	土器区	瓦	AKT	3-4			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
97	25	47	土器区	瓦	AKT	3-4			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
98	25	47	土器区	瓦	AKT	1			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
99	25	47	土器区	瓦	AKT	1			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
100	26	47	土器区	瓦	AKT	3-4			上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質		
101	26	47	土器区	瓦	AKT	4	10.0		上縁部は直上縁付	内：黒土質 外：黒土質	内：黒土質 外：黒土質	埋蔵品あり	

第7表 土器観察表(4)

発掘 番号	発見 番号	形状	器名	土器の 分類	器口	寸法(mm)			胎土・文様の特徴	胎土	胎色	備考			
						高さ	口径	底径							
102	26	47	土師器	形	ANL	C		16.4				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：16mm以下の 刷毛痕	23A-400号 (23Y962)	
103	26	47	土師器	形				16.3				内：土師ナテ 外：刷毛ナテ	径：16mm以下の 刷毛痕	本館蔵 (23Y962)	125号
104	26	47	土師器	高台付 形								内：刷毛ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：16mmの刷毛 痕あり	内：黒褐色 (23Y83) 外：黒褐色 (23Y82)	125号 内径に土師器の 特徴あり
105	26	47	土師器	高台付 形	ANL	3		5.7 (4.9×6.4)				内：刷毛ナテ 外：土師ナテ	径：5.7mmの刷毛 痕あり	黒褐色 (23Y962)	125号
106	26	47	土師器	形	ANL	3		5.7				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：5.7mmの刷毛 痕あり	黒褐色 (23Y962)	125号
107	26	47	土師器	形	ANL	4		(5.1)				内：土師ナテ 外：刷毛ナテ	径：5.1mm以下の 刷毛痕	内：黒褐色 (23Y83) 外：黒褐色 (23Y82)	125号 内径に土師器の 特徴あり
108	26	47	土師器	形	ANL	3		5.9				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：5.9mmの刷毛 痕あり	黒褐色 (23Y962)	125号
109	26	47	土師器	形	ANL	4		6.1				内：土師ナテ 外：土師ナテ	径：6.1mmの刷毛 痕あり	黒褐色 (23Y962)	125号
110	26	47	土師器	形	TY	3	(12.0)	(5.4)	4.5			内：土師ナテ 外：土師ナテ 外：刷毛痕あり	径：5.4mmの刷毛 痕あり	黒褐色 (23Y962)	125号 内径に土師器の 特徴あり
111	26	47	土師器	形	TY	3		6.2				内：土師ナテ 外：土師ナテ 外：刷毛痕あり	径：6.2mmの刷毛 痕あり	黒褐色 (23Y962)	125号
112	26	47	土師器	形	TY	4		6.2				内：土師ナテ 外：土師ナテ 外：刷毛痕あり	径：6.2mmの刷毛 痕あり	黒褐色 (23Y962)	125号
113	26	48	土師器	形	ANL 土師器	4	(11.2)	(5.0)	3.6			内：土師ナテ 外：土師ナテ 外：刷毛痕あり	径：5.0mm以下の 刷毛痕	黒褐色 (23Y83)	125号
114	26	48	土師器	形	ANL 土師器	4		(5.4)				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：5.4mm以下の 刷毛痕	黒褐色 (23Y83)	125号
115	26	48	土師器	形	土師器	3		(5.1)				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：5.1mm以下の 刷毛痕	黒褐色 (23Y82)	125号
116	26	48	土師器	形	ANL	3		3.2				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：3.2mm以下の 刷毛痕	黒褐色 (23Y83)	125号
117	26	48	土師器	形	ANL 土師器	3		3.6				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：3.6mm以下の 刷毛痕	黒褐色 (23Y83)	125号
118	26	48	土師器	形		4		2.5				内：土師ナテ 外：土師ナテ	径：2.5mm以下の 刷毛痕	黒褐色 (23Y82)	125号
119	26	48	土師器	形	ANL 土師器			3.8				内：土師ナテ、刷毛痕あり 外：土師ナテ	径：3.8mm以下の 刷毛痕	黒褐色 (23Y82)	125号
120	26	48	土師器	形	ANL	3 4 5						内：土師ナテ、土師器 外：土師ナテ、土師器	径：3.4mm以下の 刷毛痕	内：黒褐色 (23Y83) 外：黒褐色 (23Y82)	125号
121	26	48	土師器	形	CAL	3						内：土師ナテ		黒褐色 (23Y82)	土師器の土師器 特徴あり

第8表 石器観察表

発掘 番号	発見 番号	形状	器名	土器の 分類	器口	寸法(mm)			胎土・文様の特徴	胎土	胎色	備考	
						長さ	幅	高さ					
10	21	63	打石片	DEG	7	5.1	7.9	1.6				16ナテ型 (23Y962)	打石片の形状、当該の12ナテ、24ナテ と類似。
11	21	63	打石片	ANL	5	5.7	8.3	1.5				16ナテ型 (23Y962)	土師器、12ナテと類似するものあり。
123	26	15	石片	ANL	3	5.6	8.3	3.7				黒褐色 (23Y962)	黒褐色 (23Y962)
132	26	49	石片	ANL	6.75	2.7	3.2					黒褐色 (23Y962)	注記欄参照してください。
177	26	49	石片	ANL	3	5.9	4.9	3.2				黒褐色 (23Y83)	6.6mmの長さ
430	48	48	石片	ANL	5							黒褐色 (23Y82)	

第9表 鉄器観察表

発掘 番号	発見 番号	形状	器名	土器の 分類	器口	寸法(mm)			胎土・文様の特徴	胎土	胎色	備考	
						長さ	幅	高さ					
103	26	18	鉄片	CAL	3	19.0	3.3	3.2				DEG型 (4.9mm以下の長さ)	観察が良好によりみられている。

第10表 木製品観察表(1)

産地 番号	材種 番号	材名	種別	品目	出产地	規格	寸法(cm)			特徴	劣化 状態	備 考
							長さ	幅	厚			
12	21	51	産地不明		BF区	13	80.1	9.5	1.5		スギ ○ 肉厚とくげれが腐化している	
22	26	51	青森	樫	BF区	3	3.0	4.1	0.45		○ 肉厚には腐、肉厚には腐化は認められる	
20	26	51	徳島	杉	AN区 新野郡	4b	38.5	9.8	7.6		○ 1方の端を削って尖らせる。反対側は削られている。	
28	27	51	上野	杉	C区	7	55.3	16.5	9.4		○ 両側面は、葉を削るよう斜めに削られている。使用済み。	
29	27	51	上野	杉	D区	押出	67.7	12.5	9.0		○ ケヤキ ○ 2と削りの境が明確にくびれる。使用済み。	
30	27	51	上野	杉	C区	7	43.5	15.3	10.5		○ アカギ ○ 2と削りの境が明確にくびれる。使用済み。	
32	27	51	奈良	直割杉	A区	11	20.5	7.2	1.3		○ 使用済み	
32	27	51	奈良	直割杉	A区	7	30.0	11.5	1.5		○ アカギ ○ 葉を削った。刃は二又で平	
33	28	51	奈良	直割杉	C区	7	76.7	18.5	1.6		○ アカギ ○ 葉を削った。刃は二又で平	
34	28	51	奈良	直割杉	A区	11	70.5	9.8	2.1		○ アカギ ○ 葉を削った。刃は二又で平	
35	28		奈良	州	D区	7	36.2	2.2	2.2		○ 肉厚が腐化しており、反対は肉厚。腐化は丸みを帯びる。	
36	28	52	奈良	直割杉	C区	9	20.7	15.7	2.0		○ アカギ ○ 葉を削った	
37	29	52	奈良	一本杉	A区	8	99.8	10.6	2.0		○ アカギ ○ 肉厚は腐化せず、削りの先が平に削られている。	
38	29	52	奈良	一本杉	C区	9	85.4	12.0	3.0		○ アカギ ○ 肉厚は腐化せず、削りの先が平に削られている。	
39	29	52	奈良	一本杉	A区	7	18	7.1	1.2		○ アカギ ○ 葉を削った	
40	30	53	奈良	田下杉	A区	9	38.0	26.0	2.0		○ スギ ○ 4孔式。孔は不整形で大きい。	
42	30	53	奈良	田下杉	B区	4	38.5	28.8	1.4		○ スギ ○ 4孔式。孔は方形。角を丸く削る	
44	30	53	奈良	田下杉	B区	9	17.5	28.9	2.4		○ スギ ○ 4孔式。孔は方形。	
45	30	53	奈良	田下杉	D区	7	33.5	33.5	1.8		○ スギ ○ 4孔式。孔は方形。角を丸く削る	
144	31	201	奈良	田下杉		7	40.6	9.1	2.0		○ スギ ○ 孔は方形。角を丸く削る	
144	31	53	奈良	田下杉	C区	7	35.8	7.2	2.1		○ 葉を削った。葉の先が削られている。角を丸く削る。	
146	31	53	奈良	田下杉	C区	7	41.0	20.8	2.4		○ スギ ○ 4孔式。葉を削った。葉の先が削られている。	
147	31	53	奈良	田下杉	AN区	5	35.3	12.5	2.0		○ スギ ○ 八角形で3孔式。肉厚にも孔を削る。	
148	31	53	奈良	田下杉	AN区	5	38.3	12.0	1.5		○ スギ ○ 八角形で3孔式。肉厚にも孔を削る。	
149	31	53	奈良	田下杉			39.3	12.0	2.0		○ スギ ○ 3孔式。葉面に孔を削る	
150	32	54	奈良	田下杉		4	32.3	10.3	2.5		○ スギ ○ 4孔式	
151	32	54	奈良	田下杉	D区	7	42.0	10.0	2.0		○ スギ ○ 3孔式。葉面	
152	32	54	奈良	田下杉	D区	4	39.0	10.5	2.0		○ スギ ○ 3孔式。葉面	
153	32	54	奈良	田下杉	C区	4	31.2	1.5	1.0		○ スギ ○ 先端が丸く削られている	
154	32	54	奈良	田下杉	B区	4	23.5	12.3	2.6		○ スギ ○ 先端が丸く削られている	
155	33	54	奈良	田下杉	A区	7	10.5	5.7	1.6		○ スギ ○ 孔が4つある。肉厚は腐化	
156	33	54	奈良	田下杉		4	25.5	3.0	3.7		○ スギ ○ 先端が丸く削られている	
157	33	54	奈良	田下杉			45.0	2.1	1.1		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
158	33	54	奈良	田下杉			82.5	3.5	3.3		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
160	33	55	奈良	田下杉	C区	9	17.6	2.1	1.1		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
161	33	55	奈良	田下杉	C区	9	24.5	2.5	1.8		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
162	33	55	奈良	田下杉	D区	7	33.2	32.6	6.2		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
163	33	55	奈良	田下杉		4	56.0	12.0	2.0		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
164	33	55	奈良	田下杉	D区	7	50.0	12.0	2.0		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
165	34	55	奈良	田下杉	A区	7	124.5	12.3	1.8		○ スギ ○ 肉厚が腐化	
166	34	56	奈良	田下杉	C区	7	113	33	1.5		○ スギ ○ 上下に多量の孔があり、肉厚が腐化。中央に大きい肉厚の孔が所と取り付く腐化がある。	
167	34	56	奈良	田下杉							○ 7小片に腐化する。一部肉厚に赤錆がある。径1~2mmの小孔あり。	
168	35	56	奈良	田下杉	A区	11	18.2	9.2		0.7	アブノ?	○ 肉厚に黒点状の腐化がある
169	35	56	奈良	田下杉	A区	11	12.3	10.7		4.5	イタヤキ	○ 肉厚が腐化している。木製品
170	35	56	奈良	田下杉	C区	7	71.0	10.0	0.5	3.7	ヤマブキ	○ 肉厚が腐化している

第11表 木製品観察表(2)

動物 番号	採集 番号	種名	品目	出产地	単位	寸法(cm)			質量	保存 状態	備 考	
						縦	横	高				
171	35	36	杉材	西沢川	9	13.0	2.0	3.3	ヤマガタ	○	底面は角台の上に張り出す。	
172	35	56	杉材	A区河	11	12.5	2.0	4.2	ヤマガタ	○	底面が短く張り出す。外面が平	
173	35	56	杉材	西沢川	7	7.2	5.6	1.2			表面に板の厚みが4分所なり。裏面から直径1cmの孔を2つつける。裏面には両側の筋線あり	
174	33	57	杉材	西沢川	7	25.7	13.3		7	スギ	○	11cm厚に2か所筋線があり、両側の孔が開けられる。
175	36	37	杉材	C区河	7	26.0	8.0	1.0	6.7	スギ	○	底面の角が丸く加工される
176	36	37	杉材	B区河	8	30.0	20.0		8.5	スギ	○	底面の角が大きく加工される
177	35	57	杉材	西沢川	5	26.7	4.4	1.8	8.9	スギ	○	手間は正方形
178	36	57	杉材	西沢川	8	27.1	5.8		3.8			底面の筋線が深い。やや小形
179	36	57	杉材	西沢川	7	13.7		1.1	3.2	スギ	○	内面が深く凹む。底面に両方の筋の筋線がある。
180	36	57	杉材	西沢川	7	47.0	5.0	3.0		ヤマガタ	○	平置に張り出す。両側は板状に張り出す。
181	37	38	杉材	C区河	7	51.5	10.0	1.2		スギ	○	底面の角が大きく加工される。筋線がある
182	37	38	杉材	C区河	7	76.0	13.3	2.3	9.3	スギ	○	大形
183	37	38	杉材	C区河	7	15.4	3.5	26.8		スギ	○	
184	37	38	杉材	西沢川	11.5	2.8	26.5			スギ	○	内面に筋線が張り出す。底面に両方の筋線がある。
185	37	38	杉材	西沢川	7	6.3	0.8	19.0		スギ	○	内面に筋線が張り出す。
186	38	59	杉材	A区河	7	12.0	3.5	40.0		スギ	○	板が 2枚あり。
187	38	59	杉材	B区河	7	21.0	4.3	76.0		スギ	○	内面に筋線が張り出す。底面に両側の筋線がある。
188	38	59	杉材	B区河	7	18.0	2.4	32.0		スギ	○	内面に筋線が張り出す。底面に両側の筋線がある。
189	38	59	杉材	西沢川	8	23.0	13.3	1.3		スギ	○	短小形
190	38	60	杉材	西沢川	4	22.0	10.3	1.0		スギ	○	底面に両側の筋線がある
191	38	60	杉材	西沢川	5	45.0	20.0	1.5		スギ	○	底面に両側の筋線がある
192	39	60	杉材	西沢川	4	25.0	8.5	3.2	6.5			底面の角が丸く加工される。
193	39	60	杉材	西沢川	8	22.5	9.0	2.0	12.8	スギ	○	底面に両側の筋線が張り出す。両側の筋線が張り出す。
194	39	60	杉材	西沢川	7	28.5	11.5	2.0	12.0	スギ	○	底面に両側の筋線が張り出す。
195	40	61	杉材	C区河	7	63.0	14.0	1.7	8.9	スギ	○	底面の角が丸く加工される。
196	40	61	杉材	A区河	11	41.0	17.0	2.6		スギ	○	底面に両側の筋線がある
197	40	61	杉材	B区河	7	51.2	13.4	1.6				底面に両側の筋線がある
198	41	61	杉材	西沢川	7	62.0	19.5	3.0		スギ	○	底面に両側の筋線がある
199	41	61	杉材	西沢川	9	45.5	19.5	2.5		スギ	○	底面に両側の筋線がある
200	41	61	杉材	西沢川	7	34.5	16.1	2.3		スギ	○	底面に両側の筋線がある
201	42	62	杉材	西沢川	7	56.1	22.2	2.0		スギ	○	底面に両側の筋線がある
202	42	62	杉材	A区河	4	39.2	20.0	2.8		スギ	○	底面に両側の筋線がある
203	42	62	杉材	B区河	8	37.0	9.0	1.8	5.7	スギ	○	底面に両側の筋線がある
204	42	62	杉材	D区河	9	23.5	10.0	0.9		スギ	○	底面に両側の筋線がある
205	42	62	杉材	A区河	8	17.8	6.7	0.9		スギ	○	底面に両側の筋線がある
206	42	62	杉材	C区河	4	21.5	8.0	1.5		スギ	○	底面に両側の筋線がある
207	43	63	杉材	西沢川	9	31.0	14.7	2.4		スギ	○	底面に両側の筋線がある。小孔あり
208	43	63	杉材	西沢川	7	33.0	9.9	1.5		スギ	○	底面に両側の筋線がある。小孔あり
209	43	63	杉材	B区河	8	32.0	14.0	1.7		スギ	○	底面に両側の筋線がある。小孔あり
210	43	63	杉材	A区河	7	33.5	12.2	1.8				底面に両側の筋線がある
211	43	63	杉材	D区河	9	30.0	10.3	1.7		スギ	○	底面に両側の筋線がある
212	43	63	杉材	D区河	7	29.2	4.7	2.0		スギ	○	底面に両側の筋線がある
213	43	63	杉材	A区河	9	20.7	1.6	2.2		スギ	○	底面に両側の筋線がある
214	43	63	杉材	A区河	9	20.6	7.8	2.0		スギ	○	底面に両側の筋線がある
215	44	64	杉材	C区河	11	8.2	1.8	3.6		スギ	○	底面に両側の筋線がある
216	44	64	杉材	D区河	7	24.6	1.8	4.2		スギ	○	底面に両側の筋線がある
217	44	64	杉材	西沢川	8	45.7	15.6	1.4				底面に両側の筋線がある。底面に両側の筋線がある

第12表 木製品観察表(3)

産物 番号	寸法 番号	品別	品目	寸法 部位	寸法(mm)			仕様	備考				
					底	幅	高						
218	44	64	襦袢部材	裾区河邊	8	83	13.0	1.8		○	縫い目で2か所を縫合する		
219	44	64	襦袢部材	CNR	4	60.9	15.6	1.3			方形の孔を2か所、円形と方形の孔を2か所開ける		
220	44	64	襦袢部材	C区河邊	7	48.2	15.2	1.3			小孔を1か所開ける		
221	44	64	襦袢部材	D区本縫み	4	48.0	9.9	1.6			6ヶ所に孔を開ける。縁部は丁寧な加工で取手のカーブをつける		
222	44	65	襦袢部材	A区河邊	7	32.1	6.0	1.2			両側が長く加工される		
223	44	65	襦袢部材	B区河邊	5	32.2	8.3	2.0			裾部を斜めに加工する		
224	45	65	襦袢部材	A区河邊	8	34.7	6.9	1.3			片側を斜めに作り出す。方形の孔または縫いあり		
225	45	65	襦袢部材	BSX	5	40.2	7.5	1.6			片側部を斜めに切欠く。片方の先端が突出している		
226	45	65	襦袢部材	B区河邊	4	43.3	6.8	1.8			途中で幅の幅がなくなる		
227	45	65	襦袢部材		5	39.4	8.1	2.0			片側部に大小の孔を入れる		
228	45	65	襦袢部材	D区本縫み	7	44.1	7.4	1.4			片方形の孔を2か所、L字の2か所開ける。幅の取が当たって1箇所がある		
229	45	65	襦袢部材			51.1	12.9	1.3			長方形の孔が2か所ある		
230	45	65	襦袢部材			63.7	13.8	2.1			片側を斜めに切欠く。長方形の孔を2か所開ける		
231	45	65	襦袢部材	CNR	7	52.1	12.8	1.8			楕円形の孔を2か所開ける		
232	45	65	襦袢部材		7	62.7	10.6	2.1			方形の孔を1か所開ける。片側の先端が突出している		
233	45	65	襦袢部材			38.2	22.4	2.9			幅の裾部に長方形の孔を開け、両側に取手を入れる		
234	46	66	襦袢部材			95	5.0	1.1			○	円形の孔を1か所開ける。花に本質が残存する	
235	46	66	襦袢部材	3区本縫み	11.6	7.0	1.4				○	円形の孔が2か所あり	
236	46	66	襦袢部材	C区河邊	7	140.5	6.5	1.4			○	片側部に円形の孔を2か所開ける	
237	46	66	襦袢部材	CNR	4	63.1	6.9	1.1				2か所を縫い合わせる。木目に沿って縫った後、片方の先端を斜めに切欠く	
238	46	66	襦袢部材	B区河邊	9	49.0	9.2	1.3				円形の孔を2か所開ける	
239	46	66	襦袢部材			63.5	6.0	1.5				長方形の孔が1か所、L字の2か所開ける	
240	46	66	襦袢部材	B区河邊	8	53	8.0	2			○	L字の2か所開ける。幅の裾がなくなる	
241	46	66	襦袢部材		8	23.7	2.2	1.2				239～245と一対で1セット	
242	46	66	襦袢部材	B区		11.2	3.6	2.1				方形の穴1ヶ所、両側及び真ん中に1ヶ所ずつの穴がある	
243	46	66	襦袢部材			29.9	4.4	1.4				片方の側部を斜めに切欠く。長方形の孔を2か所開ける	
244	46	66	襦袢部材	D区本縫み	4	58	6	3.2			○	方形の切欠きがあり、斜めに貫通する方形の孔が1か所ある	
245	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	48.1	2.4	2.3				両側に縫いがある。245・252・256は1組で1セット	
246	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	46.8	2.7	1.4				両側に縫いがある	
247	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	47.7	2.7	1.4				両側に縫いがある	
248	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	47.0	3.1	2.1				両側に縫いがある	
249	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	42.1	7.1	3.4				2層を突らせる。上層は紐を縫いつけ、クランクを作る	
250	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	21.6	11.9	3.6				2層を突らせる。上層は紐を縫いつけ、クランクを作る	
251	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	72.9	2.8	1.6				紐の幅が当たった部分がなくなる。先端は縫って縫く	
252	47	67	襦袢部材	B区河邊	8	71.8	3.2	1.4				紐の幅が当たった部分がなくなる。先端は縫って縫く	
253	47	67	襦袢部材	B区河邊	7	43.8	3.8	2.3				1層に縫いがある	
254	47	67	襦袢部材	A区河邊	7	52.7	3.1	2.5				1層に縫いがある	
255	47	67	襦袢部材			75.5	7.4	2.0			ヒノキ?	○	斜めに切欠きがある。両側は斜めに縫い合わせる
256	47	67	襦袢部材		8	105.6	2.9	2.4				2層に縫い合わせる	
257	47	67	襦袢部材	A区河邊	9	95.6	3.3	2.7				金糸に縫い合わせる。縫い合わせる	
258	48	68	襦袢部材	A区河邊	7	66.6	6.6	4.7				縫い合わせる。裏面に縫い合わせる。丁寧な加工で取手は縫い合わせる	
259	48	68	襦袢部材	D区河邊	7	39.3	5.1	4.0				縫い合わせる。裏面に縫い合わせる。丁寧な加工で取手は縫い合わせる	
260	48	68	襦袢部材		7	34.2	4.5	3.9			ヒノキ?	○	縫い合わせる。裏面に縫い合わせる

第13表 木製品観察表(4)

資料番号	品名	用途	原料	出产地	樹種	寸法(mm)				特徴	保存状態	備考			
						長	幅	厚	高						
261	48	08	箱見花材		C区河豆	7	54.1	4.8	4.5		ヒノキ	○	先溝にホゾを作り出す。ホゾには縦が既在し、他の材と重ね合わせた痕跡が見る		
262	48	08	箱見部分		D区本組み	-	77.5	3.0	2.7		スギ	○	糸輪にホゾを作り出す		
263	48	08	箱見部分				79.2	3.3	3.8		スギ	○	先溝を深く加工し、宙込みを入れる。		
264	49	08	巻箱部分	膝子	D区栗	7	141	17.6	3.4	9.6			○	一本膝子	
265	49	08	巻箱部分	膝子	C区	7	105.2	17.8	4.0	8.4			○	一本膝子。下側に掛りがある	
266	50	09	巻箱部分	膝子			93.7	19.5	4.2	9.7			○	一本膝子。下側に掛りがある	
267	50	09	巻箱部分	膝子	C区河豆	7	34.4	16.6	9.3					板に取用されている	
268	50	09	巻箱部分	膝子	A区栗	9	49.2	10.4	7.8					足掛けが 部残存する。薄い	
269	50	09	巻箱部分		D区栗	9	94.6	14.0	2.4					長方形の孔が2か所あり、1か所は斜めに貫通する。横溝に溝あり。	
270	50	09	巻箱部分		C区河豆	7	87.2	23.1	2.5					横溝は斜めに加工される。斜な孔が2か所開けられる。	
271	51	09	巻箱部分		D区本組み	7	108.8	13.2	2.1					長方形の孔が斜めに開けられる。下板を斜めに切製している。	
272	51	09	巻箱部分		C区河豆	7	134	14.4	4				○	長方形の孔が4か所あり。片方の横溝が斜めに加工される。	
273	51	70	巻箱部分		B区	7	211.5	21.0	1.8				○	端部が斜めに斜めに切製される。	
274	51	70	巻箱部分		C区	4	218.6	10.0	1.6					長方形の孔が7か所以上ある。横溝は深く加工し宙込みが欠ける	
275	51	70	巻箱部分			4	12.1	39.9	2.4					端部は丁寧に加工され、角がとれて丸くなっている。	
276	52	70	巻箱部分		C区河豆	7	134.0	19.7	1.7					方形や楕円形の孔が多数開けられる。	
277	52	70	巻箱部分		C区	4	129.9	19.1	2.3					縦溝が斜めに加工され、孔が多数ある。	
278	52	70	巻箱部分		C区本組み	4	177.4	18.0	2.0	5.4				○	内側の突起が2か所開けられる。
279	53	71	巻箱部分		C区河豆	7	107.7	16.6	2.9					○	内凹し、方形の孔がある。孔に木質が見える。
280	53	70	巻箱部分			7	96.0	23.0	2.6					○	長方形の孔が2か所、小孔が14か所開けられる。掛り付けの縦溝あり。
281	53	71	巻箱部分		B区河豆	8	96.8	17.4	1.7					小孔が2つ集まる。片方の横溝を削ぐ。	
282	53	71	巻箱部分			8	100.1	18.9	2.6					長方形の孔を1つ削、小孔を5か所削ける。両端が丸くなる。	
283	53	71	巻箱部分		B区河豆	8	84.8	14.6	2.7					片方の横溝に宙込みで長方形の孔が開けられる。	
284	54	71	巻箱部分		C区河豆	7	117.1	25.1	2.8					片方の横溝に宙込みで方形の孔が4か所開けられる。	
285	54	71	巻箱部分		C区河豆	8	108.5	16.0	1.3					○	方形の孔を2か所削ける。横溝には2回1回と小孔、10を削ける。角の端削あり。
286	54	71	巻箱部分		B区	4	97.0	18.0	2.0					片方の横溝の中央に宙込みを入れる。2回1回の孔あり。	
287	54	71	巻箱部分		A区本組み	-	93.9	13.5	2.1					方形の孔2と別り付けの縦溝あり。裏板に縦溝	
288	54	72	巻箱部分		D区本組み	7	74.5	16.4	1.7					方形の孔を3か所削ける。	
289	55	71	巻箱部分		C区河豆	7	140.2	8.8	1.7					○	方形の孔を2か所削ける。孔の縁が 破断している。
290	55	72	巻箱部分		A区栗、C区河豆	7-11	123.6	13.6	2.4					○	横溝が斜めになる長方形の孔2か所とその他の孔がある。
291	55	72	巻箱部分		C区河豆	7	201.9	7.3	2.7					○	横溝に方形の孔が3か所開けられる。板に取用
292	55	72	巻箱部分		C区河豆	7	94.5	6.5	1.8					○	先溝に宙込み作り出す。長方形の孔が斜めに削ける。縦溝が斜めになる。
293	55	72	巻箱部分		A区北朝鮮	-	35.5	9.0	3.2					○	宙込みのある斜溝。横溝に丁寧に加工により角を入れる。宙込みの孔を2か所削ける。
294	56	72	巻箱部分		C区河豆	7	71.7	9.5	2.3					○	長方形の孔を4か所削ける。裏板に縦溝。
295	56	72	巻箱部分		B区河豆	8	63.7	12.1	1.8					○	方形の孔あり。
296	56	72	巻箱部分		C区河豆	-	84.6	10.4	3.0					○	横溝に方形の孔を3か所削ける。小孔3、横溝に掛りあり。
297	56	72	巻箱部分		A区栗	11	78.9	8.6	2.7					○	横溝に斜めに削ける。裏板に縦溝がある。長方形の孔が2か所ある。
298	56	73	巻箱部分		B区河豆	-	62.0	19.7	4.7					○	板の中央に丸い孔がある。裏板に縦溝。

第14表 木製品観察表(5)

図例 番号	品名	種別	品目	出上地点	樹種	寸法(mm)			樹材	検査 箇所	備考	
						長	幅	厚				
299	56	73	建築材	C区河辺	7	138.9	25.3	2.6			入墨の孔と方形の小孔が所在。先端に紐着	
300	57	73	建築材	D区河辺	9	47.2	22.8	0.0			先端の方形の孔がある。	
301	57	73	建築材	B区河邊	8	90.6	24.1				先端に紐着。先端の加工は厚さが異なる。	
302	57	73	建築材	C区河邊	7	108.1	49.0	4.0			先端に紐着。	
303	58	73	建築材	B区河邊	8	95.9	2.8	3.0			片側が半に切取される。先端に紐着。	
304	58	73	建築材			81.6	9.6	3.5			端部を斜めに切取り、先端に紐着。	
305	38	73	建築材	D区河邊	7	123.5	13.3	2.7			先端を丁寧に加し、先端に紐着。	
306	38	73	建築材	C区河邊	7	140.1	37.6	3.3			上部がへこみがある。加工で打った痕跡が。	
307	59	74	建築材	B区河邊	8	164.5	17.5	1.6			両側に半に切取。	
308	59	74	建築材	B区河邊	8	200.6	20.3	2.8			片側を木目に沿って削り、先端を斜めに切取り、先端に紐着。	
309	59	74	建築材	C区河邊	7	207.1	9.7	2.7			小断面に長方形の孔。横に紐着。加工で打った痕跡あり。	
310	59	74	建築材	D区河邊	7	216.5	17.9	1.7			片側に2箇所の孔あり。	
311	59	74	建築材	C区河邊	7	252.9	18.2	2.9			両側の断面を半に削り、先端に紐着。	
312	60	74	建築材	C区河邊	7	61.5	26.1	6.9			厚手で、端部はくぼみ、方形のくぼみ、小孔がある。	
313	60	74	建築材			69.9	8.4	3.6			木目に沿って削り、先端に紐着。3箇所に紐着する。	
314	60	74	建築材	C区河邊	7	50.4	12.2	6.2			端部は厚く削り、先端に紐着。	
315	61	75	建築材	D区河邊	7	94.8	11.3	3.5			端部を丁寧に削り、先端に紐着。	
316	61	75	建築材	C区河邊	7	110.8	8.6	10.0		○	断面に長い紐を受ける部分を作り出す。受け筋は突出する。	
317	61	75	建築材	B区河邊	8	125.0	13.0	9.0		○	円形に反る。両側面に斜めに紐が着る。	
318	61	75	建築材	B区河邊	8	77.4	7.6	5.0		○	先端。方形の孔にヤブが残存する。先端が強化されている。	
319	62	75	建築材	C区河邊	—	130.5	11.8	5.5			断面が斜めに削り出す。長方形の孔と2箇所に紐着に切取あり。	
320	62	75	建築材	C区河邊	5	37.5	7.1	3.9			斜めに削って加工。断面は方形と考えられる。長方形の切り欠きがある。3箇所に紐着。	
321	62	75	建築材	梁又は家業	ASR	4	247.0	9.6	9.0		○	断面が斜めに加工する。両側に切り欠きがある。
322	62	75	建築材	柱	D区河邊	8	198.	8.8	6.5			先端を削って長に使用。反対側もや削る加工する。
323	63	76	建築材	A区河邊	7	89.2	3.9	6.6		○	先端を凸状に作り出す。反対側に方形の孔が切り欠きあり。	
324	63	76	建築材	木材	A区河邊	—	87.0	13.0	5.0		○	断面は半に削り、斜めを受ける部分に2箇所に紐着あり。断面は加工されている。
325	63	76	建築材	木材	A区河邊	—	82.1	11.0	5.4			断面は加工。斜めを受ける部分に2箇所に紐着あり。
326	63	76	建築材	木材	A区河邊	—	82.0	9.0	7.5		○	他の材を受ける部分がある。受け筋は突出している。
327	64	77	建築材	C区河邊	9	141.0	7	8		○	断面を斜めに削り、先端に紐着。反対側もや削る加工する。	
328	64	77	建築材	C区河邊	7	96.0	8.6	6.0		○	先端を凸状に作り出す。斜めに削る。加工で打った痕跡が。	
329	64	77	建築材	C区河邊	7	130.8	9.7	7.0			他の材を受ける部分あり。先端を削る。	
330	65	77	建築材	C区河邊	7	115.3	6.2	4.4			断面は両側削り。片方の先端を半に削り、先端に紐着。	
331	65	77	建築材	B区河邊	8	114.2	5.8	3.5			断面は両側削り。片方の先端を半に削り、先端に紐着。斜めに加工されている。	
332	65	78	建築材	D区河邊	7	102.2	9.5	4.6			断面を半に削り、一方の先端を半に削り、先端に紐着。断面は加工されている。	
333	65	77	建築材	D区河邊	5	99.6	5.4	3.9			断面を半に削り、一方の先端を半に削り、先端に紐着。	
334	65	78	建築材	B区河邊	8	40.9	4.5	2.9			断面を半に削り、先端を半に削り、先端に紐着。木目に沿って削り、先端に紐着。	
335	66	77	建築材	C区河邊	K	112.3	5.4	3.7			断面に削りがある。	

第15表 木製品観察表(6)

植物群号	学名(学名)	科名	産地	出土地点	器名	寸法(mm)			材種	保存状態	備考	
						長	幅	厚				
336	66	78	陸奥部分	BS式	5	61	6.0	2.8			端部がくびれる。全体に加工が浅い。	
337	66	78	陸奥部分	C形河辺	7	96.5	6.6	2.9			端部がくびれる。全体に加工が浅い。	
338	66	77	陸奥部分	D形木組み	—	101.4	4.5	4.5			上方の端部に欠けを入める。	
339	68	78	陸奥部分	D形木組み	7	176.4	5.2	4.1			端部に欠け跡あり。	
340	66	78	陸奥部分	常水	D形木組み	7	165.0	7.0	3.5		○	上方の端部に欠けを入める。
341	67	78	陸奥部分	常水	BS式	6上厚	176.4	7.0	6.0		○	3面はくびれた状態で出土。河原に切り欠きあり。上
342	67	78	陸奥部分	常水	C形河辺	7	120.0	1.1	3.1			先端を削り縮くする。
343	67	78	陸奥部分	常水	D形木組み	4	120.4	4.7	2.7			端部にくびれがある。
344	67	79	陸奥部分	常水	BS河原	—	79.3	4.7	2.7			小目に沿って割り、次に削削。
345	67	79	陸奥部分	常水	A形木組み	—	49.6	5.6	3.5			上下ともV字に削削。墨い材を組込んだと考えられる。
346	67	79	陸奥部分	常水	D形木組み	7	174.2	3.5	1.3			両側を削削。溝で土圧により削削する。
347	68	79	陸奥部分	常水	D形木組み	7	152.0	2.8	2.8			縦方向削削。溝で土圧により削削する。
348	68	79	陸奥部分	常水	D形木組み	7	156.3	3.8	2.3			縦方向削削。溝で土圧により削削する。
349	68	79	陸奥部分	常水	A形木組み	—	64.2	8.8	8.0			貫に加工。
350	68	79	陸奥部分	常水(多角形)	A形河辺	7	49.3	0.4	7.3			傾斜を丁寧に削削。
351	68	79	陸奥部分	常水	D形河辺	9	51.1	13.3	11.8			先端を削削して加工し、次に削削。
352	68	79	陸奥部分	常水	A形河辺	7	51.8	1.9	7.3			先に削削した先端を両側から削削する。
353	68	79	陸奥部分	常水	D形木組み	—	80.1	12.0	7.5			3面より削削を留めておく。両側は削削した部分がある。
354	68	79	陸奥部分	常水	D形木組み	—	92.6	10.1	6.1			3面を削削する。
355	69	79	陸奥部分	常水	BS河原	8	92.9	12.7	10.3			先端を削削してやや縮くする。
356	69	79	陸奥部分	常水	A形木組み	—	86.6	15.6	15.1			先端を削削して鋭く削削。
357	69	80	陸奥部分	常水	C形河辺	9	41.5	6.1	4.0			先端を削削して鋭く削削。
358	69	80	陸奥部分	常水(丸)	C形河辺	—	35.5	3.8	3.5			両面に削削が浅い。
359	69	80	陸奥部分	常水(平)	A形河辺	8	32.2	14.2	6.7			両面を削削し、平に加工する。
360	69	80	陸奥部分	常水	D形溝	位置	41.2	6.3	6.0			先端は削削が浅く欠ける。
361	69	80	陸奥部分	常水	A形木組み	7	114.2	5.5	5.1			両面を削削する。
362	69	80	陸奥部分	常水	C形河辺	7	114.2	4.4	4.9			削削を削削して欠ける。
363	69	80	陸奥部分	常水	D形溝	位置	201	8.9	9.2			先端のみ加工(丸頭のみ削削)。
364	70	80	陸奥部分	常水	C形河辺	7	139.0	6.7	5.9			両方に削削の加工し、反対にV字に削削する。
365	70	80	陸奥部分	常水	D形河辺	9	162.1	4.9	5.3			先端に加工あり。削削としての加工が削削の痕跡が不明。
366	70	80	陸奥部分	常水(丸)	BS河原	8	136.2	6.2	7.3			先端を削削して加工する。
367	70	80	陸奥部分	常水(丸)	D形溝	9	154.4	8.1	6.9			片方の面に加工し、反対にV字に削削する。
368	70	80	陸奥部分	常水(丸)	D形溝	7	219.1	5.9	5.9			両面に加工。一方は削削の痕跡の可能性あり。
369	70	80	陸奥部分	常水(丸)	BS河原	6	207.8	5.9	4.9			3面はくびれた状態で出土。
370	71	81-82	丹波不明品		C形木組み	7	19.0	10.5	1.0		★	○ 270-271は組合せられた状態で出土。観察や加工を決定する材料が残り少ない。
371	71	81-82	丹波不明品		C形木組み	7	12.0	5.0	1.7		★	○ 削削。小刻や丸が浅く欠ける。
372	71	81-82	丹波不明品		C形河辺	7	20.5	14.8	1.1		★	○ 多数の小刻や丸がある。
373	71	81-82	丹波不明品		C形河辺	7	19.0	3.8	1.3		★	○ 削削。木刻や丸が浅く欠ける。
374	71	81-82	丹波不明品		C形河辺	7	7.0	2.2	1.3		★	○ 削削。木刻や丸が浅く欠ける。
375	71	81-82	丹波不明品		C形河辺	7	5.1	1.8	0.8		★	○ 削削。両面に丸がある。
376	71	81-82	丹波不明品		C形河原	7	6.0	1.8	0.5		★	○ 削削。両面に丸がある。
377	71	82	丹波不明品		C形河原	7	22.5	1.8	1.2		★	○ 270-271と厚さ面で出土。
378	71	82-88	丹波不明品		BS式	5	22.5	3.1	1.5		★	○ 両面に削削状の痕跡を認められる。両面に丸あり。削削あり。
379	71	83	丹波不明品		BS河原	8	37.8	1.3	1.3			270-271はそのまま出土。加工や加工で先端を削削加工する。
380	71	83	丹波不明品		BS河原	8	35.7	1.3	1.3			加工や加工で先端を削削加工する。
381	71	83	丹波不明品		BS河原	8	33.2	1.6	1.4			加工や加工で先端を削削加工する。
382	71	83	丹波不明品		BS河原	8	4.9	1.3	1.3			加工や加工で先端を削削加工する。
383	71	83	丹波不明品		BS河原	8?	58.5	1.2	1.2			加工や加工で先端を削削加工する。
384	71	83	丹波不明品		BS河原	8	25.4	1.2	1.2			加工や加工で先端を削削加工する。
385	71	83	丹波不明品		BS河原	8	19.1	1.3	1.2			加工や加工で先端を削削加工する。

第16表 木製品観察表(7)

品別 品名	種別 品名	種別 品名	品目	出上地点	年代	寸法(mm)			形状	保存 状態	備 考	
						長	幅	厚				
386	71	83	用途不明品			24.6	1.7	1.4			先端を削り尖らせる。	
387	71	82	用途不明品	A区西首	7	23.2	11.8	1.3			両側に尖らせる。	
388	71	81	用途不明品	A区西首	9	22.2	8.7	1.8			丁寧に削り、た門前の孔が4つある。	
389	72	83	用途不明品	D区西首	7	18.3	21.5	1.7	スズ	○	六角形で方形の小孔を4か所開ける。	
390	72	83	用途不明品	A区西首	8	18.4	21.2	1.6			六角形の後に方形4か所、不整形な角の小孔を開ける。六角形の穴には木質がある。	
391	72	83	用途不明品	AS区	4	30.6	17.0	1.0	スズ	○	角を丸く削下している。中央に斜になる半月状の孔を削け、周囲に幅広い孔を4か所開ける。	
392	72	83	用途不明品	CN区	4	39.8	7.4	1.8			両面甲に2か所ずつ狭りを入れ、先端は斜めに切斷される。	
393	72	81	用途不明品	BS区	5	24.0	9.0	2.1	スズ	○	表面に凹みが目立つ。底面は丁寧な加工で丸く加工される。	
394	72	81	用途不明品	D区河邊	7	9.5	12.7	1.6			六角形に孔の縁が2か所ある。角は丸くなる。	
395	72	83	用途不明品		4	17.2	3.4	1.0	セノキ?	○	六角形に方形の孔が4か所開けられる。	
396	72	83	その他	もえさし	7	20.7	3.7	2.6			鋭く切削した後使用されている。	
397	72	84	その他	もえさし	SD02	9	29.9	2.0	0.9			先端が尖っている。
398	72	84	用途不明品	AN区	7	50.9	2.7	1.6			木目に沿って削られる。先端に最初の加工で、傾斜に門前の孔がある。	
399	72		用途不明品			32.1	4.5	3.5			木目に沿って削られる。使用によるものが、両端の角が丸くなって入っている。	
400	73	84	用途不明品	C区河邊	9	89.3	16.0	2.8	シノキ?	○	「書」は平面木製で、外縁が滑くなすり削りがある。	
401	73	84	用途不明品	D区河邊	深淵	81.5	20.5	2.3	シノキ	○	底面は丁寧に表面が作られ、底面は斜めに切斷される。方形の小孔が2か所あり、中央には金属製の穂が多数ある。	
402	74	84	用途不明品	BS区		36.2	4.6	1.2			しごもじ形で、中央に長方形の孔が削りあり。	
403	74	83	用途不明品	B区河邊	8	56.5	24.3	2.7			片方の先端に狭りを入れる。全体に削り加工。	
404	74	84	用途不明品	C区河邊	7	31.8	10.6	3.2			根の端部から中心まで方形の狭りがある。	
405	74	83	用途不明品	B区河邊	8	66.8	13.1	1.8			両面を斜めに削り、1削りを作り出す。	
406	74	84	用途不明品		7	20.3	5.3	1.0	スズ	○	片方の角を丸く削下する。	
407	74	81	用途不明品	A区河邊	9	32.2	6.5	1.1	スズ	○	片方の角を丸く加工する。	
408	74	83	用途不明品	C区河邊	7	91.3	21.3	3.3			表面に硬化した部分がある。断面は両面削る。	
409	75	85	用途不明品	楡材木製品	C区河邊	7	100.4	23	3.6		○	両側の断面、斜め部分の切斷で方形の孔がある。木製品か。
410	75	86	用途不明品	D区木組み	7	91.7	21.5	2.9	スズ	○	「書」は厚さが均一で削っている。「削」は角材で切斷が鋭い。	
411	76	86	用途不明品	狭り入り楡材	CN区	4	33.1	5.4	1.2			片方の側面中央を狭りに削り、両端は斜めに切斷する。
412	76	86	用途不明品	狭り入り楡材	B区河邊	7	45.0	9.5	1.0			片方の側面中央を狭りに削り、両端は斜めに切斷する。
413	76	86	用途不明品	狭り入り楡材	C区河邊	7	50.0	9.0	1.0			片方の側面中央を狭りに削り、両端を斜めに切斷する。
414	76	86	用途不明品	狭り入り楡材		66.7	12.2	1.2			片方の側面中央を狭りに削り、両端を斜めに切斷する。	
415	76	86	用途不明品	狭り入り楡材	C区木組み	7	69.8	13.4	1.7			片方の側面中央を狭りに削り、両端を斜めに切斷する。
416	76	86	用途不明品	狭り入り楡材	B区河邊	8	52.3	17.6	10.0			片方の側面中央を狭りに削り、両端は斜めに切斷する。
417	76	86	用途不明品	狭り入り楡材	B区河邊		43.6	15.2	2.3			416と似た形状。中央で切斷されている。
418	76	87	用途不明品	狭り入り楡材	CN区	4	98.2	12.0	1.9			片方の側面中央を狭りに削り、両端は斜めに切斷する。
419	76	87	用途不明品	狭り入り楡材	D区木組み	4	38.5	7.7	1.3			片方の側面中央を狭りに削り、両端は斜めに切斷する。
420	76	87	用途不明品	狭り入り楡材	A区河邊	7	36.1	9.7	0.6			片方の側面中央を狭りに削り、両端は斜めに切斷する。

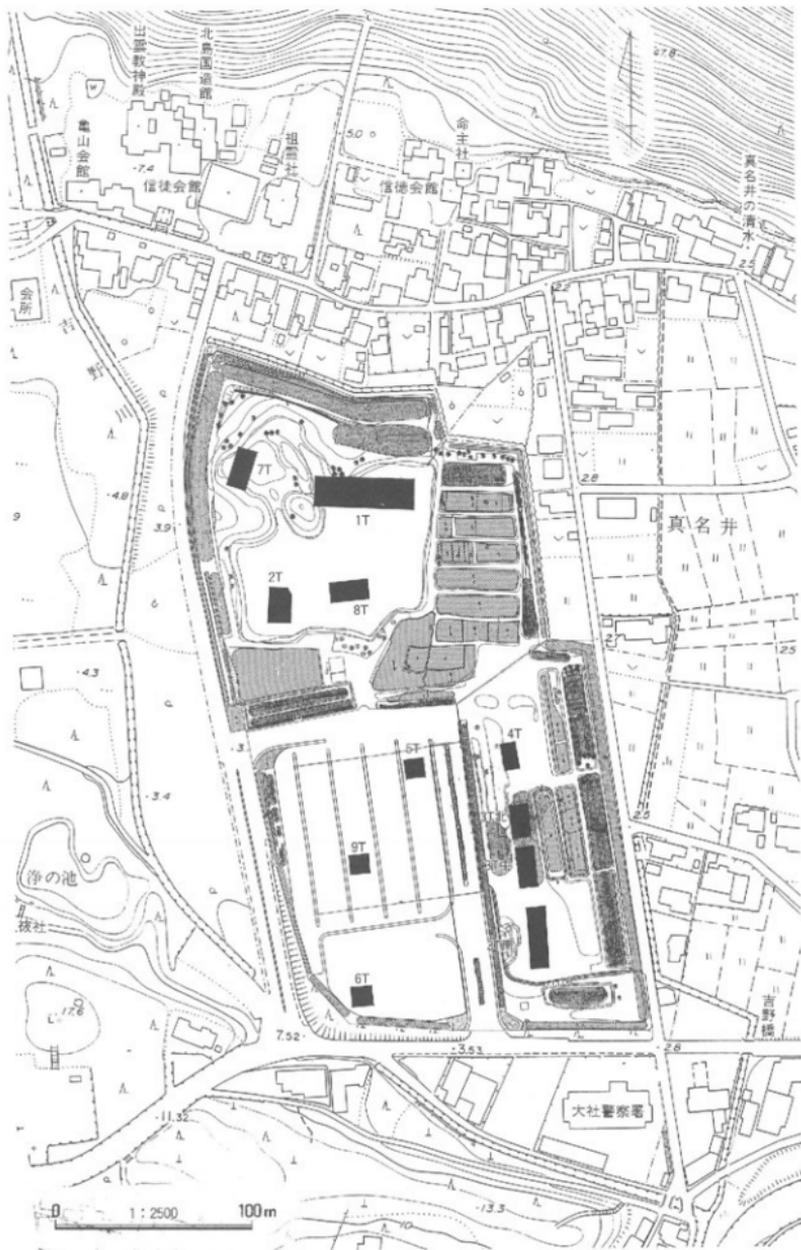
第17表 木製品観察表(8)

産物番号	採伐番号	種別	品名	出土地点	樹位	寸法(mm)				板種	保存状況	備考
						長	幅	厚	高			
421	76	87	用途不詳品 鉄り入り板材	D区河邊	7	58.9	17.5	2.1			片方の縁部中央を弧状に鉄る。表面に虫食痕の痕がある。	
422	77	87	用途不詳品 鉄り入り板材	B区峠		71.8	22.9	2.3			片方の縁部中央を広く鉄る。	
423	77	87	用途不詳品 鉄り入り板材	D区河辺	8	69.8	26.7	2.0			片方の縁部を、大きく弧状に鉄る。	
424	77	87	用途不詳品 鉄り入り板材	D区河邊	7	80.2	29.4	1.5			片方の縁部中央を弧状に鉄る。小孔がある。	
425	77	87	用途不詳品 鉄り入り板材	D区本組み	7	80.4	16.2	3.1			片方の縁部を大きく弧状に鉄る。	
426	77	87	用途不詳品 鉄り入り板材	B区河邊	8	76.9	15.2	21.0			片方の縁部中央を鉄る。片方の孔が2ヶ所ある。	
427	77	87	用途不詳品 鉄り入り板材	C区本組み	7	74.2	11.3	2.5			片方の縁部に弧状の鉄りと小さな虫食痕の鉄りがある。	
428	78	87	用途不詳品 鉄り入り板材		9	83.6	16.1	2.8			片方の縁部中央を広く鉄る。	
429	78	87	用途不詳品 鉄り入り板材	D区本組み	7	86.4	12.8	2.1			片方の縁部を弧状に鉄る。	
430	78	87	用途不詳品 鉄り入り板材	C区河邊	9	100.3	13.0	1.6			片方の縁部を広く鉄る。	
431	78	87	用途不詳品 鉄り入り板材	C区河辺	9	111.6	13.8	1.7			片方の縁部中央を弧状に鉄る。一部はぼやけに作り出す。	

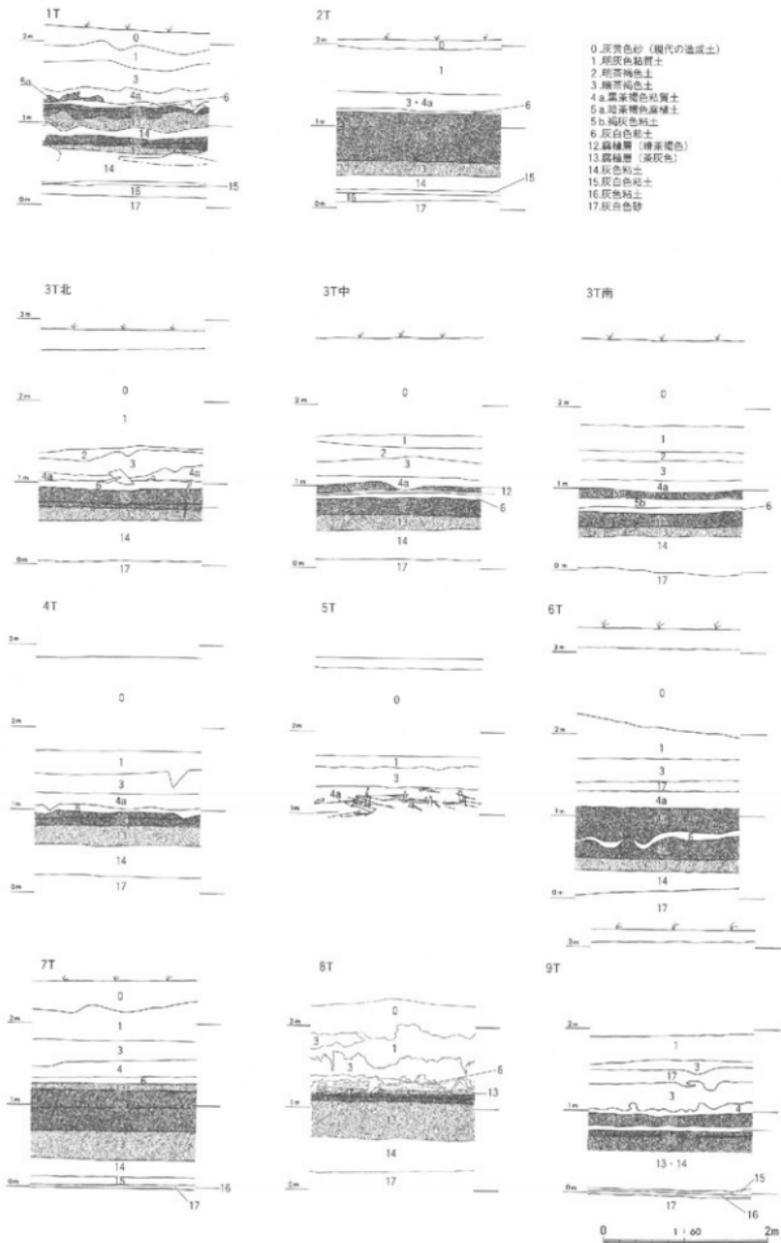
第18表 木製品観察表(9)

産物番号	採伐番号	種別	品名	出土地点	樹位	寸法(mm)				板種	保存状況	備考
						長	幅	厚	高			
432		32	農具 銜柄平板		5	32.6	9.5	1.5		カバノキ	○	
433		32	農具 銜柄平板	A区深	9	52.8	3.9	1.1		アカガシ	○	葉部を折つ。刃部は扁平
434		32	農具 一本平鋸	B区河邊	8	26.5	11.5	0.6		アカガシ	○	身は直線的に刃部になる
435		38	容器 壺	A区河邊	7	42.0	8.0	2.0		スギ	○	器底が低い。
436		38	容器 壺	C区河邊	9	29.9	6.3	1.1	6	スギ	○	大型品か
437		38	容器 壺	B区河邊	8	38.5	4.5	1.8	4	アカガシ	○	平皿は長方形で器底が深い。
438		38	容器 壺	A区深	9	42.1	7.0	1.5		スギ	○	側面の角が広く削られる。
439		38	容器 壺	B区河邊		57.5	13.5		5	スギ	○	縁を丸く削りする。底部に溝が彫られる。孔が3ヶ所ある。
440		38	容器 壺	CS	4	46.5	9.0	2.0	5	ヒノキ	○	器底より側面の器壁が厚い。
441		38	容器 壺	發	7	20.5	8.0	2.0		スギ	○	器底より側面の器壁が厚い。
442		60	容器 割物桶	B区河邊	8	19.5	11.5	3		スギ	○	内面に黒色物が塗布される。
443		39	容器 割物桶	CS区	4	30.0	19.5	2.7		スギ	○	上下を欠削する。
444		64	器具部材 鋸	D区河邊	7	23.5	4	3.5		ナリ	○	鋸部を欠削する。
445		68	器具部材 鋸	B区河邊	4	44.0	4.5	4.0		スギ	○	機軸、鉄りがある。
446		72	器具部材 鋸	A区河邊	11	91.5	22	1		○	片方と側面一面の鉄りがある。	
447		73	器具部材 鋸	C区河邊	7	140.0	36.5	2.5		○	器底と同地点で折す。	
448			器具部材 鋸	D区本組み	7	260	22	2		○	片方の縁部のはば中央に鉄りがある。	
449		87	その他 鋸	A区深	11	2.0				○		

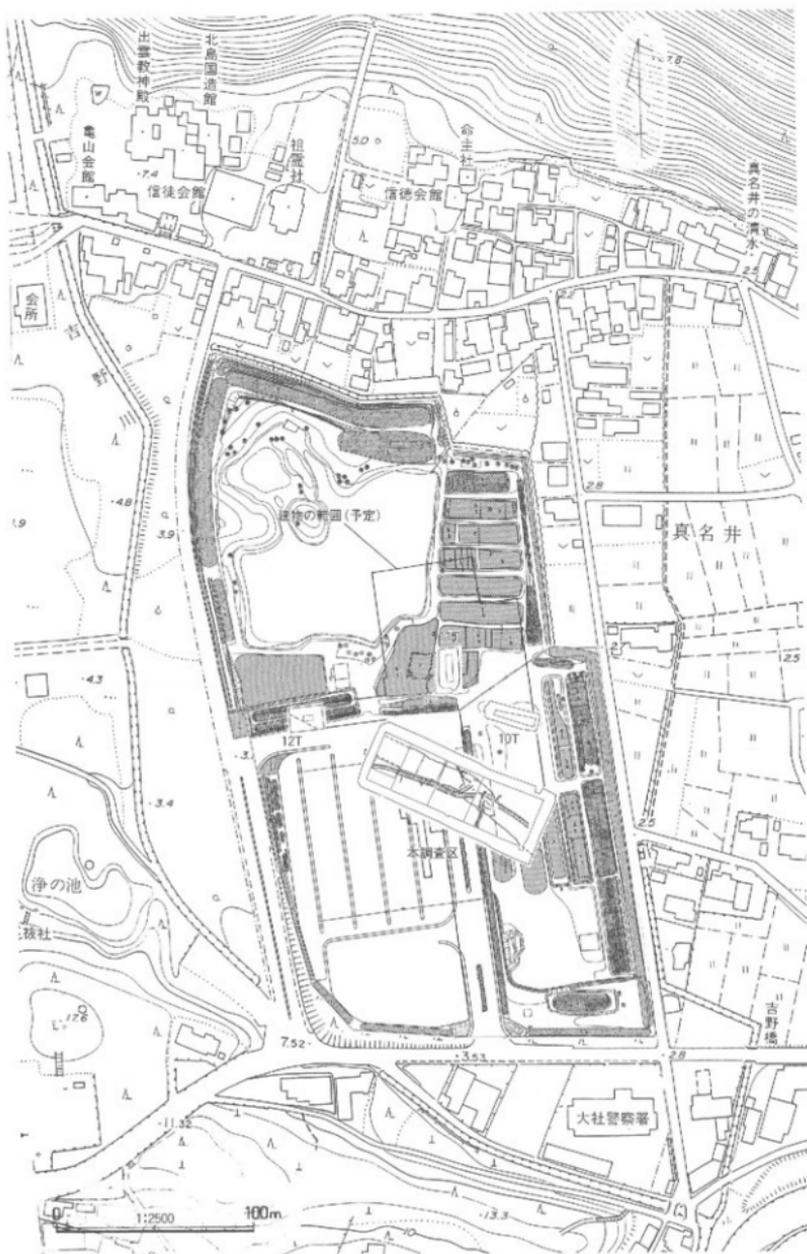
圖 版



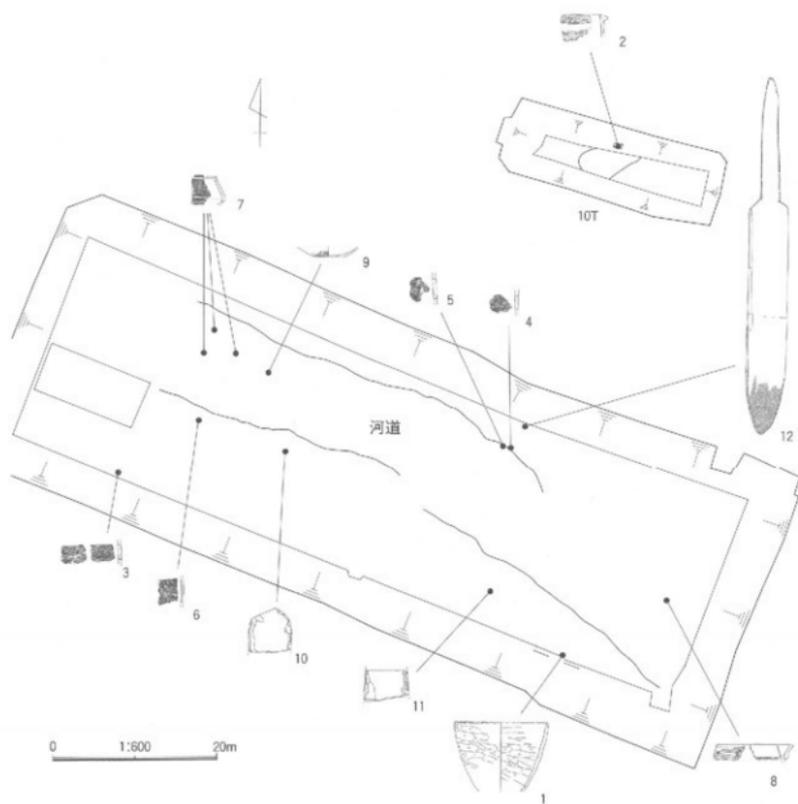
平成13年度確認調査トレンチ配置図 S=1/2500



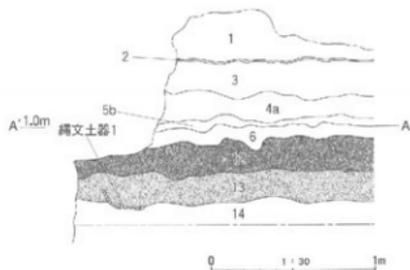
トレンチ土層断面図 S=1/60



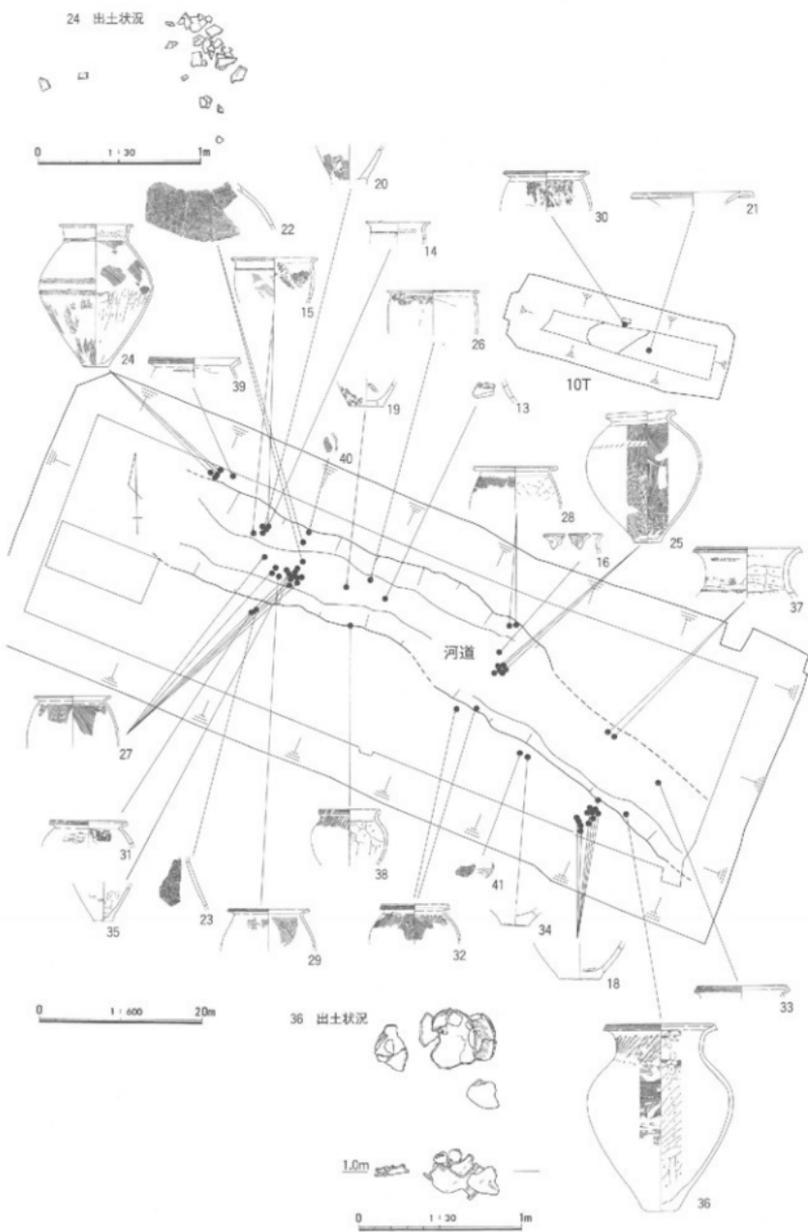
平成14年度調査区配置図 S=1/2500



- 1. 明灰色粘質土
- 2. 明茶褐色土
- 3. 暗茶褐色土
- 4a. 黒茶褐色粘質土
- 5b. 明灰色粘土
- 6. 灰白色粘土
- 12. 麻櫛蓋 (暗茶褐色)
- 13. 麻櫛蓋 (茶灰色)
- 14. 灰色粘土



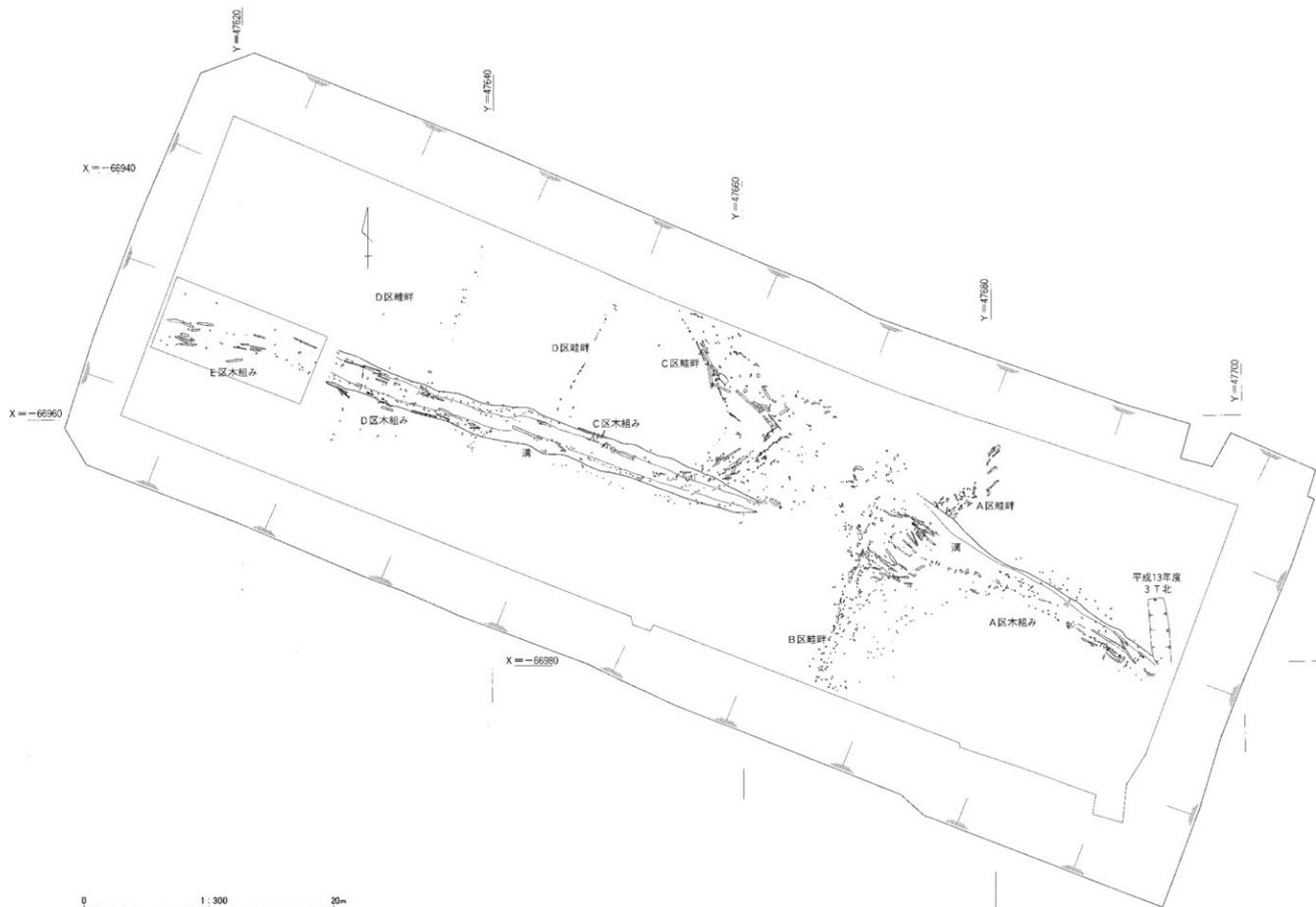
縄文時代の遺物出土状況 S = 1 / 600、土層断面は S = 1 / 30



弥生土器出土状况 S = 1 / 600



- 1 明灰色粘質土 (河溝埋土)
- 2 明茶褐色土
- 3 暗茶褐色土
- 4a 基茶褐色粘質土
- 5a 暗茶褐色粘質土
- 6 灰白色粘土
- 7 暗褐色土 (河溝埋土)
- 8 暗褐色土 (河溝埋土)
- 9 暗褐色土 (6層のブロックを多く含む。河溝埋土)
- 11 黄灰色土 (溝埋土)
- 12 暗褐色土 (溝埋土)
- 13 暗褐色土 (溝埋土)
- 14 灰白色粘土

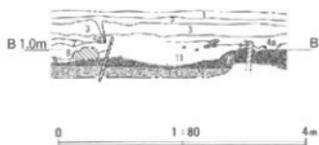
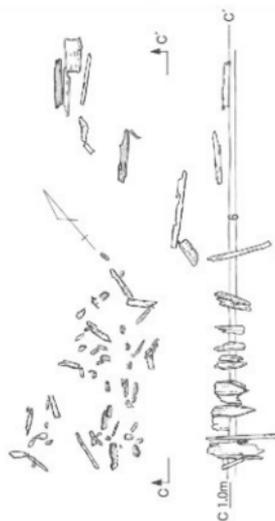


古墳時代の遺構 S = 1 / 300

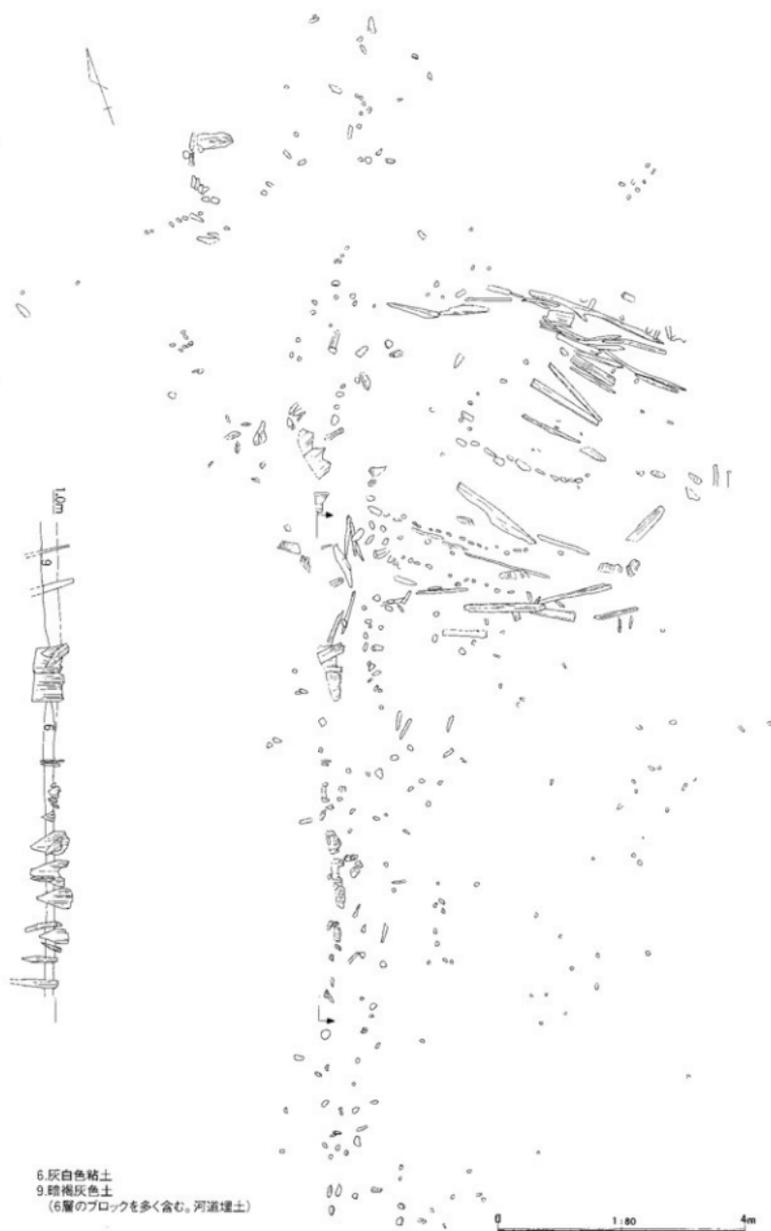
A区溝および木組み



A区北側畦畔

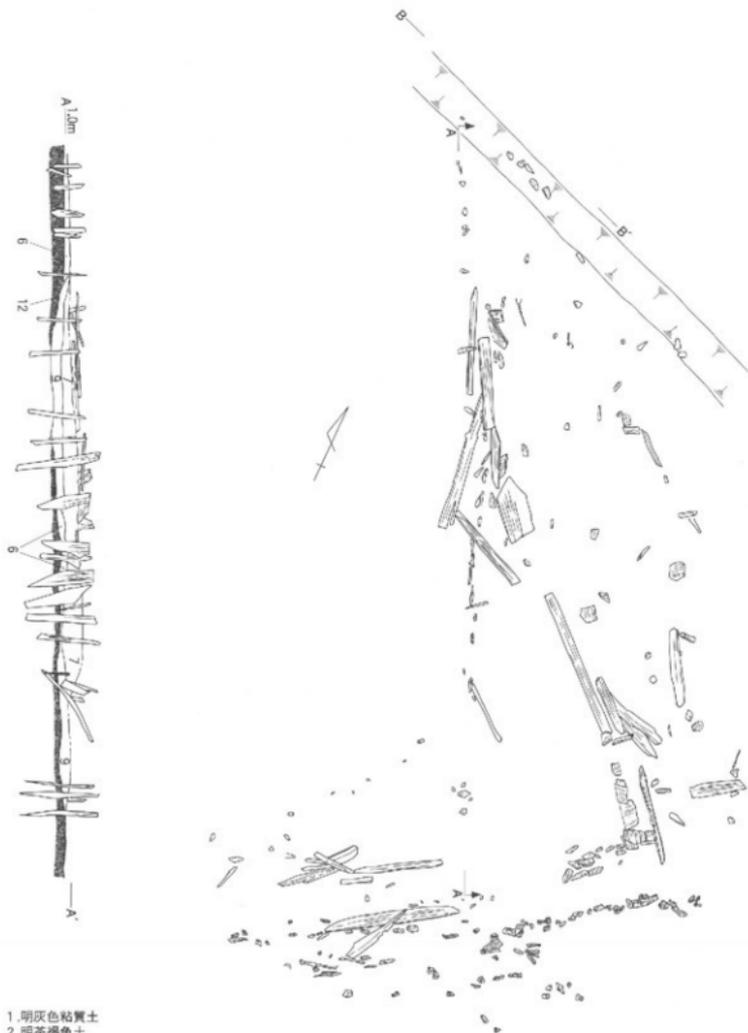


1. 明灰色粘質土
2. 明茶褐色土
3. 暗茶褐色土
- 4 a. 黒茶褐色粘質土
7. 暗褐色土 (河道埋土)
8. 暗褐色土 (河道埋土)
9. 暗褐色土 (6層のブロックを多く含む。河道埋土)
11. 黄灰色土 (溝埋土)
12. 腐植層 (暗茶褐色)
13. 腐植層 (茶灰色)

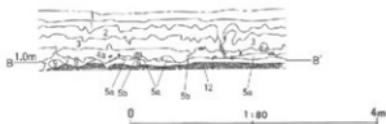


6.灰白色粘土
9.暗褐色土
(6層のブロックを多く含む。河道埋土)

B区畦畔 S=1/80



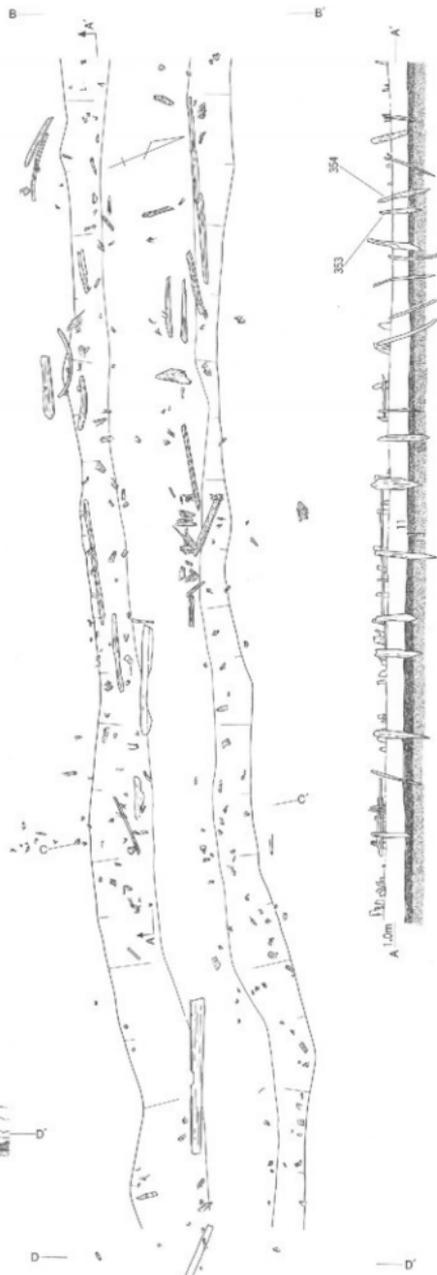
1. 明灰色粘質土
2. 明茶褐色土
3. 暗茶褐色土
4. 黒茶褐色粘質土
- 5a. 暗茶褐色腐植土
- 5b. 暗灰色粘土
6. 灰白色粘土
7. 暗褐色土 (河道埋土)
9. 暗褐色土 (6層のブロックを多く含む。河道埋土)
12. 腐植層 (暗茶褐色)



C区北側畦群 S = 1/80



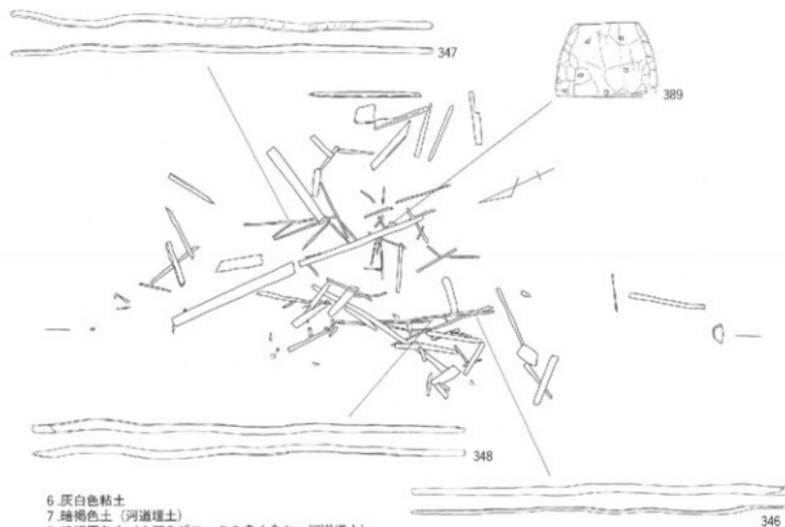
- 3 暗茶褐色土
- 4a 黄茶褐色粘質土
- 6 灰白色粘土
- 7 暗褐色土 (河道埋土)
- 9 暗褐色土 (6層のブロックを多く含む、河道埋土)
- 11 黄灰色土 (濃埋土)
- 12 腐植層 (暗茶褐色)
- 13 腐植層 (茶灰色)



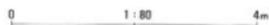
D区溝および木組み S=1/80



D区北側矢板列 S = 1/80

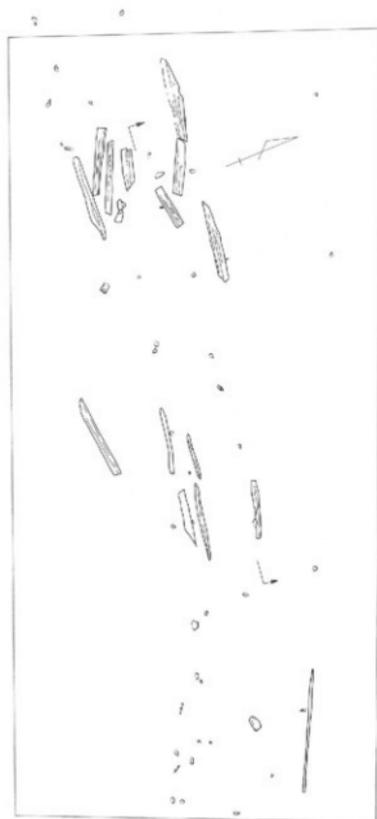


- 6. 灰白色粘土
- 7. 暗褐色土 (河道埋土)
- 9. 暗褐色土 (6層のブロックを多く含む。河道埋土)

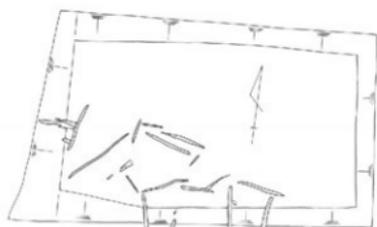


D区北側杭列 S = 1/80

E区木組み



12T



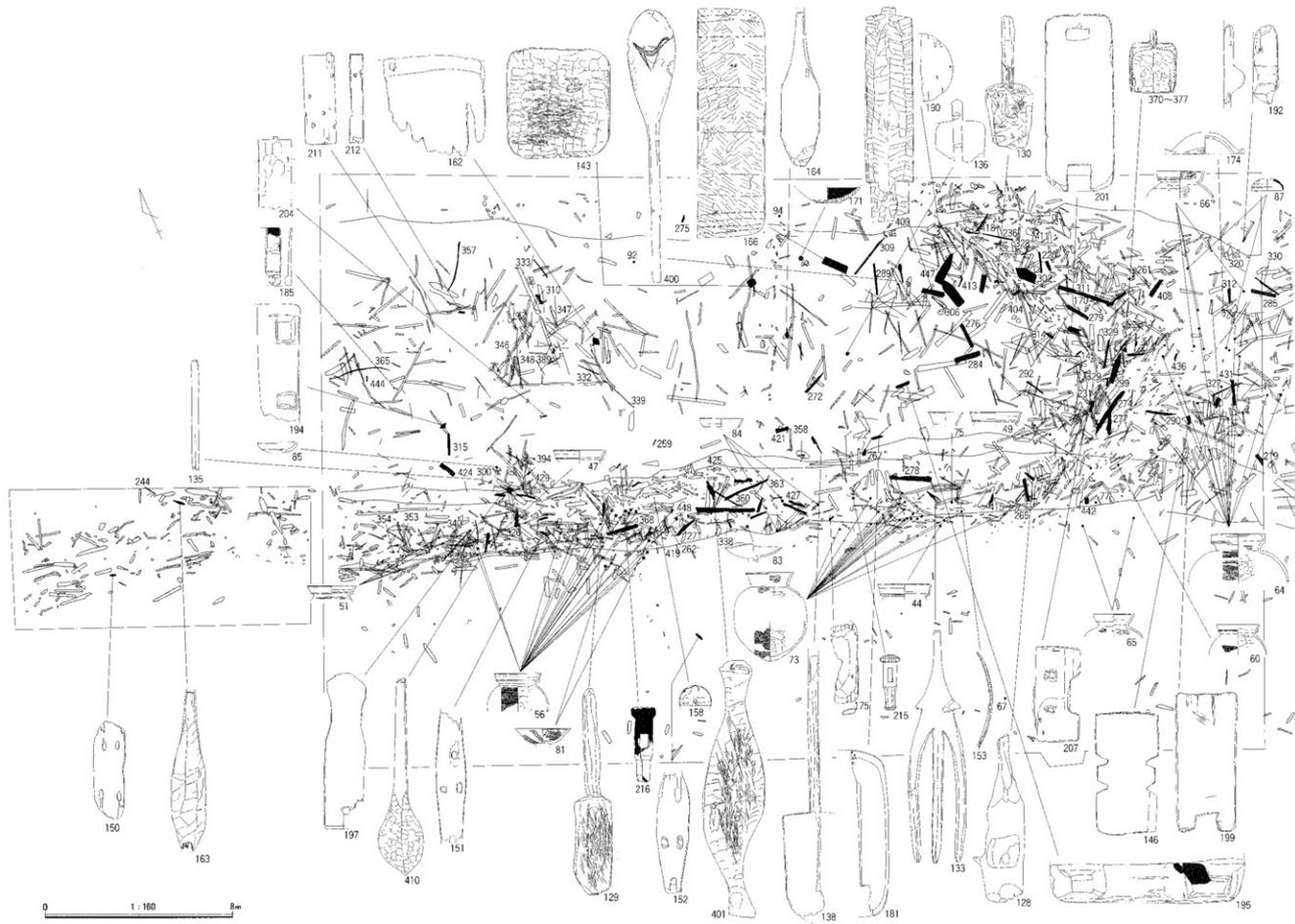
7.暗褐色土(河道埋土)



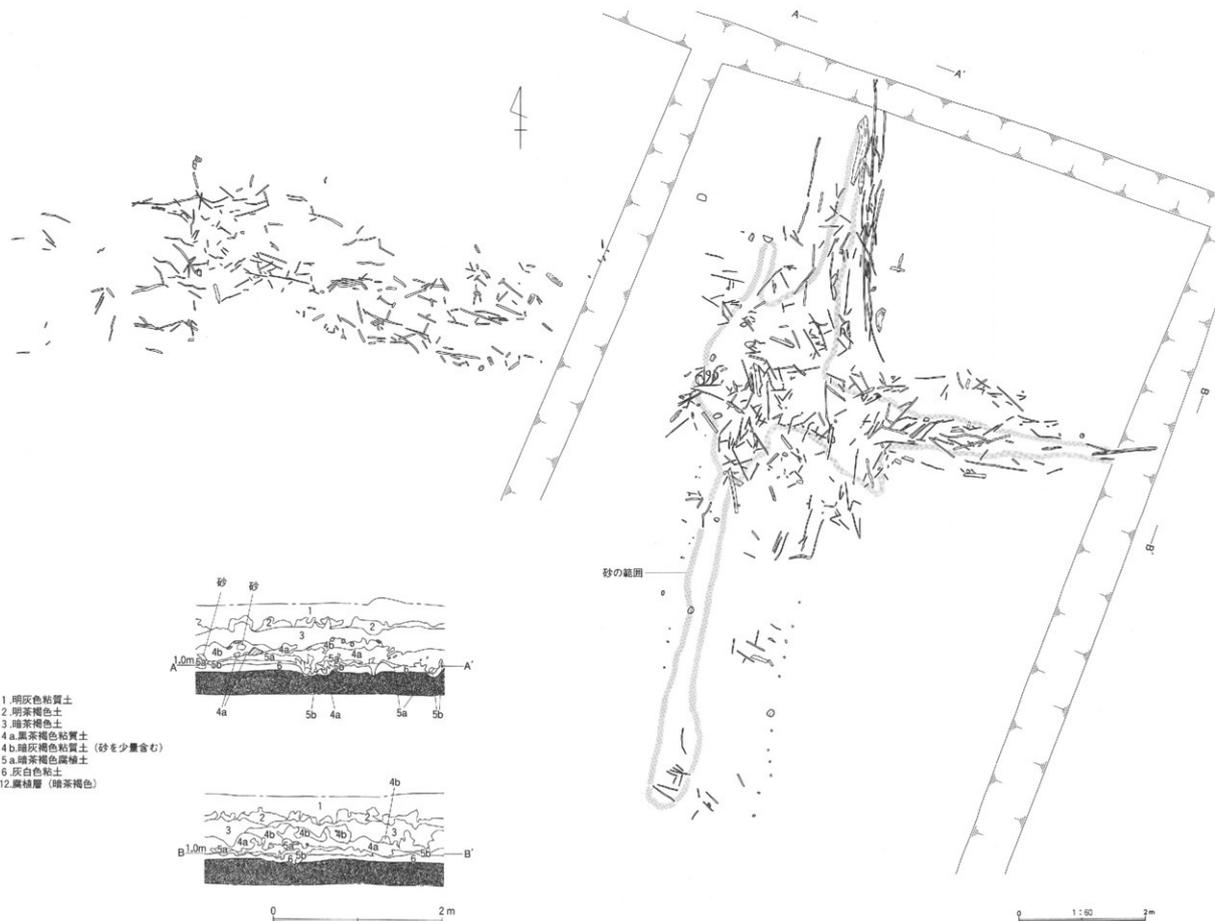
E区木組み・12T S = 1/80



A・B区土師器・須恵器出土状況 S = 1/160、遺物は1/12 (165は1/18、×は不明遺物)



C~E区土師器・須恵器・木製品出土状況 S=1/160 遺物は1/12 (166・409・410はS=1/18)

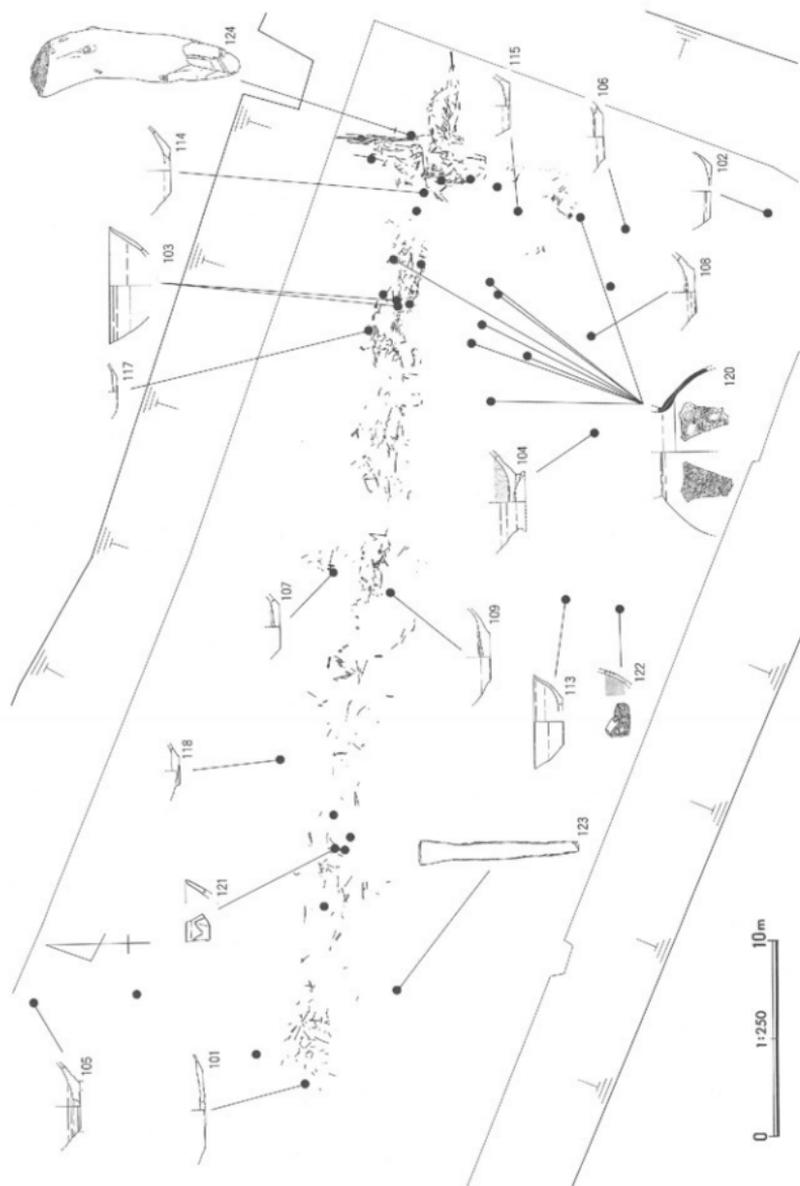


- 1 明灰色粘質土
- 2 明茶褐色土
- 3 暗茶褐色土
- 4a 黒茶褐色粘質土
- 4b 暗灰色粘質土 (暗茶褐色を少量含む)
- 5a 暗茶褐色腐植土
- 6 灰白色粘土
- 12 腐植層 (暗茶褐色)

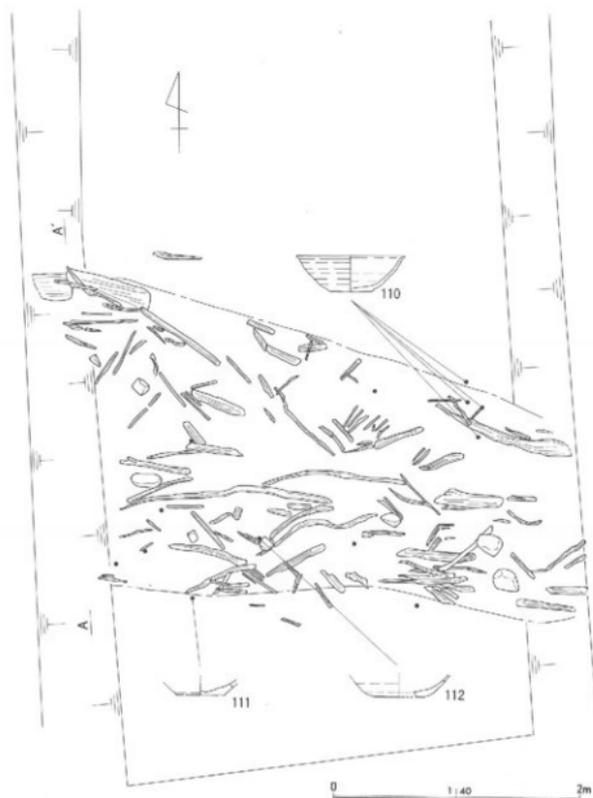
A区地割遺構 平面図S=1/60、土層断面はS=1/40



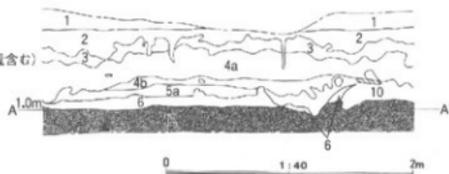
B·C区地割遺構 S=1/60



地割遺構遺物出土状況 S=1/250、遺物はS=1/6



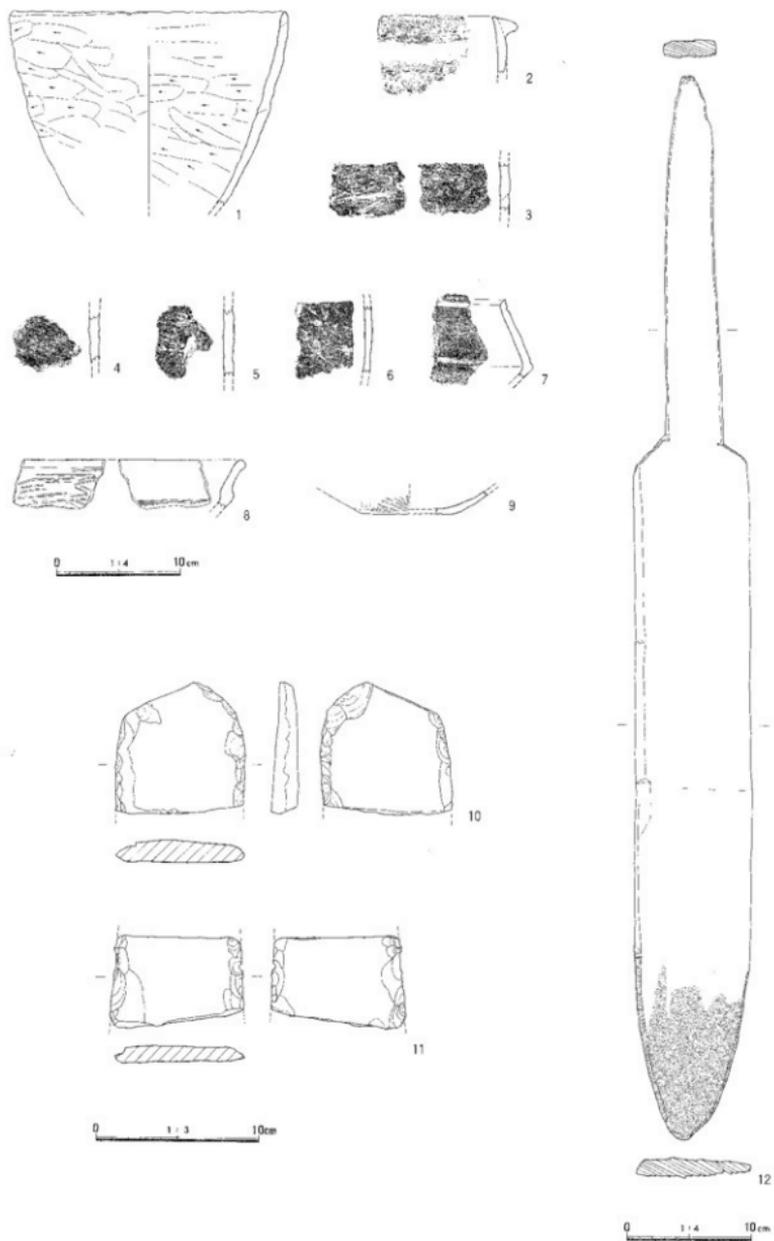
- 1. 明灰色粘質土
- 2. 明茶褐色土
- 3. 暗茶褐色土
- 4 a. 黒茶褐色粘質土
- 4 b. 暗灰褐色粘質土 (砂を少量含む)
- 5 a. 暗茶褐色腐植土
- 6. 灰白色粘土
- 10. 暗灰色粘質土
- 12. 腐植層 (暗茶褐色)



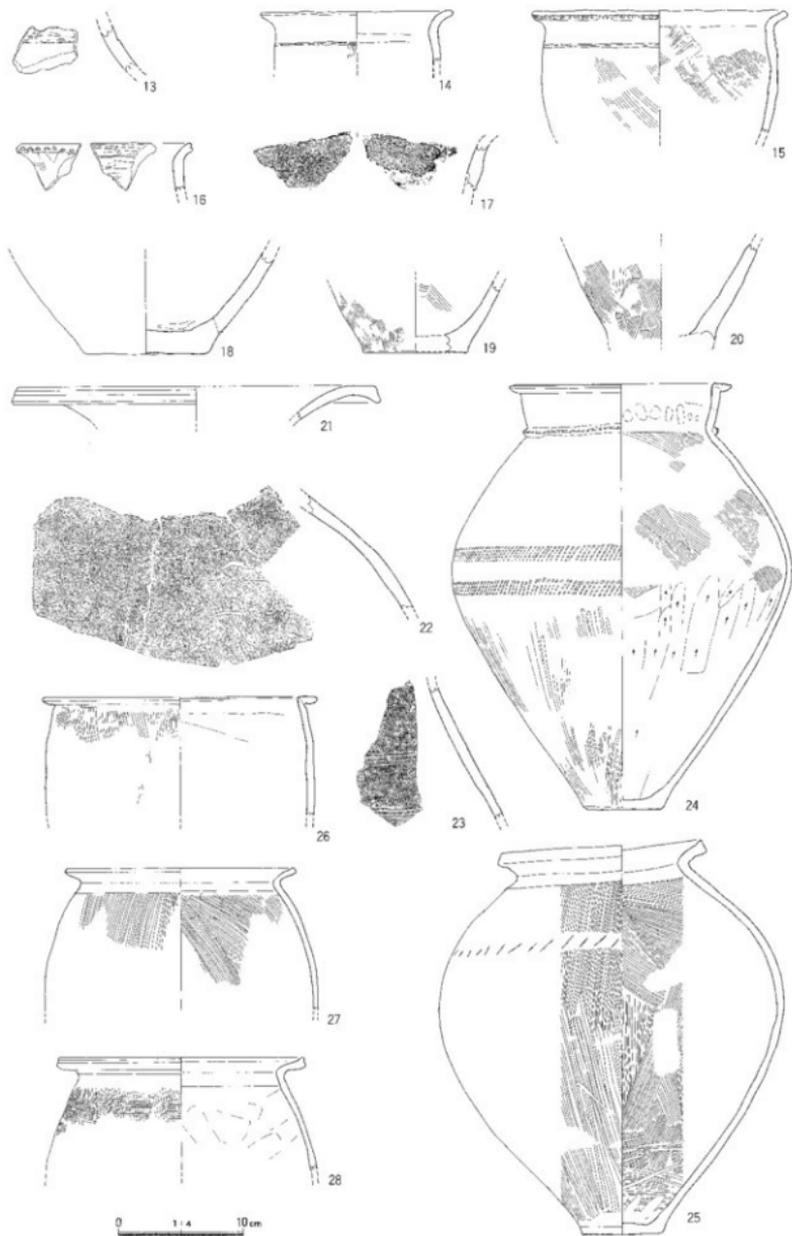
11T地割遺構 S = 1 / 40、遺物は S = 1 / 6



地割遺構と周辺の地形 S=1/5000



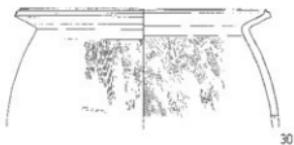
縄文時代の遺物 S=1/4、10・11はS=1/3



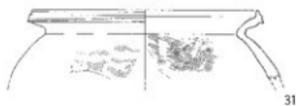
弥生土器(1) S=1/4



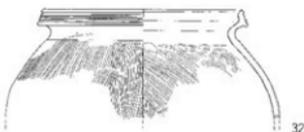
29



30



31



32



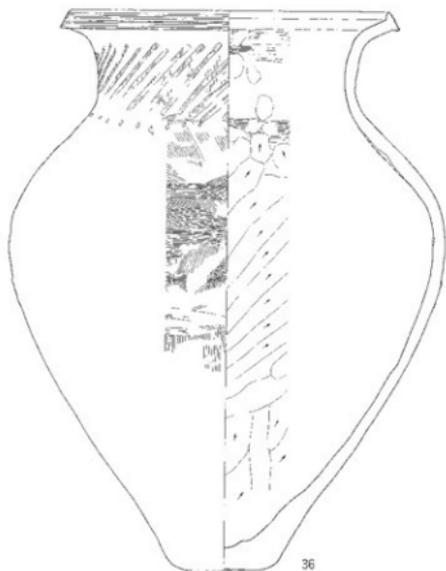
33



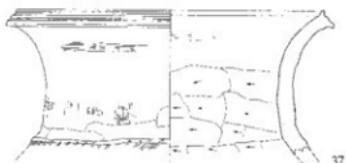
34



35



36



37



38



39

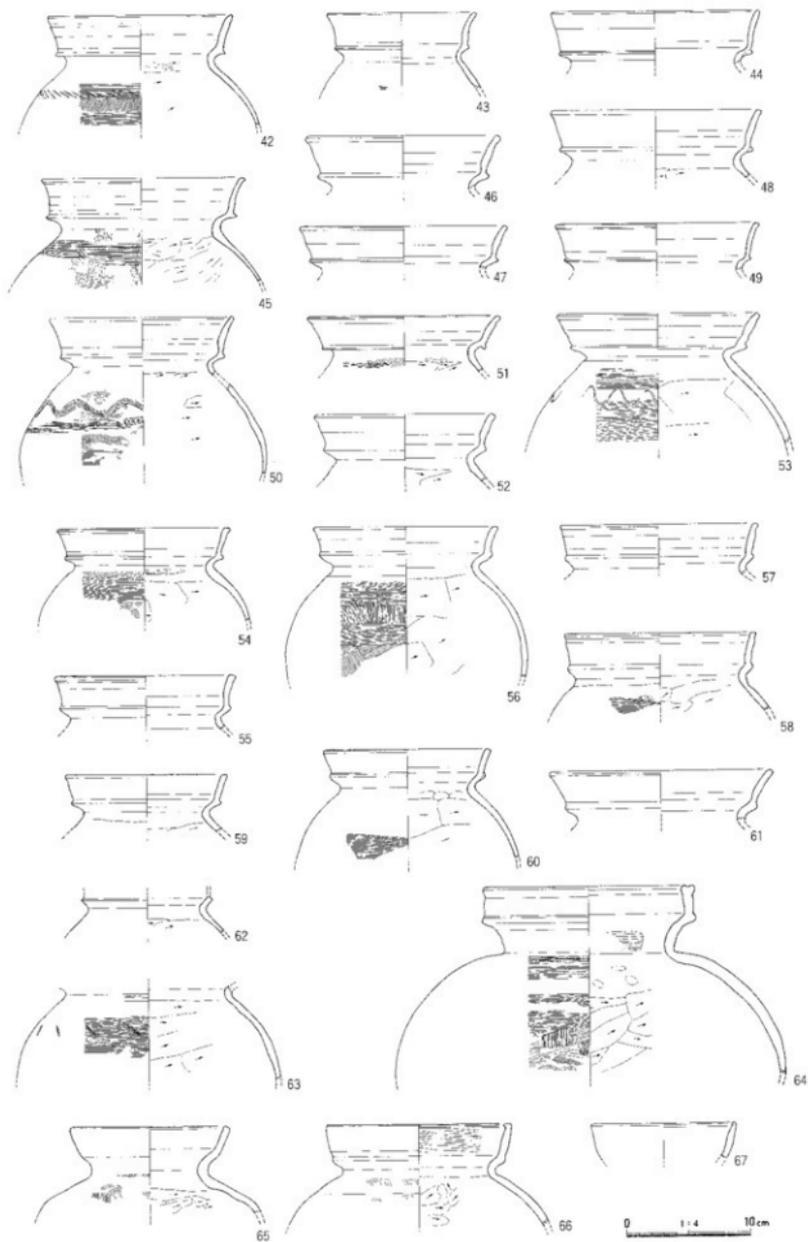
0 1:4 10 cm



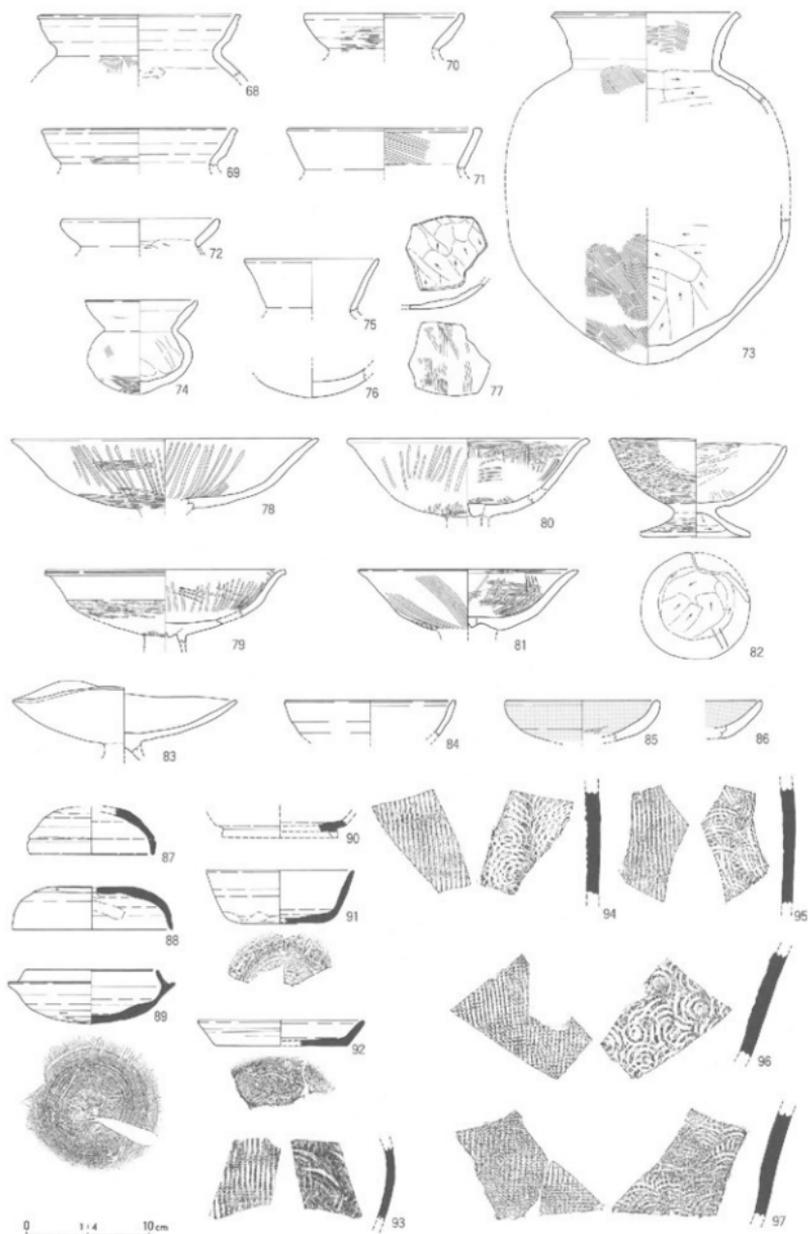
40



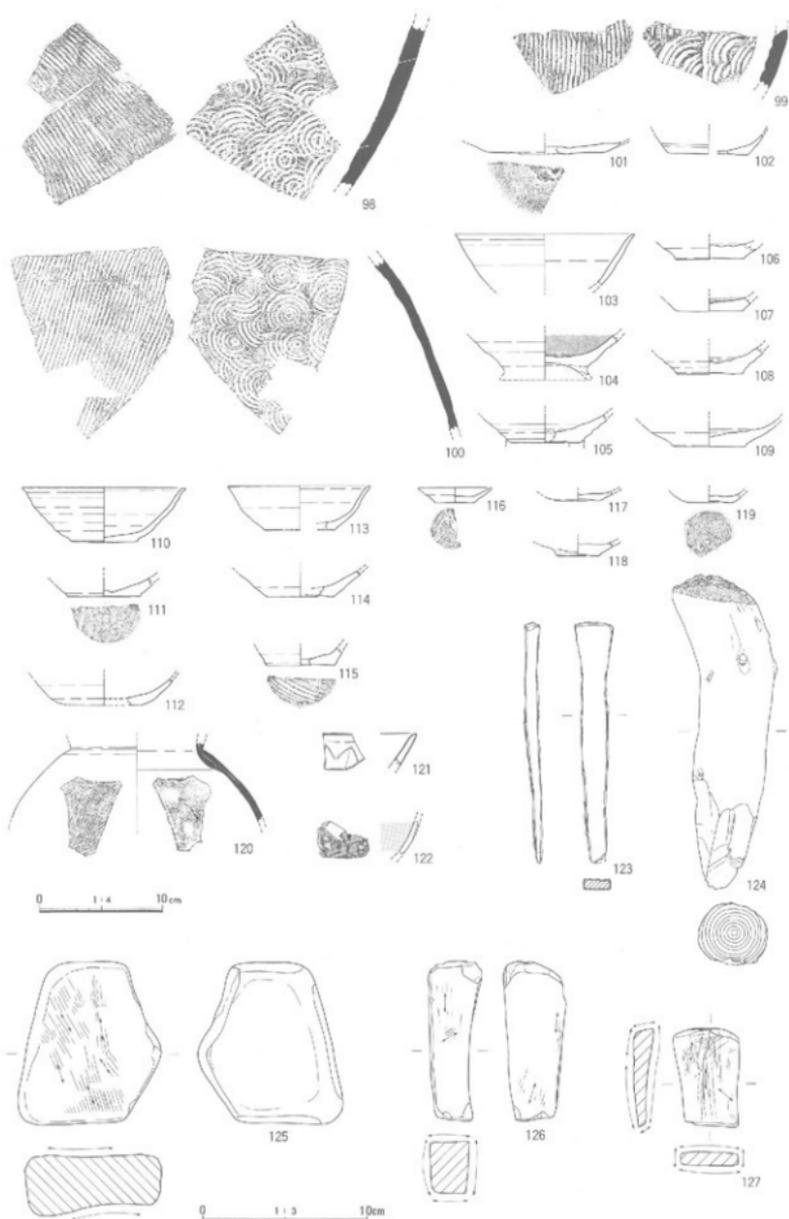
41



土師器(1) S=1/4



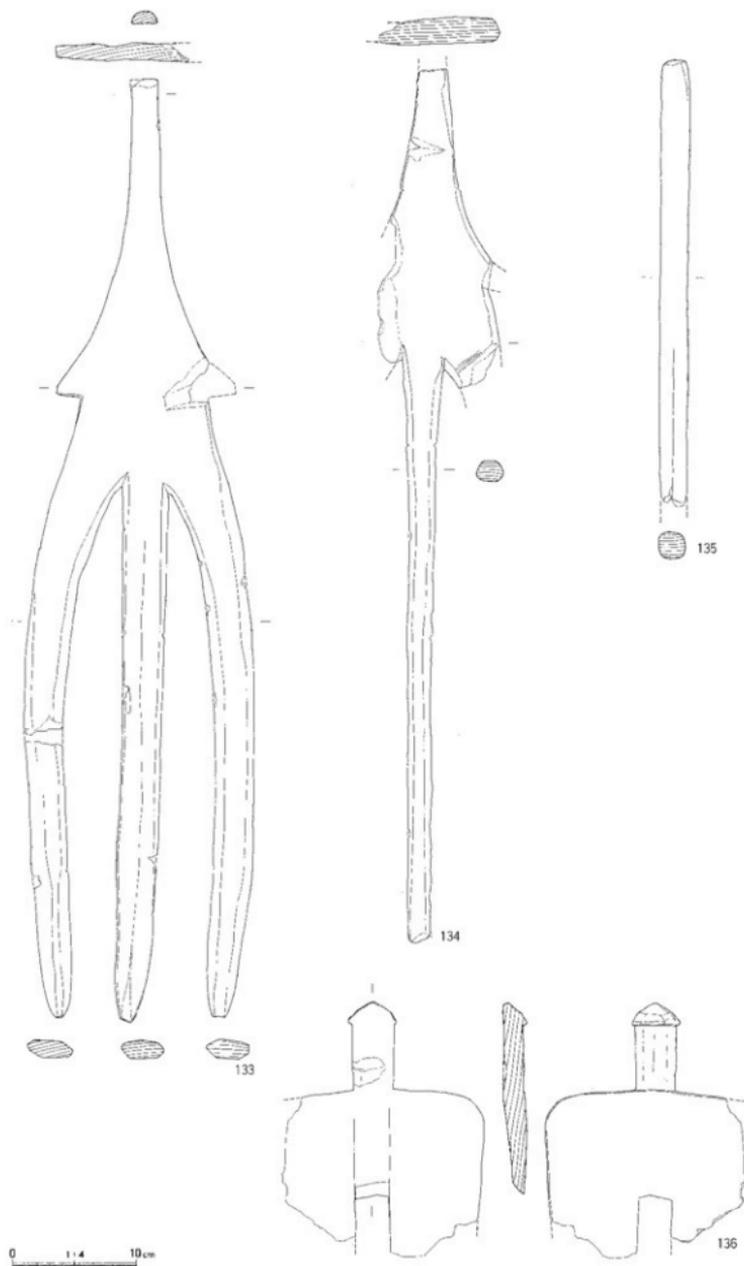
土師器(2)・須恵器(1) S=1/4



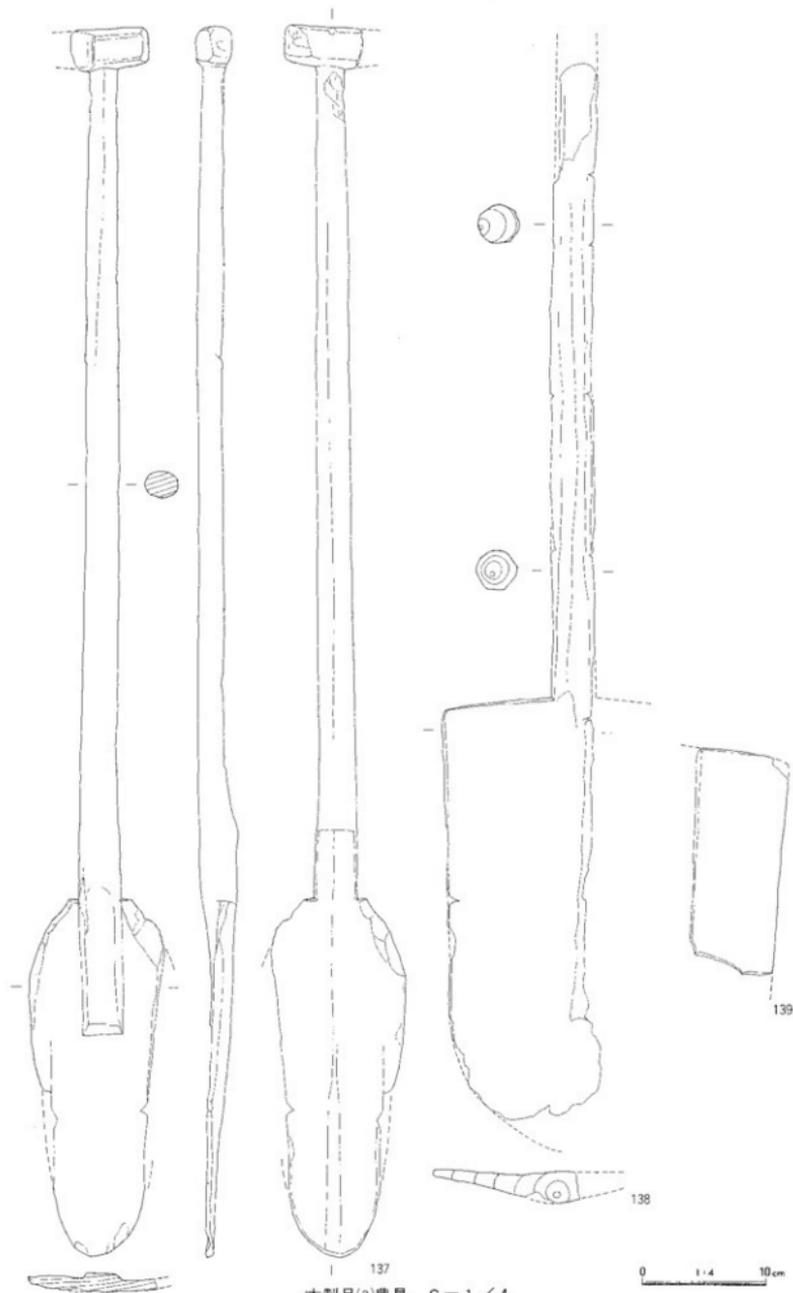
須恵器(2)・平安時代以降の遺物・石器 S = 1 / 4、125~127は S = 1 / 3



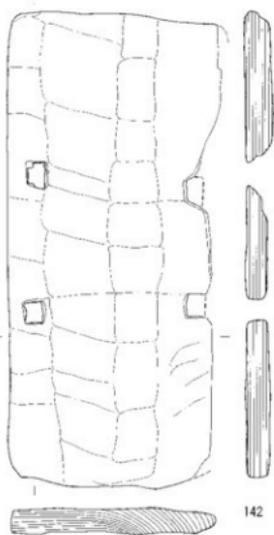
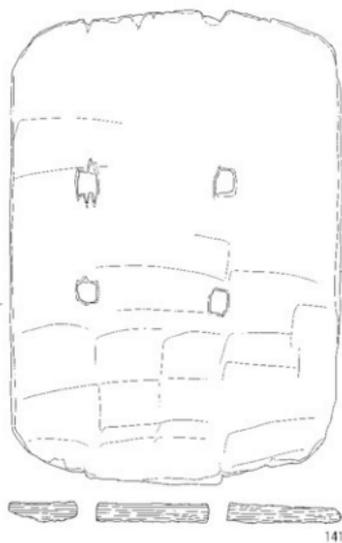
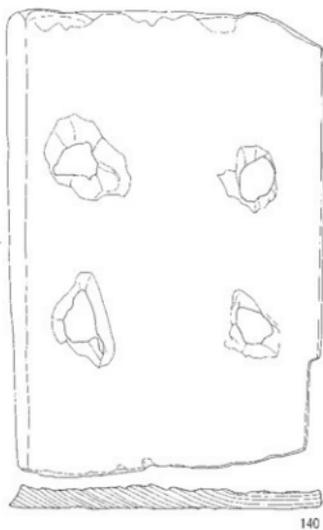
0 1.4 10 cm



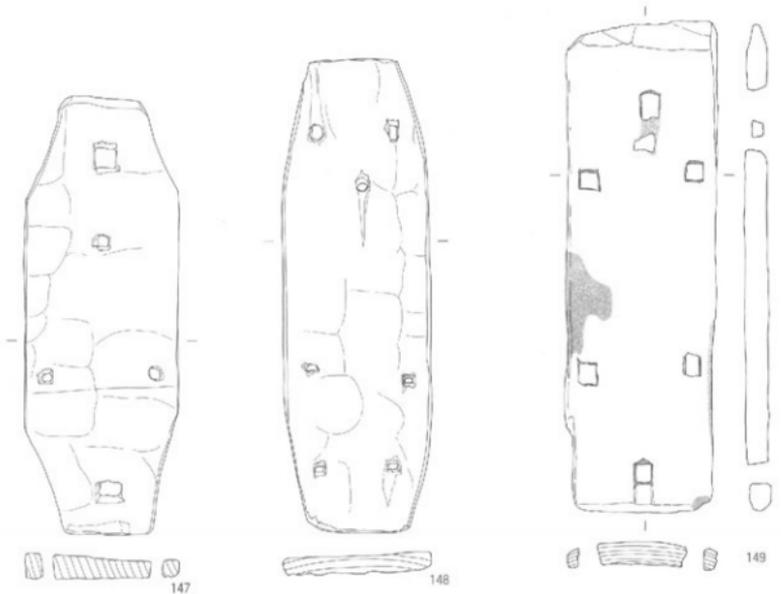
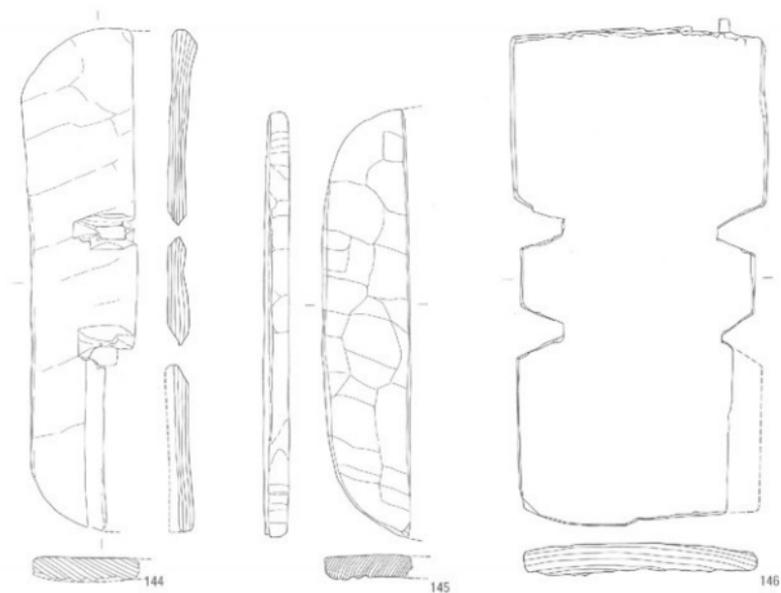
木製品(2)農具 S=1/4



137
木製品(3)農具 S=1/4

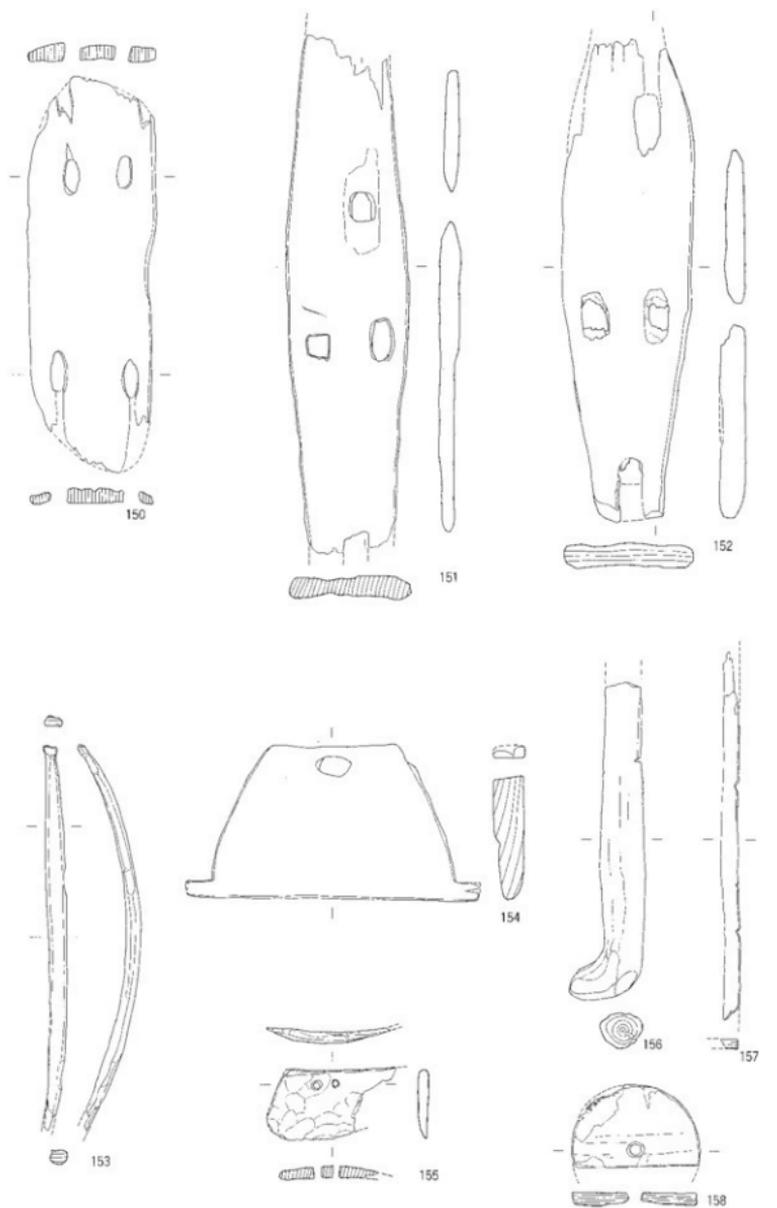


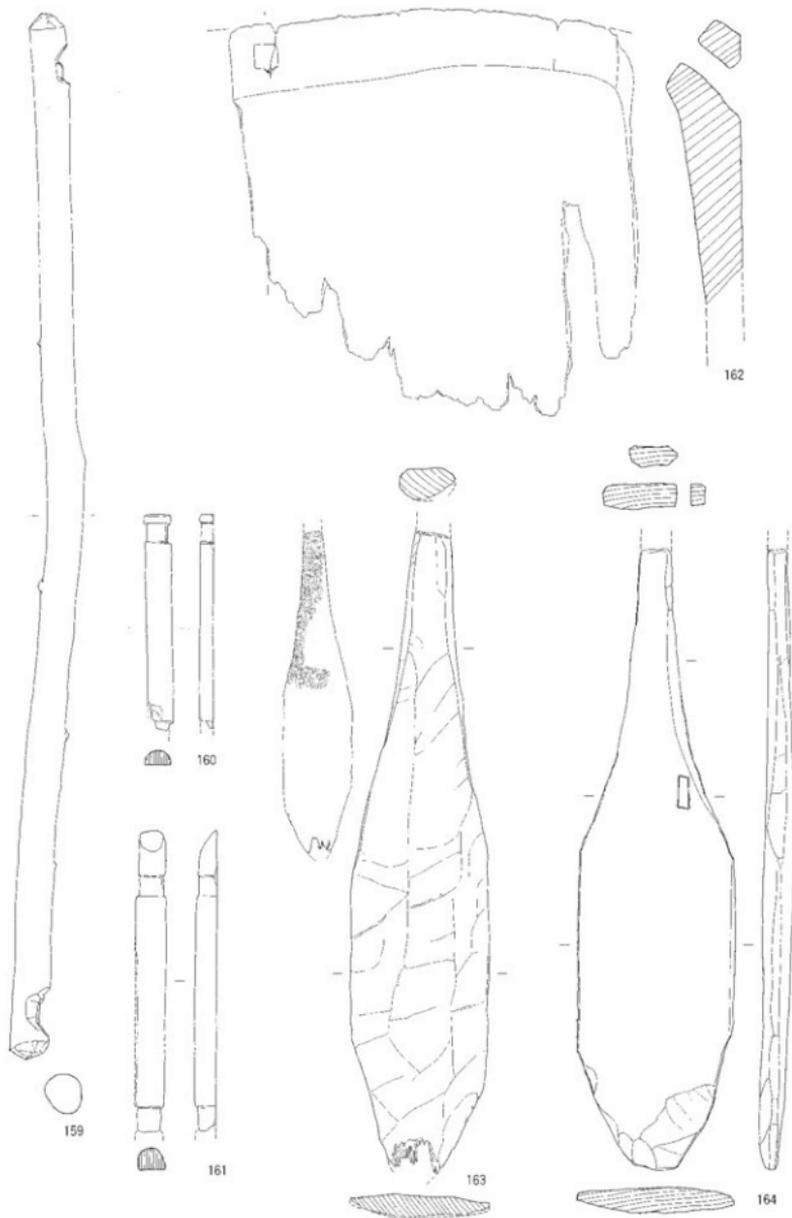
0 1:4 10cm



木製品(5)農具 S=1/4

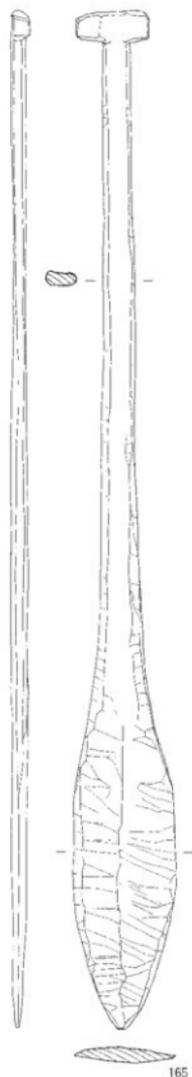
0 1:4 10cm



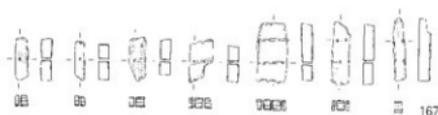


木製品(7)運搬具・漁撈具 S=1/4

0 1.4 10cm

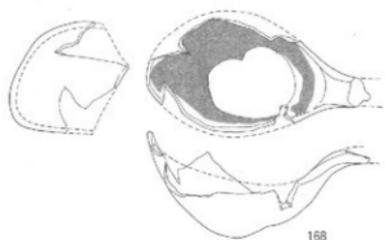


0 1:6 20cm



0 1:4 10cm

木製品(8)漁撈具・武器 S=1/6、167はS=1/4



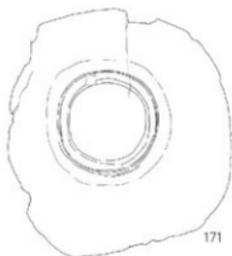
168



169



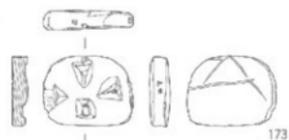
170



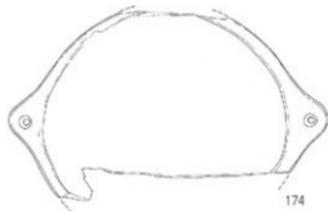
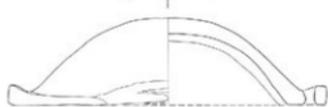
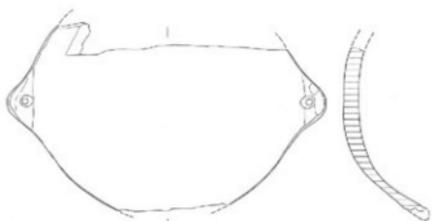
171



172

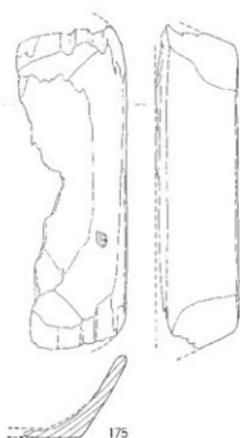


173

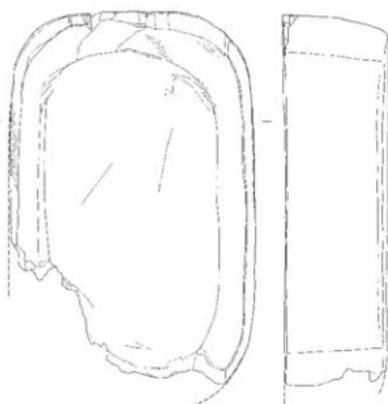


174

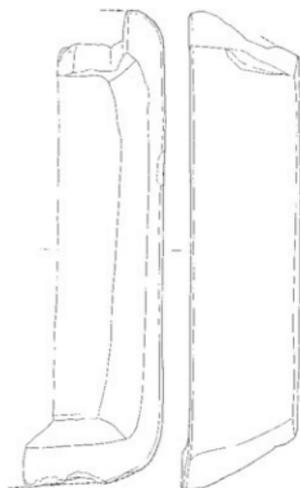
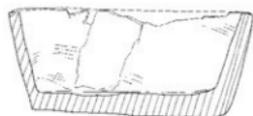
0 1:4 10cm



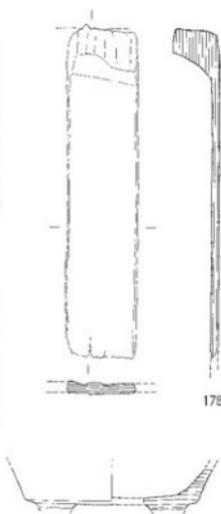
175



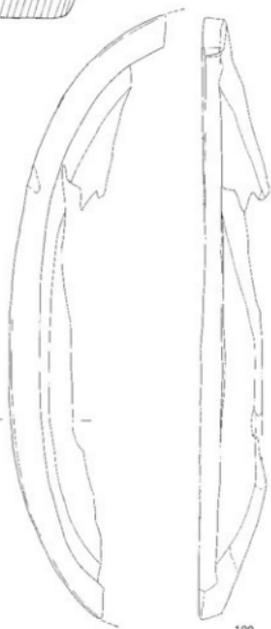
176



177



178



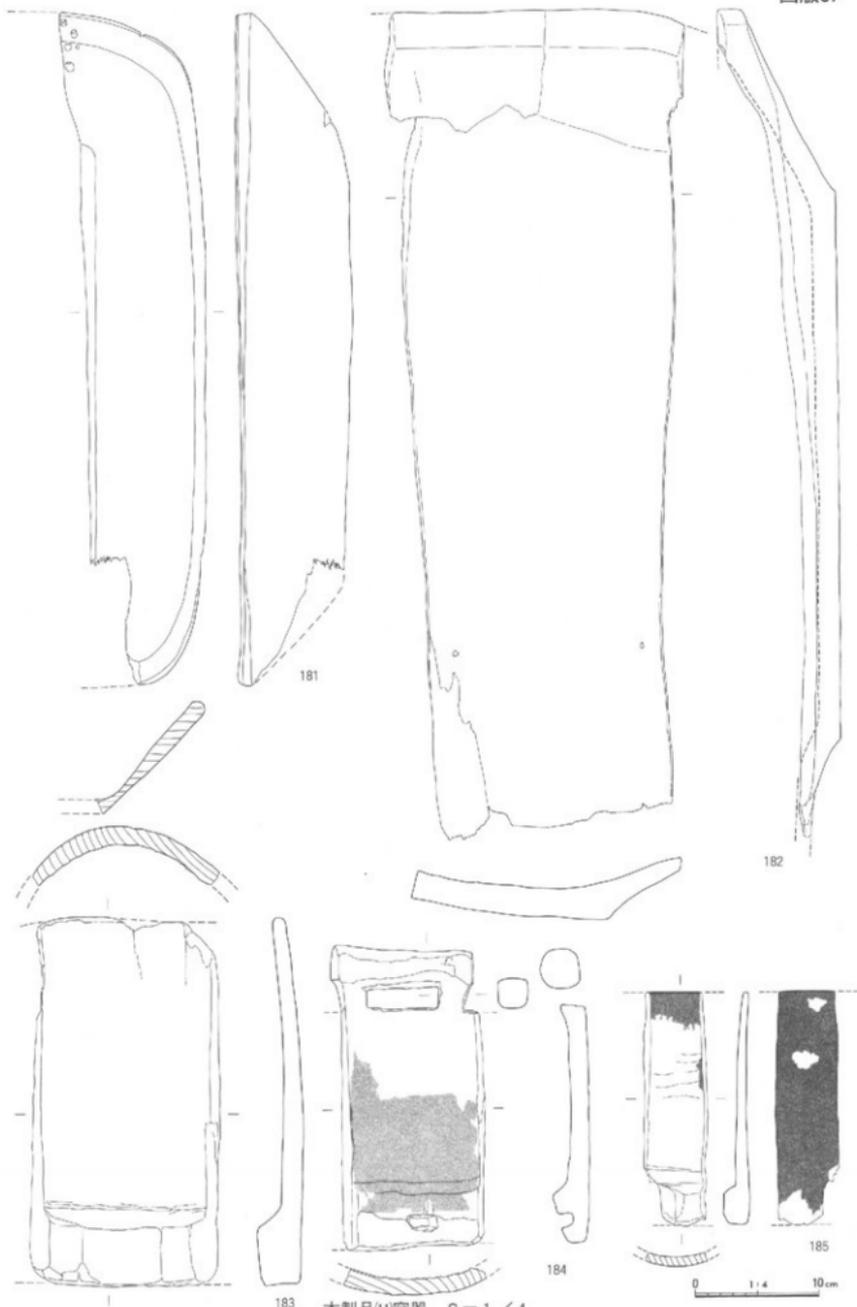
180



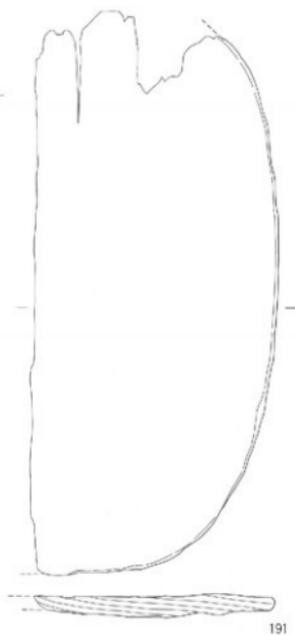
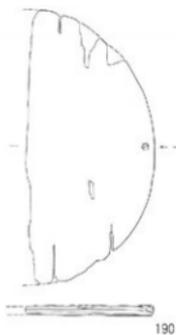
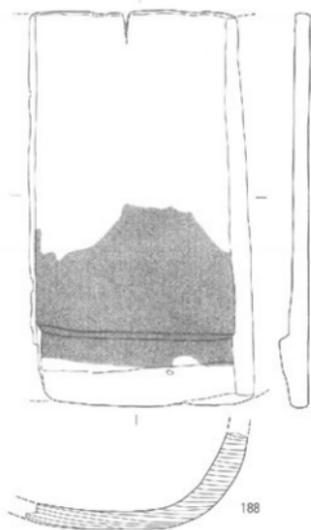
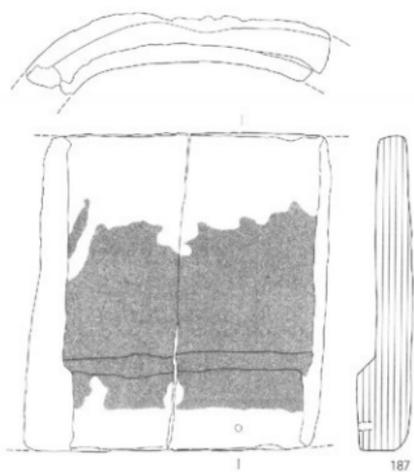
179

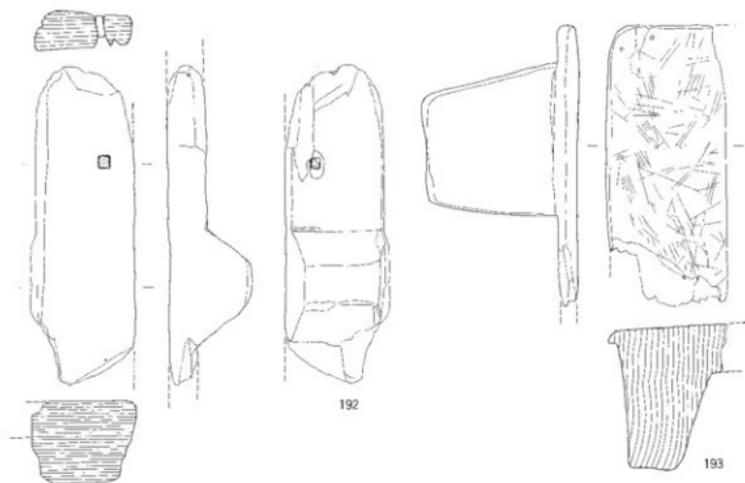


0 1:4 10cm



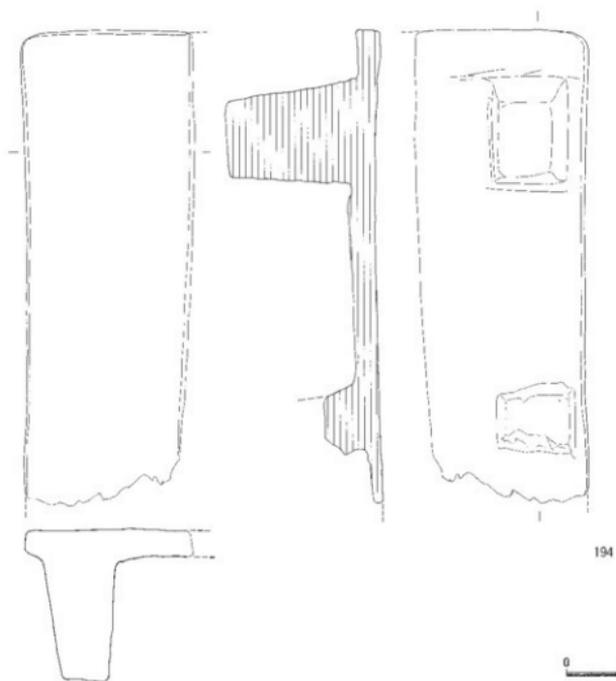
183 木製品(1)容器 S=1/4





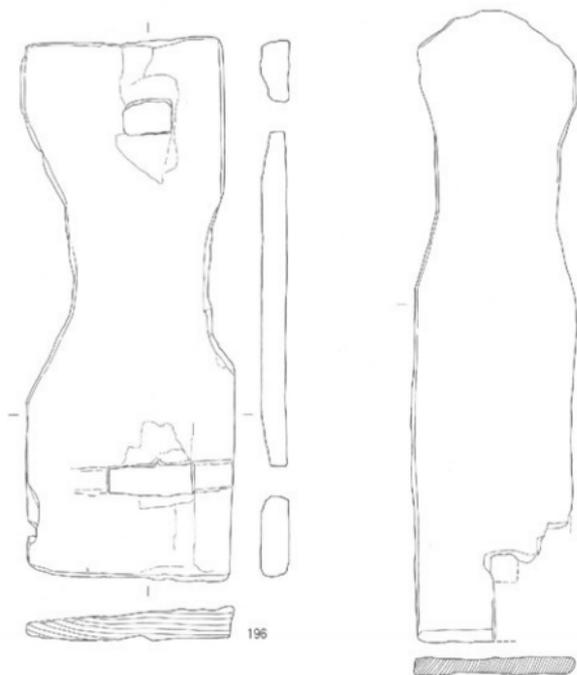
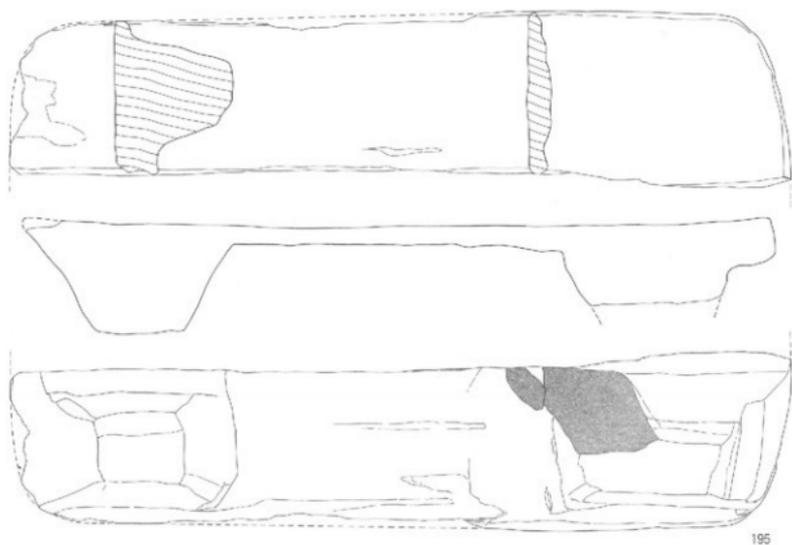
192

193



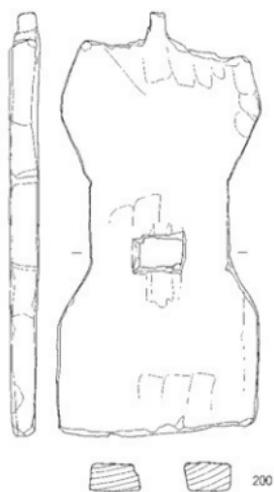
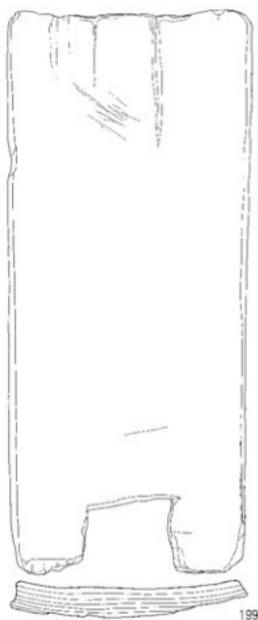
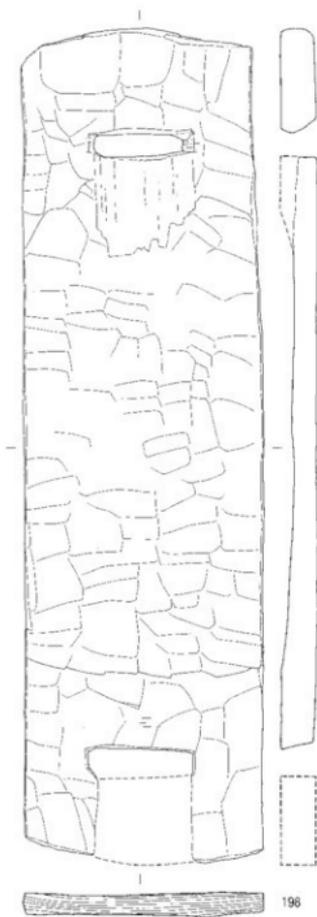
194

0 1:4 10cm



木製品(14)雑具 S = 1 / 4

197 0 1:4 10cm



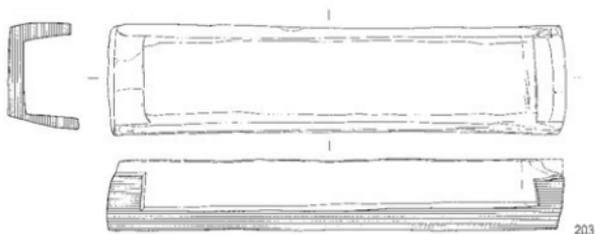
0 1:4 10cm



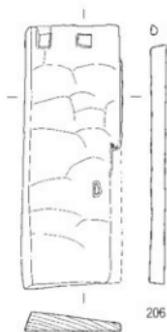
201



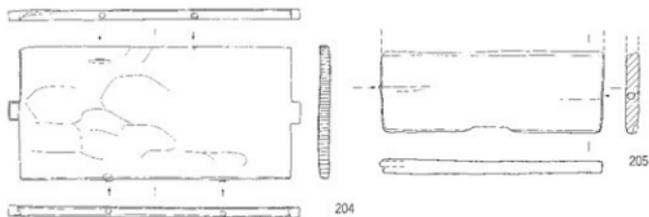
202



203



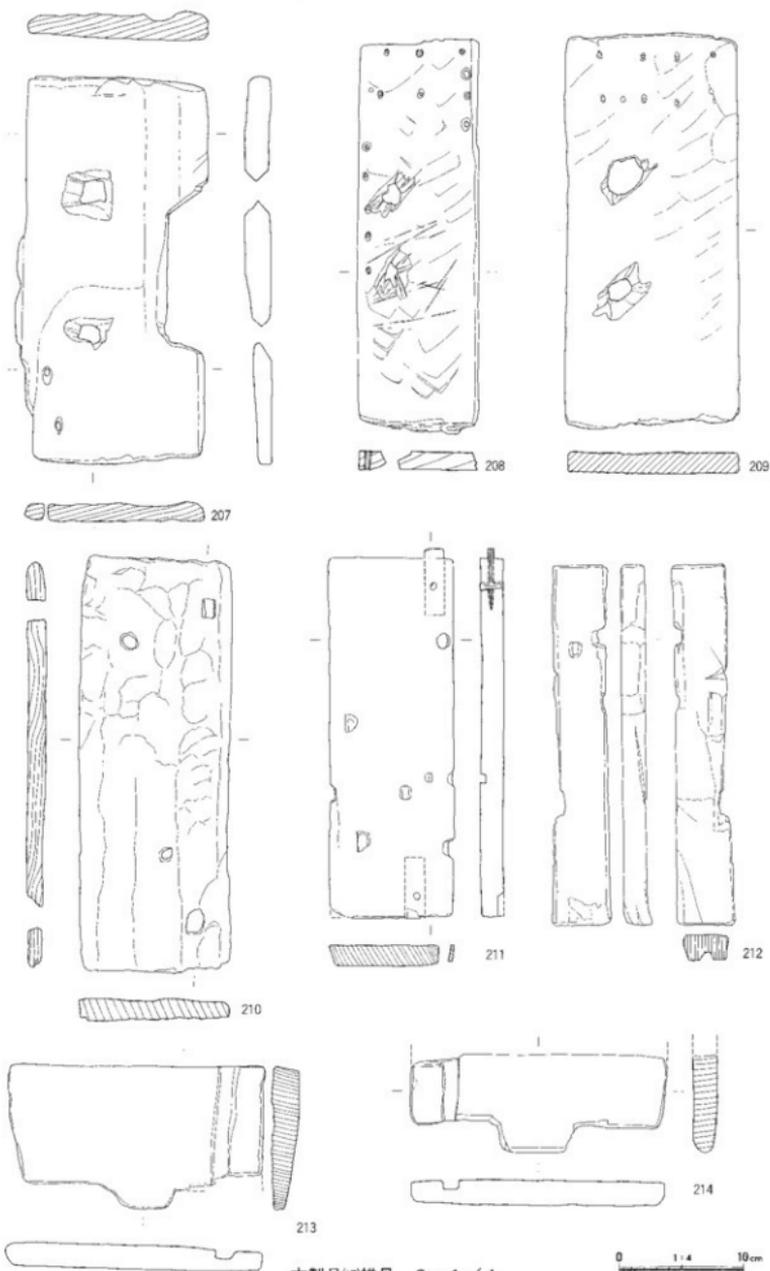
206

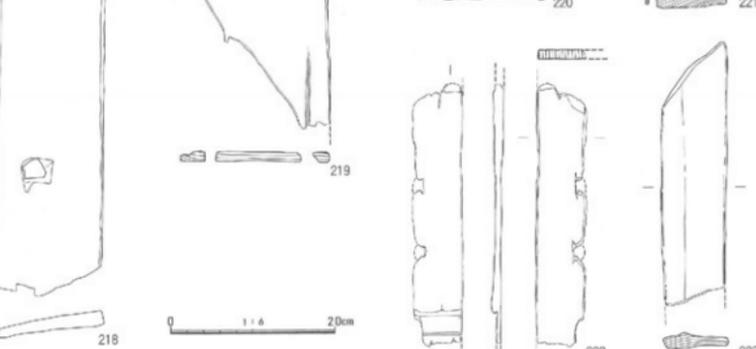
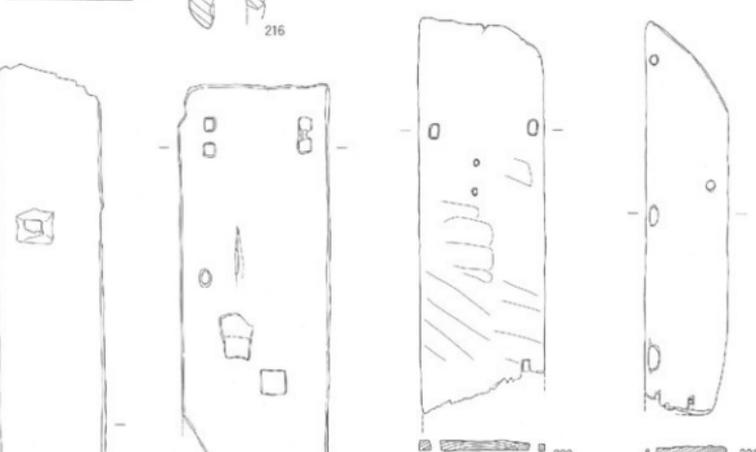
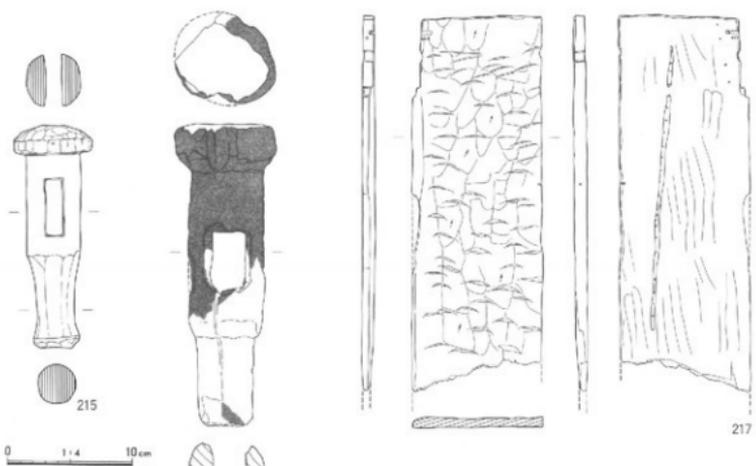


204

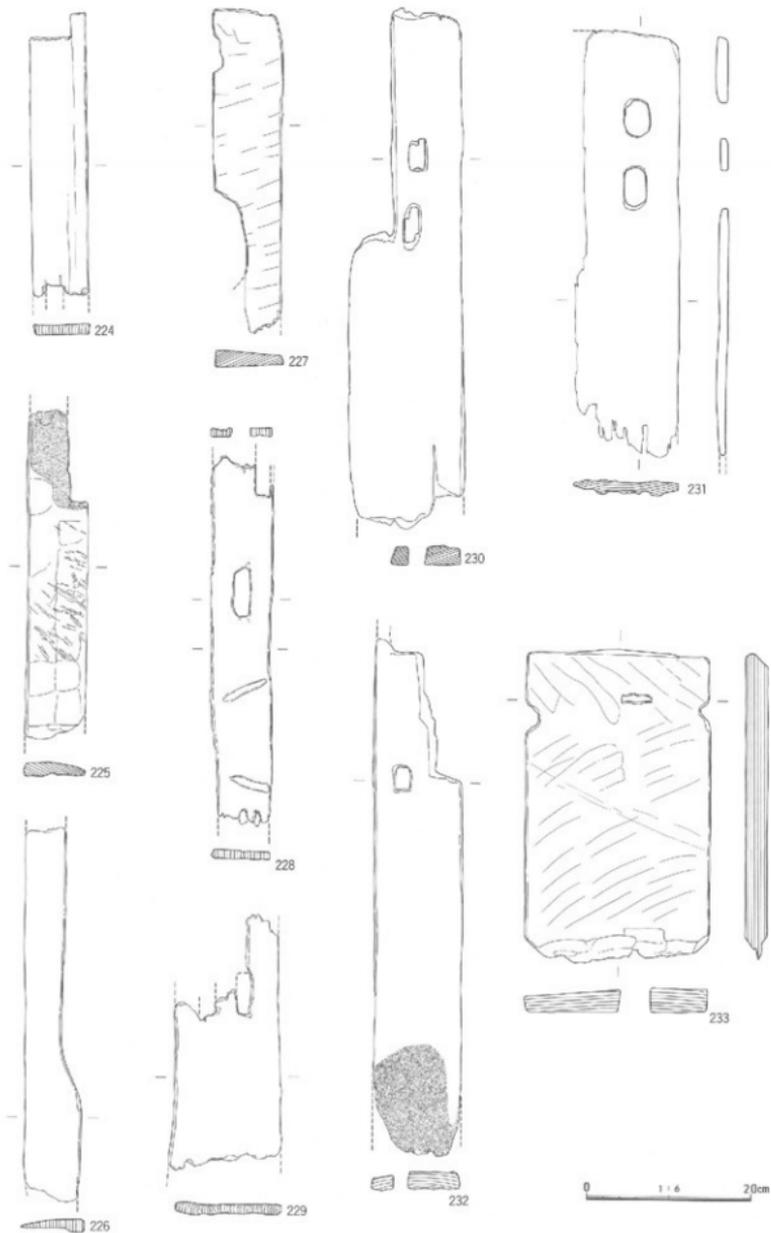
205

0 1:4 10cm

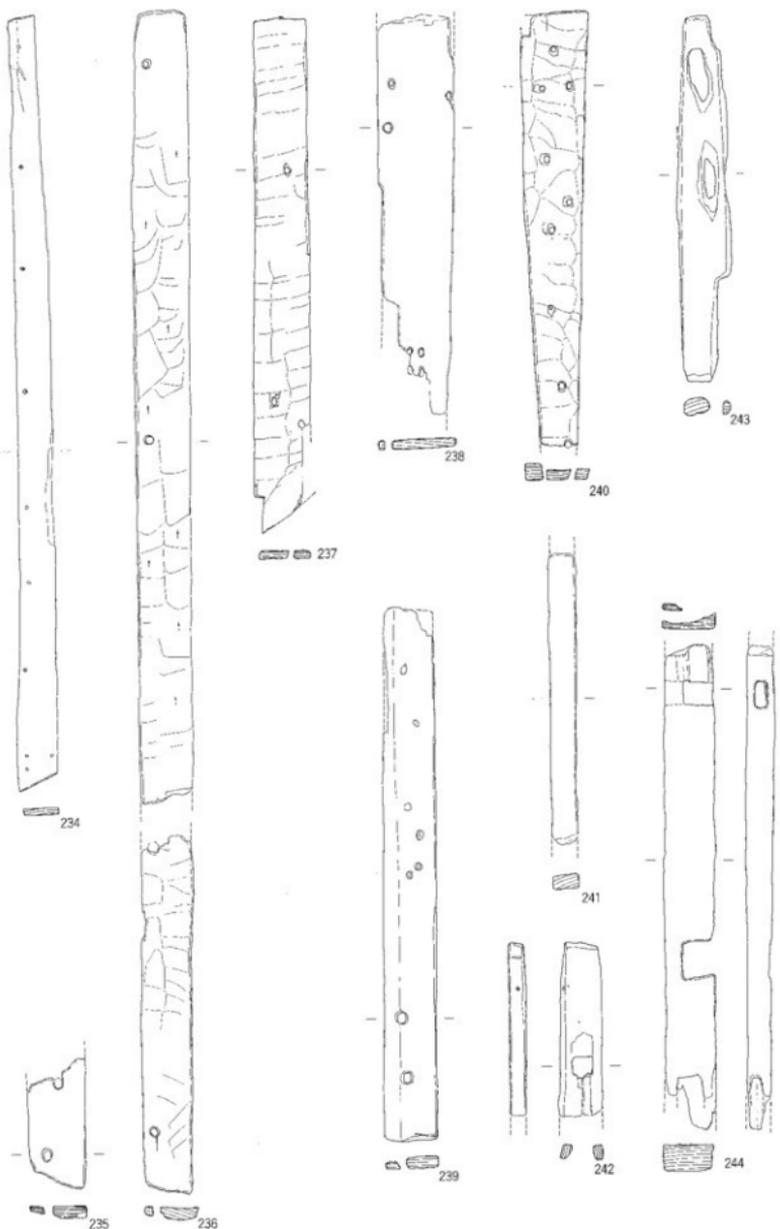


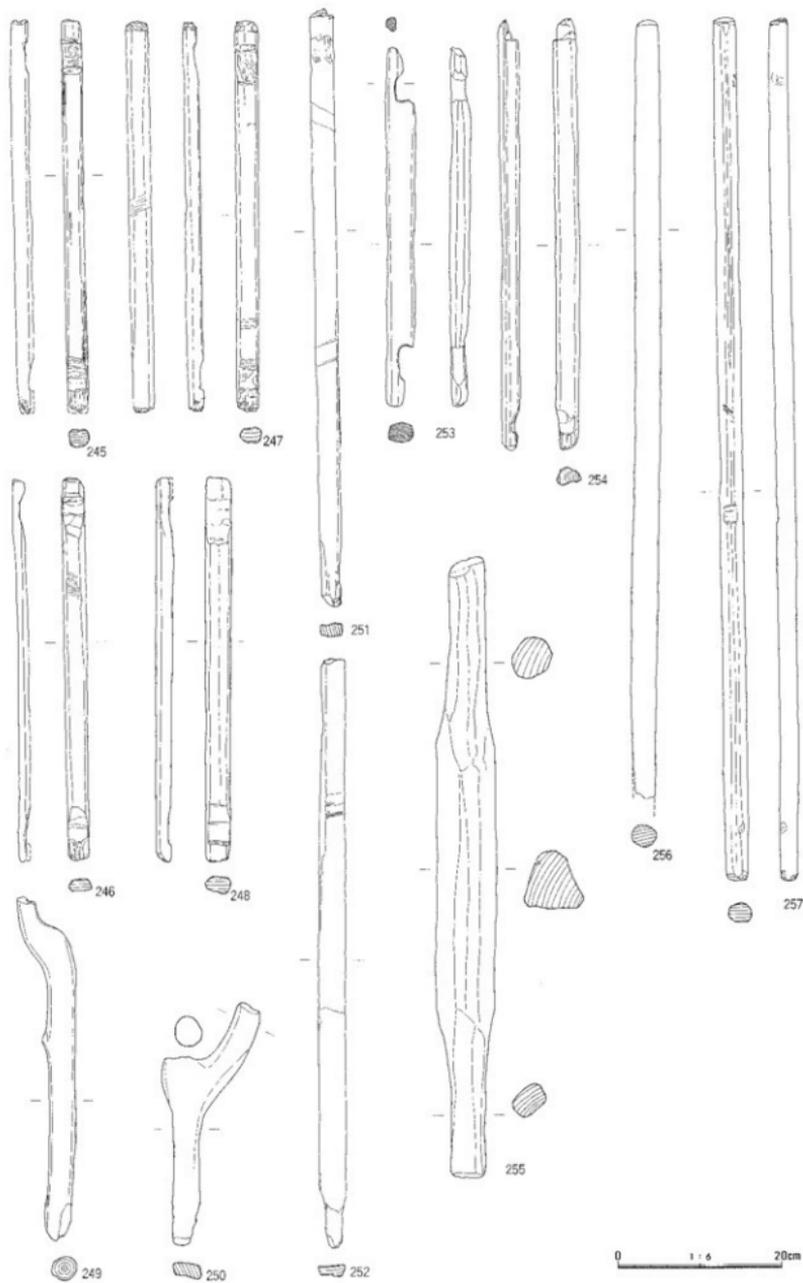


木製品(18)雜具部材 S=1/6、215・216はS=1/4

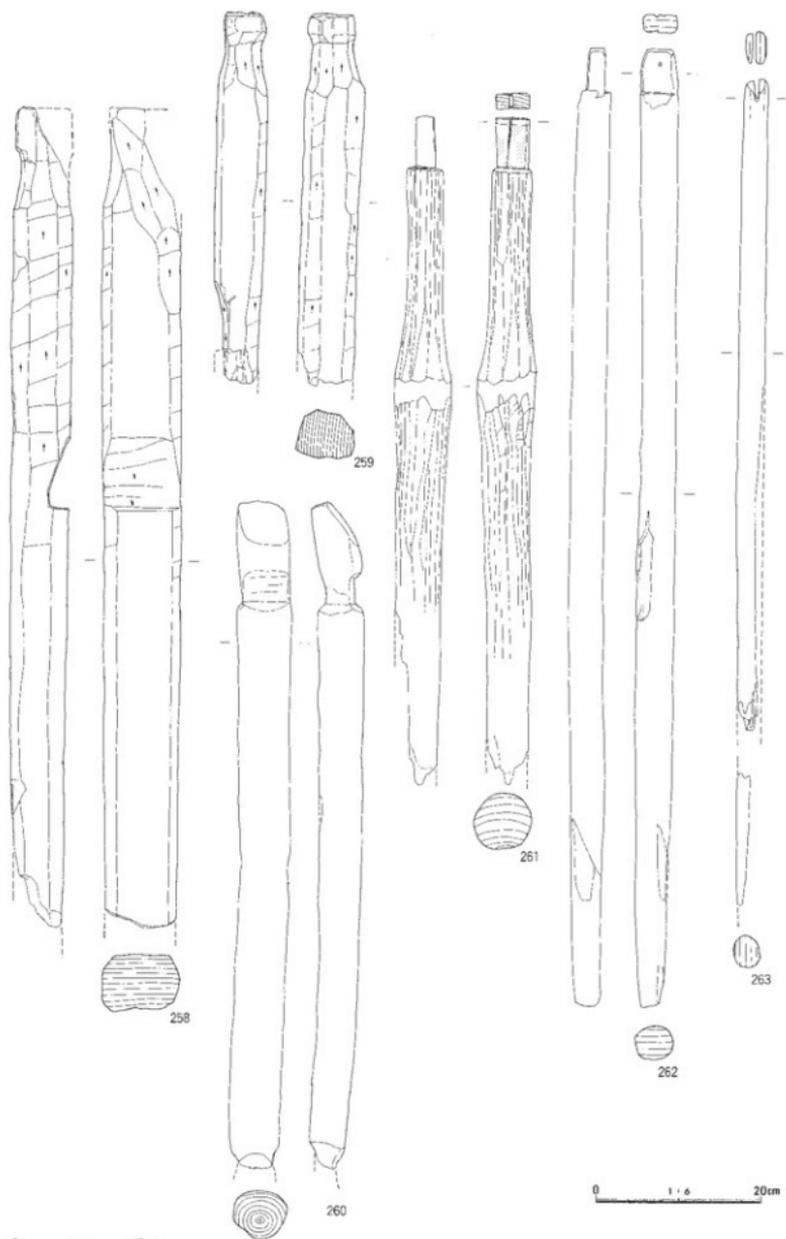


木製品(9)雑具部材 S = 1 / 6

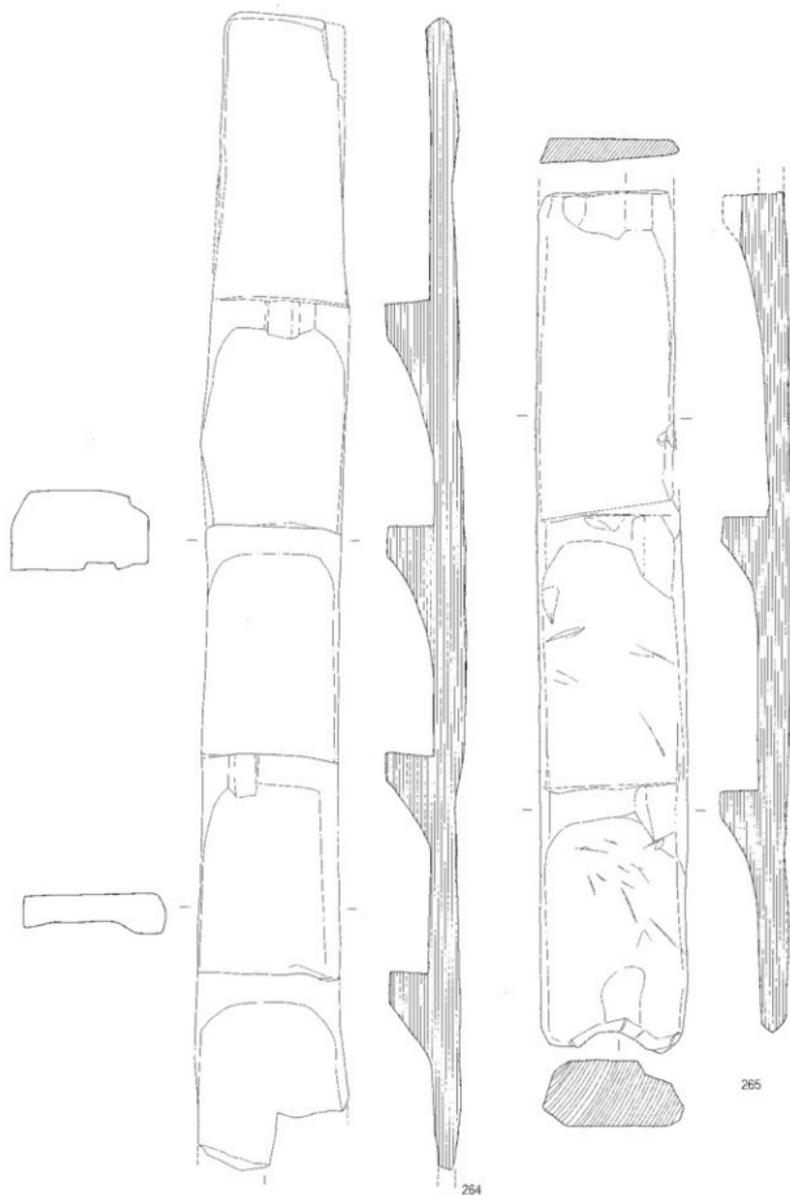




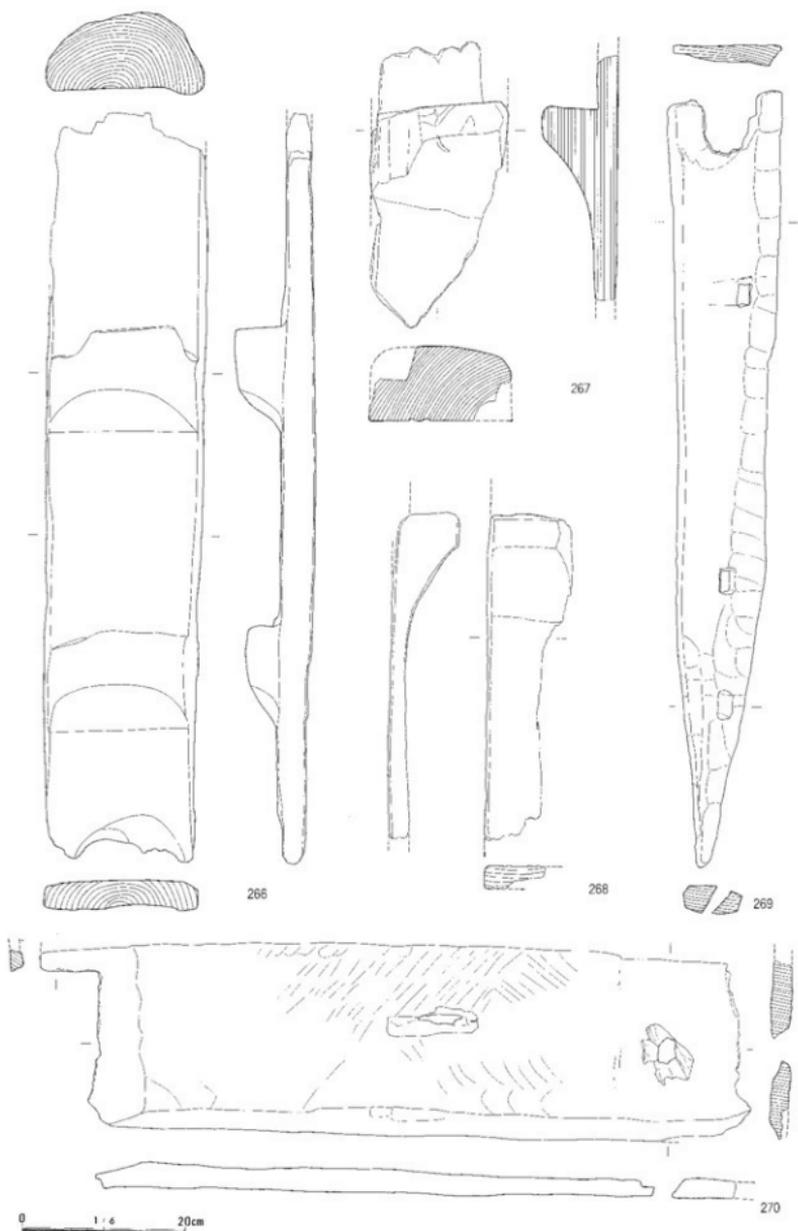
木製品(2) 雑具部材 S = 1 / 6

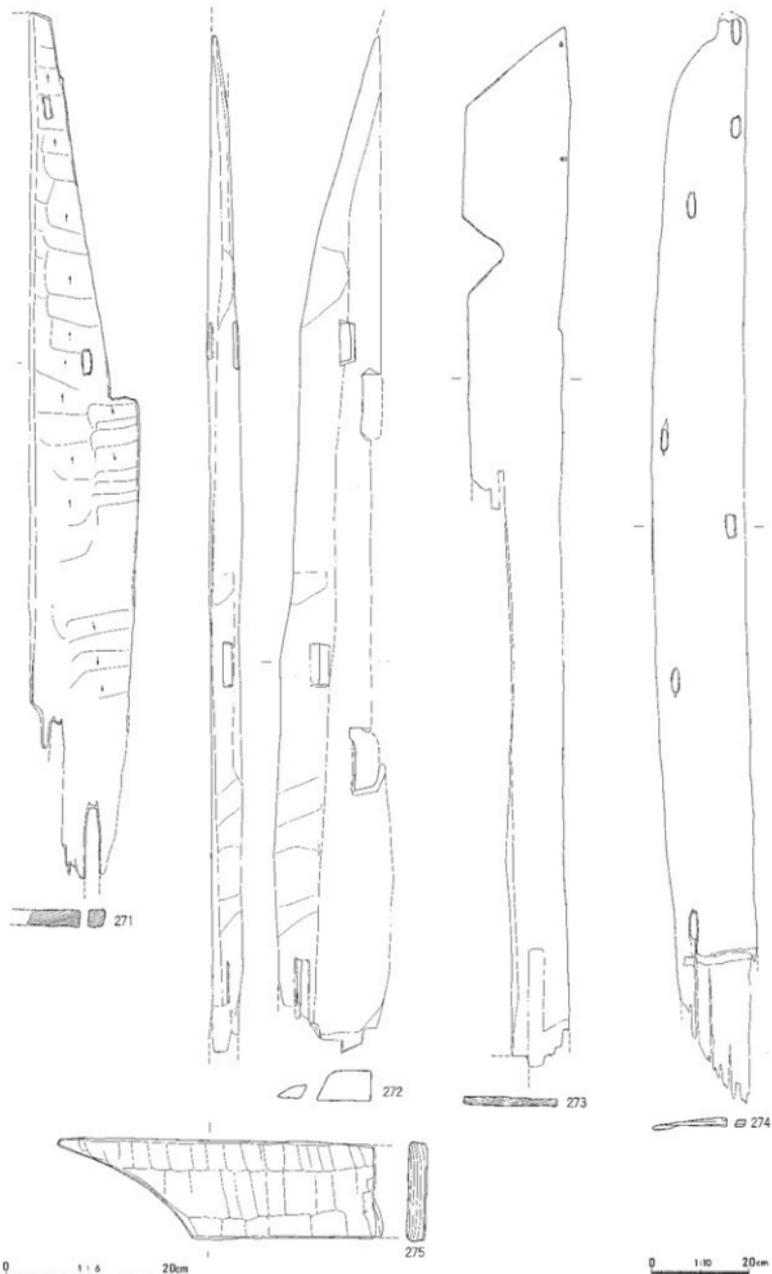


木製品之雄具部材 S=1/4、263はS=1/6

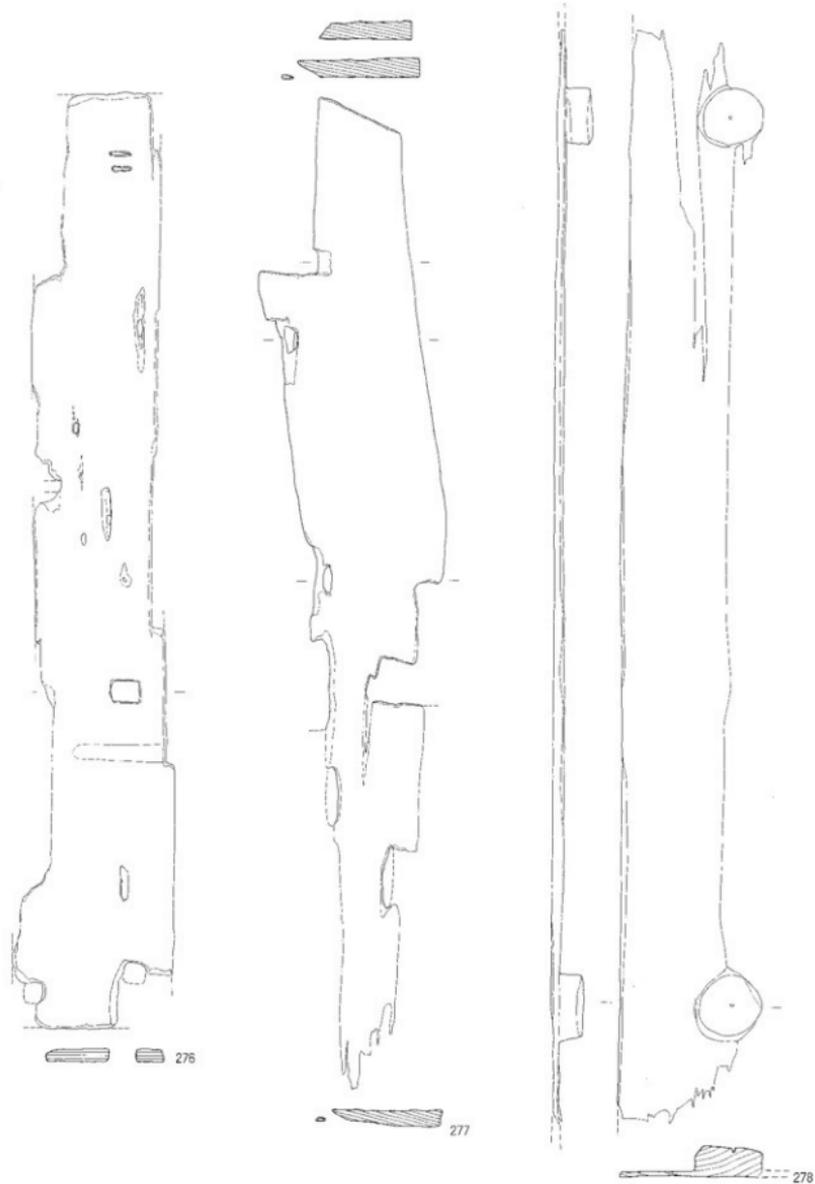


木製品₂₃建築部材 S = 1 / 6

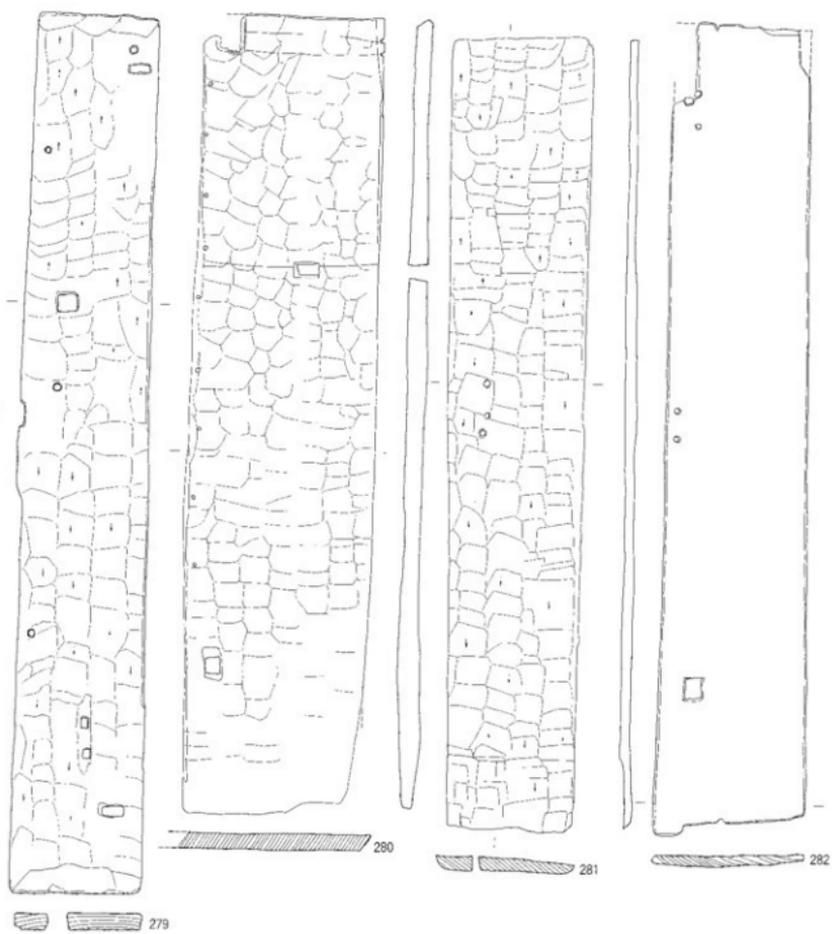


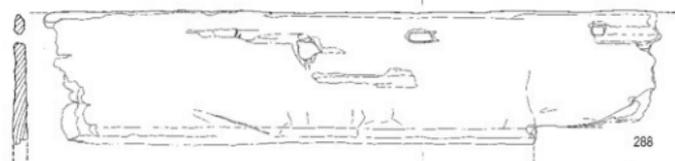


木製品(25)建築部材 S = 1 / 6、273・274は S = 1 / 10



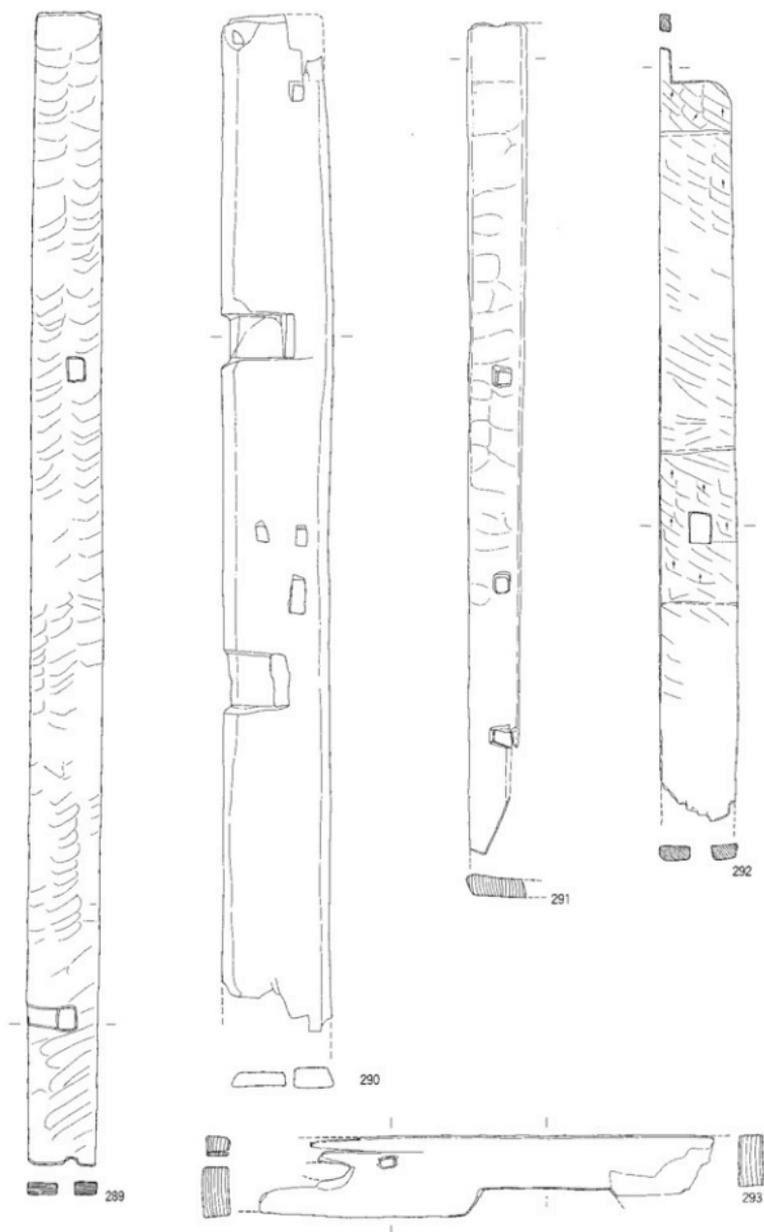
木製品26)建築部材 S=1/6、278はS=1/8





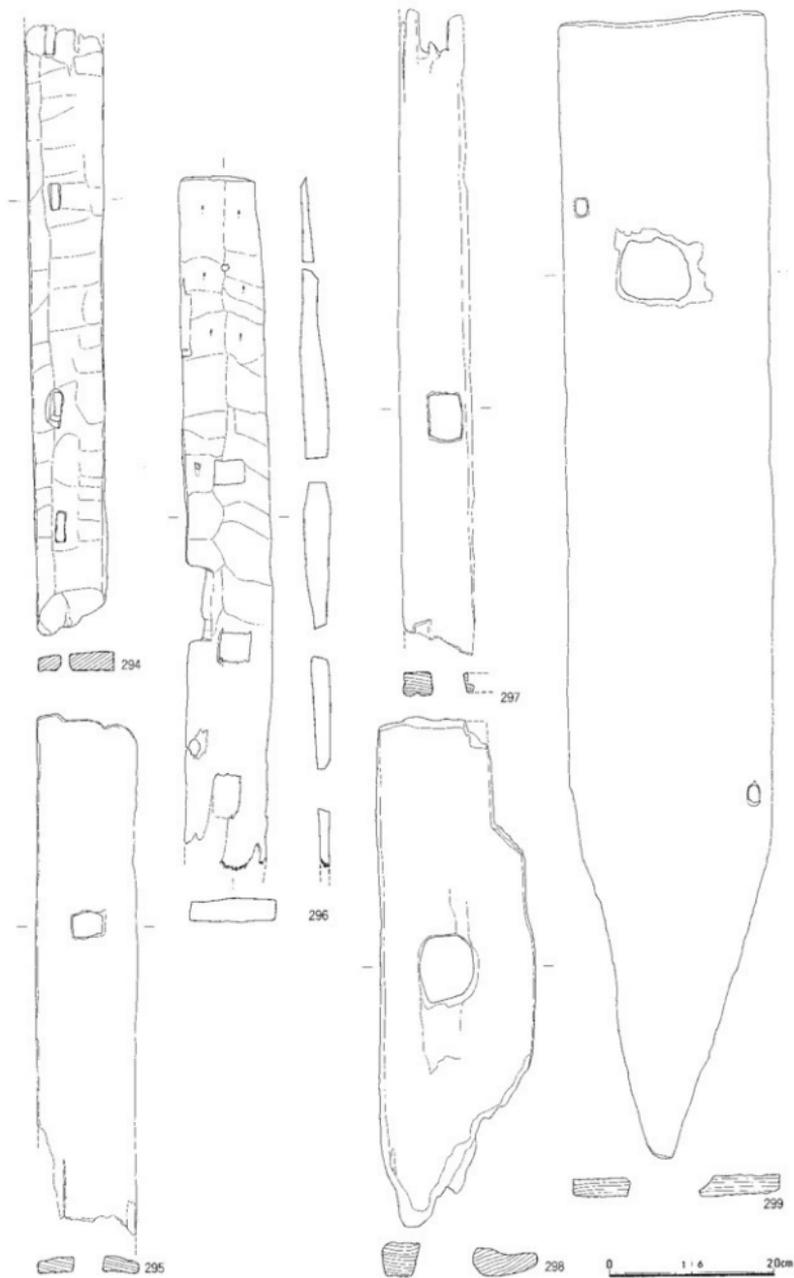
木製品(28)建築部材 S=1/6

0 1:6 20cm

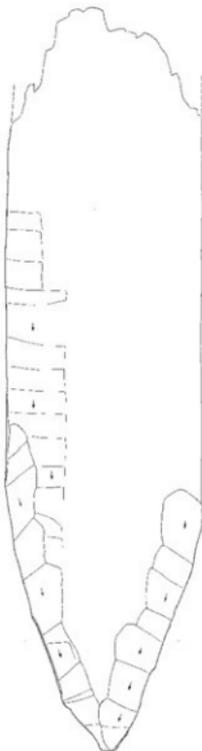
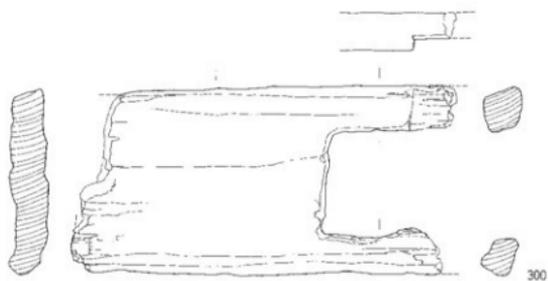


木製品(28)建築部材 S=1/6

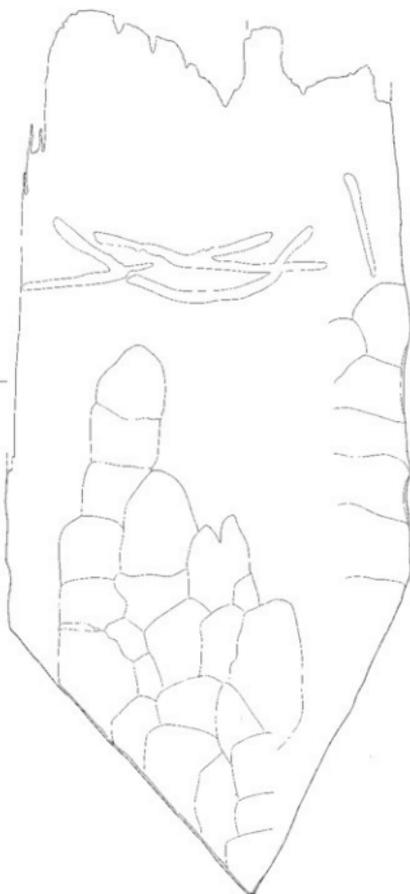
0 1:6 20cm



木製品(30)建築部材 S = 1 / 6



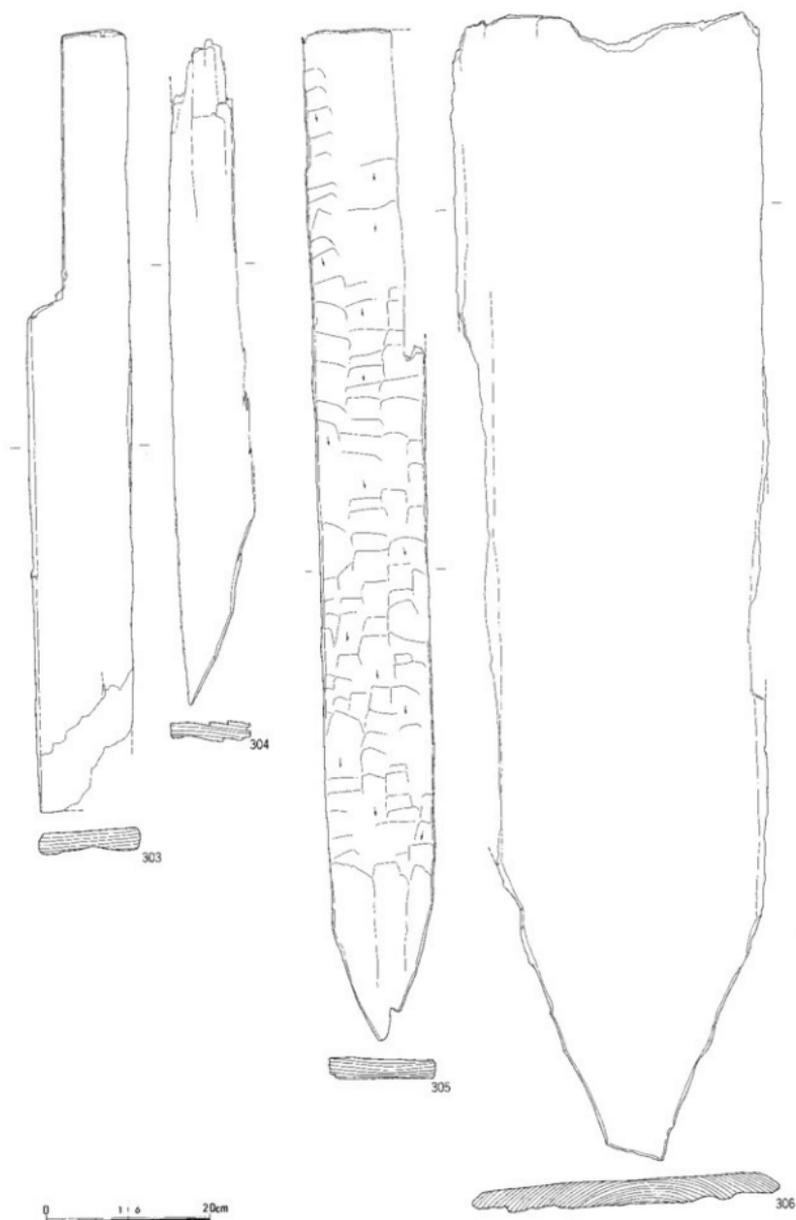
301



302

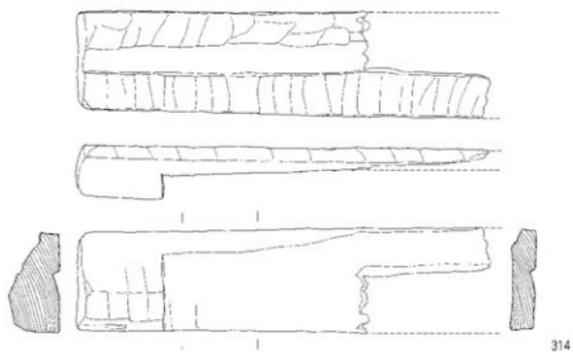
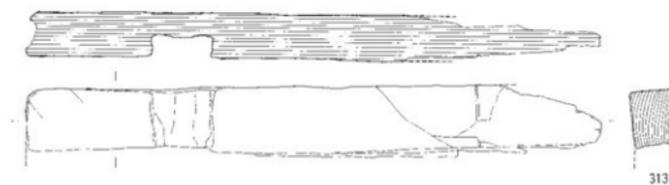
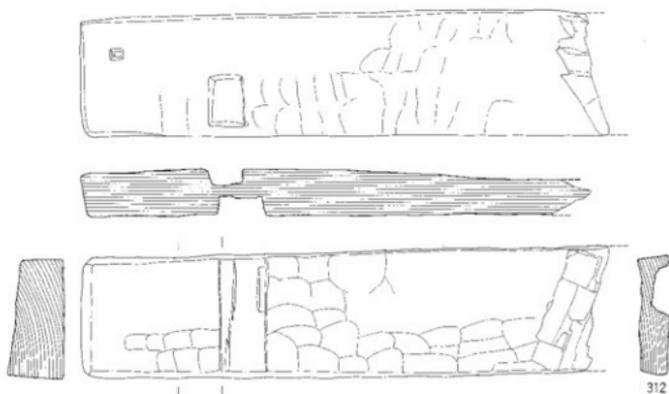
0 1:6 20cm

木製品(31)建築部材 S = 1 / 6

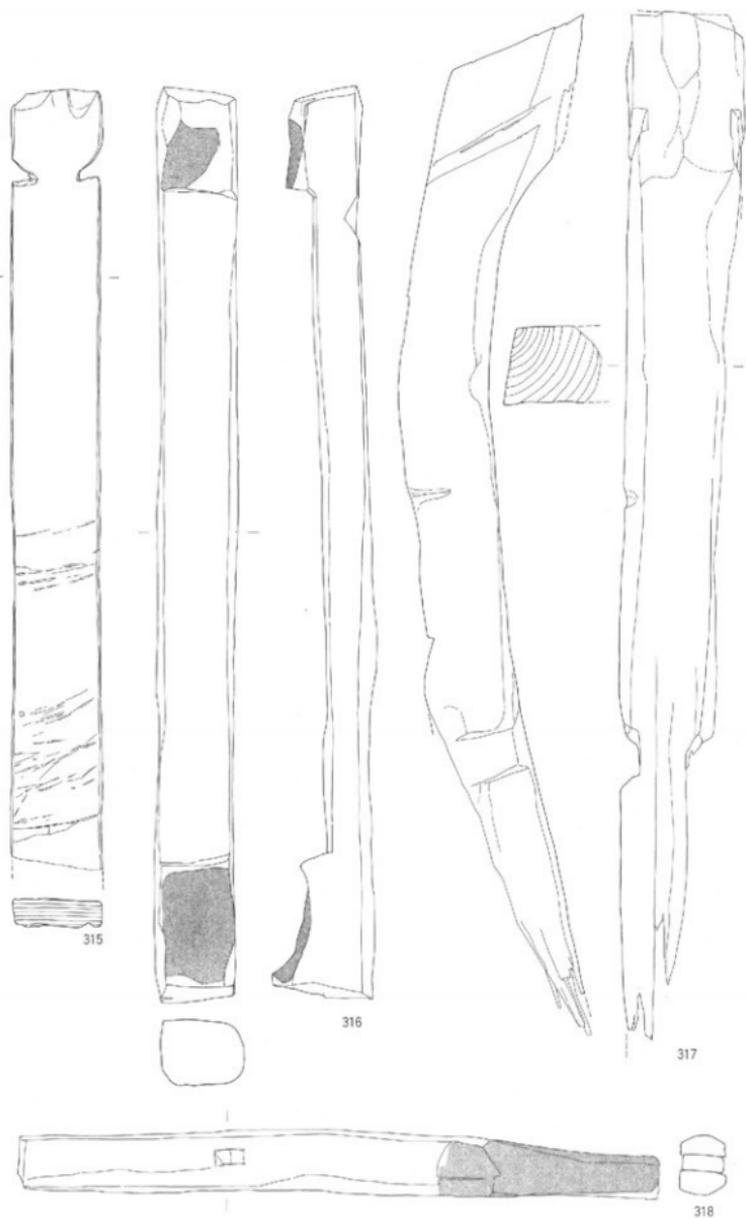




木製品(3)建築部材 307・308は S = 1 / 8、309~311は S = 1 / 10

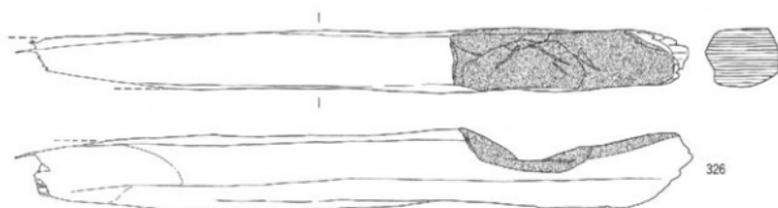
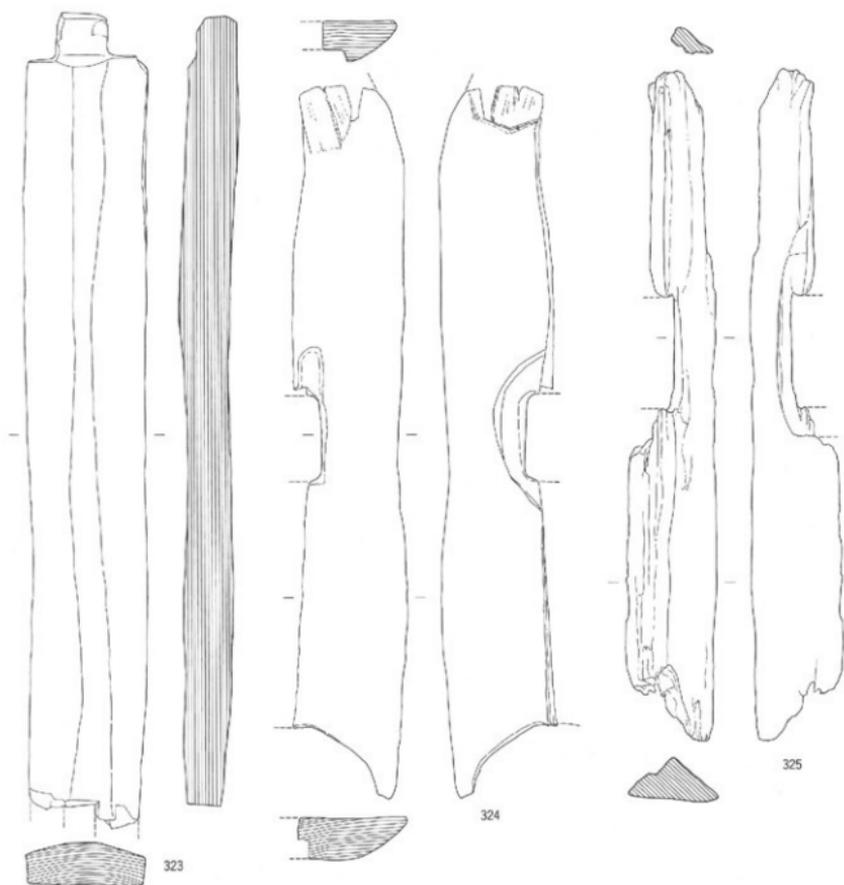


0 1:6 20cm

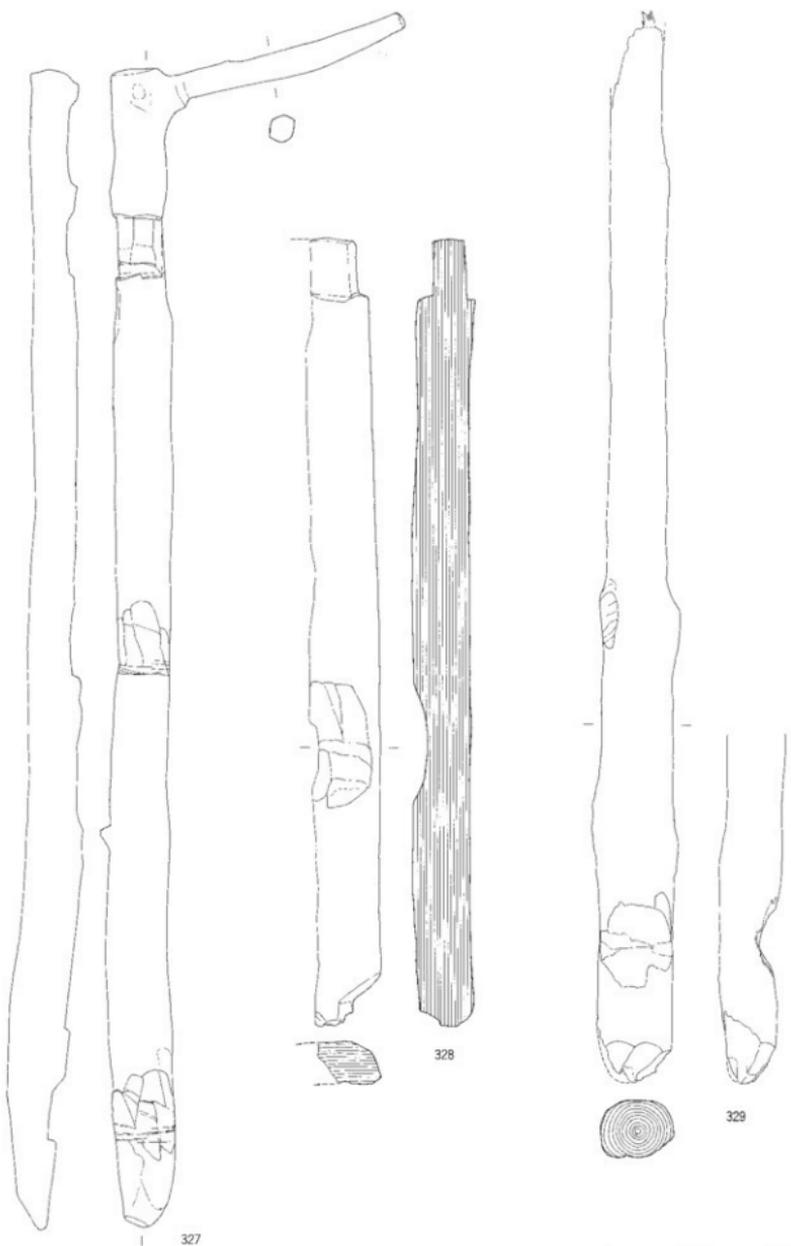




木製品(36)建築部材 S = 1 / 6、321・322は S = 1 / 10



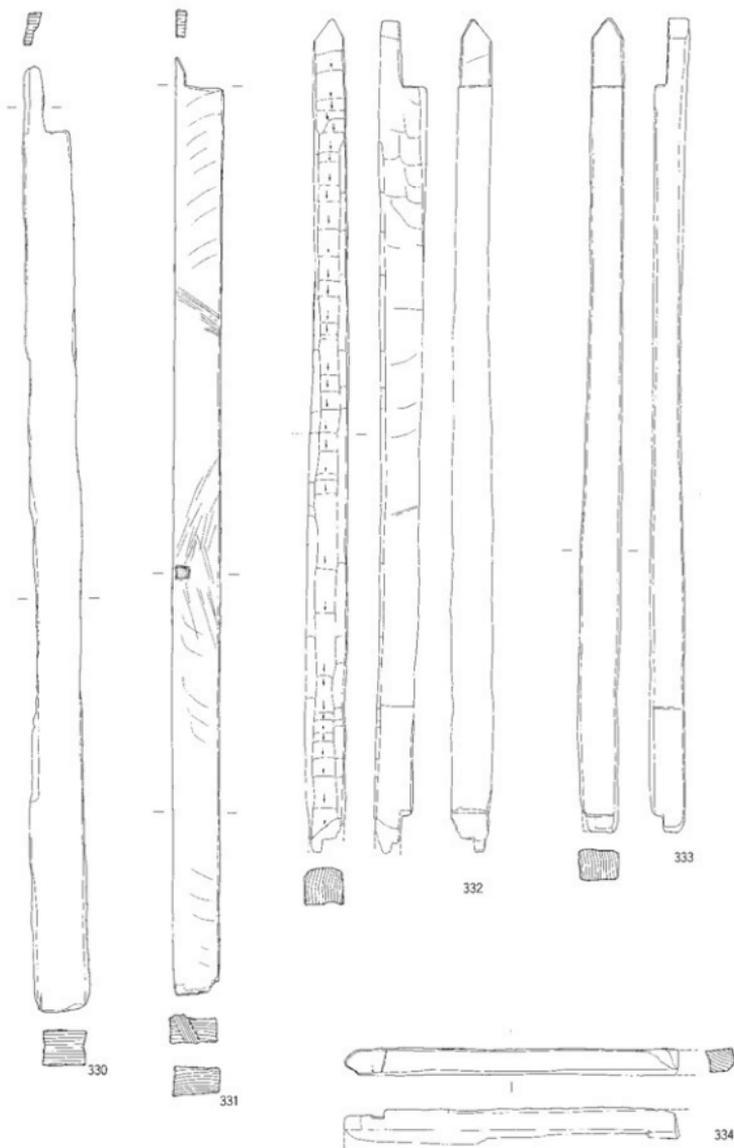
0 1:6 20cm

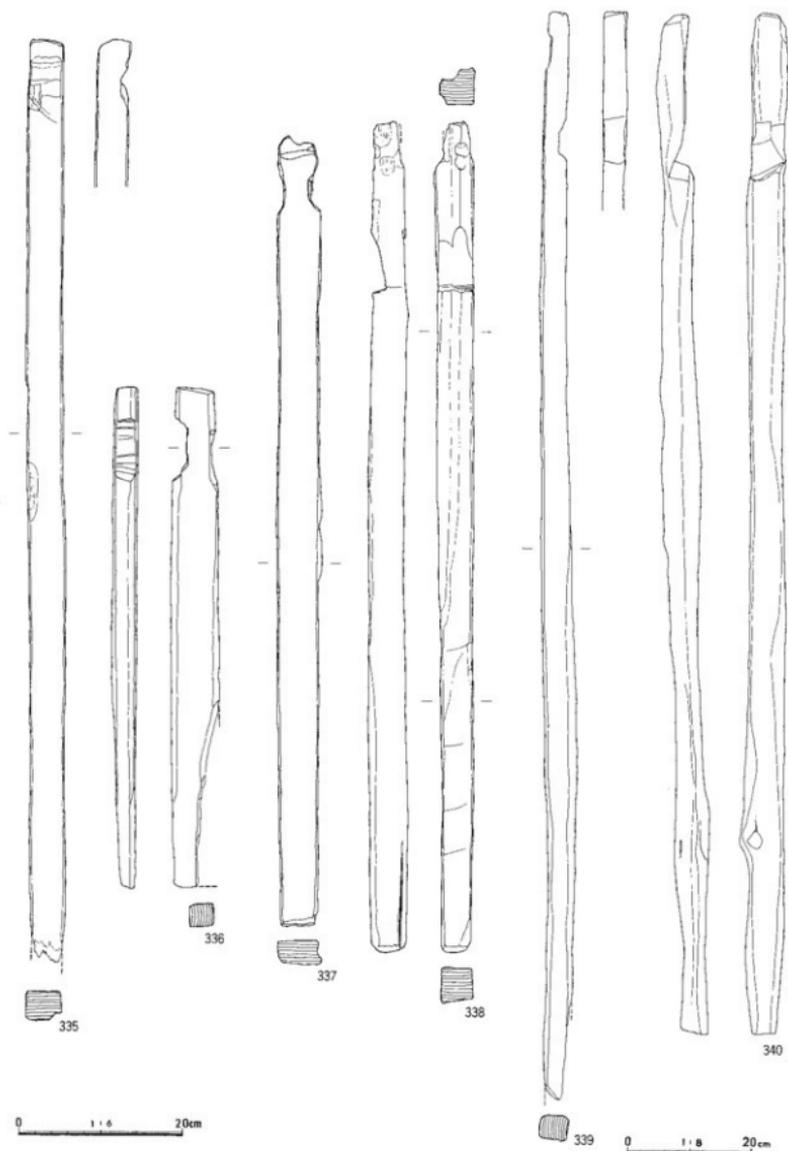


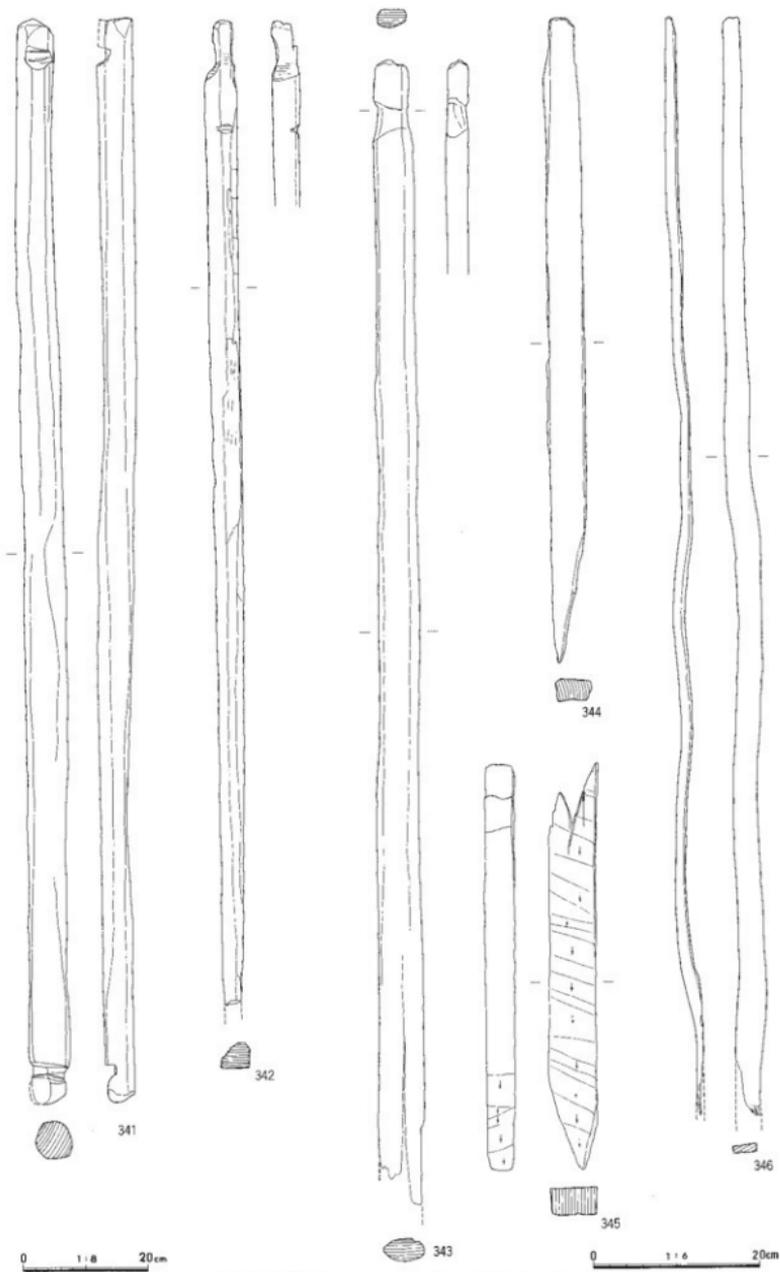
327

328

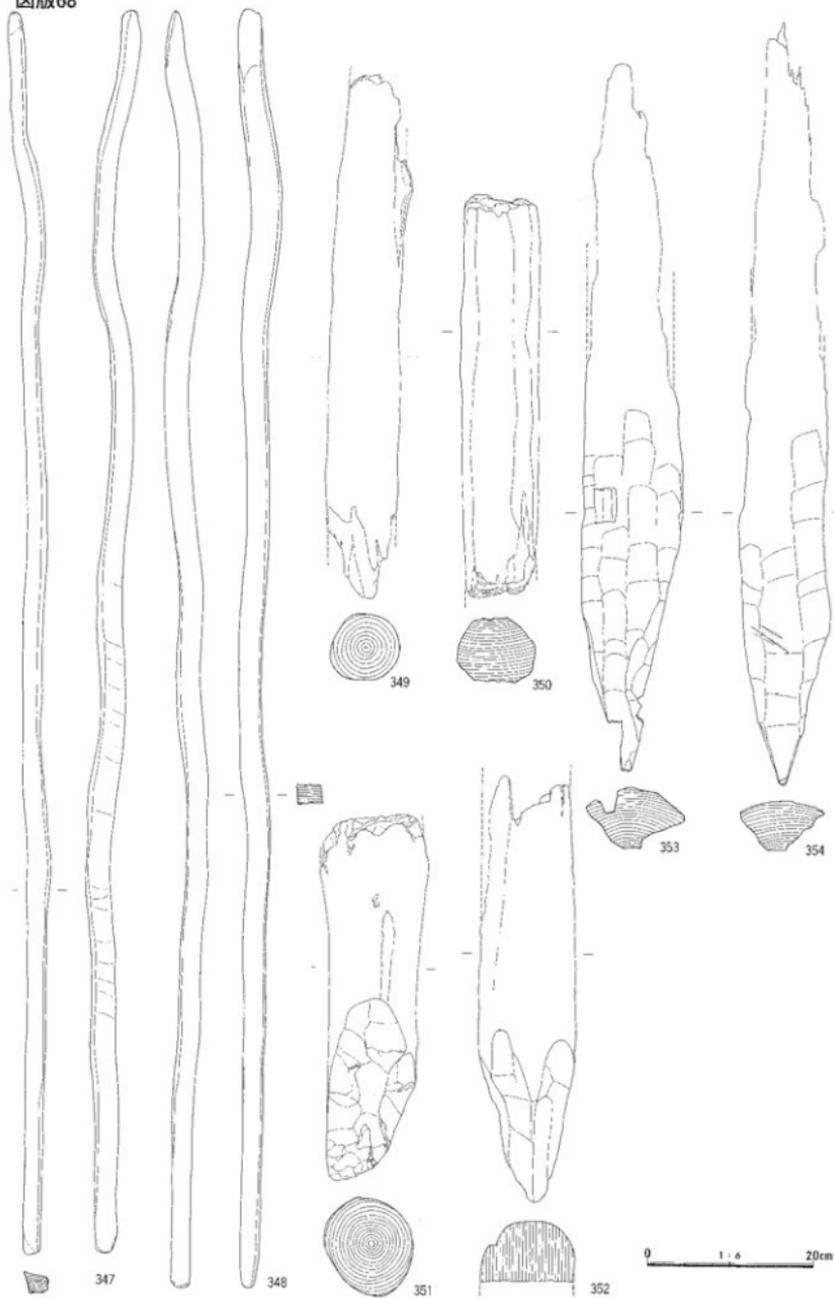
329



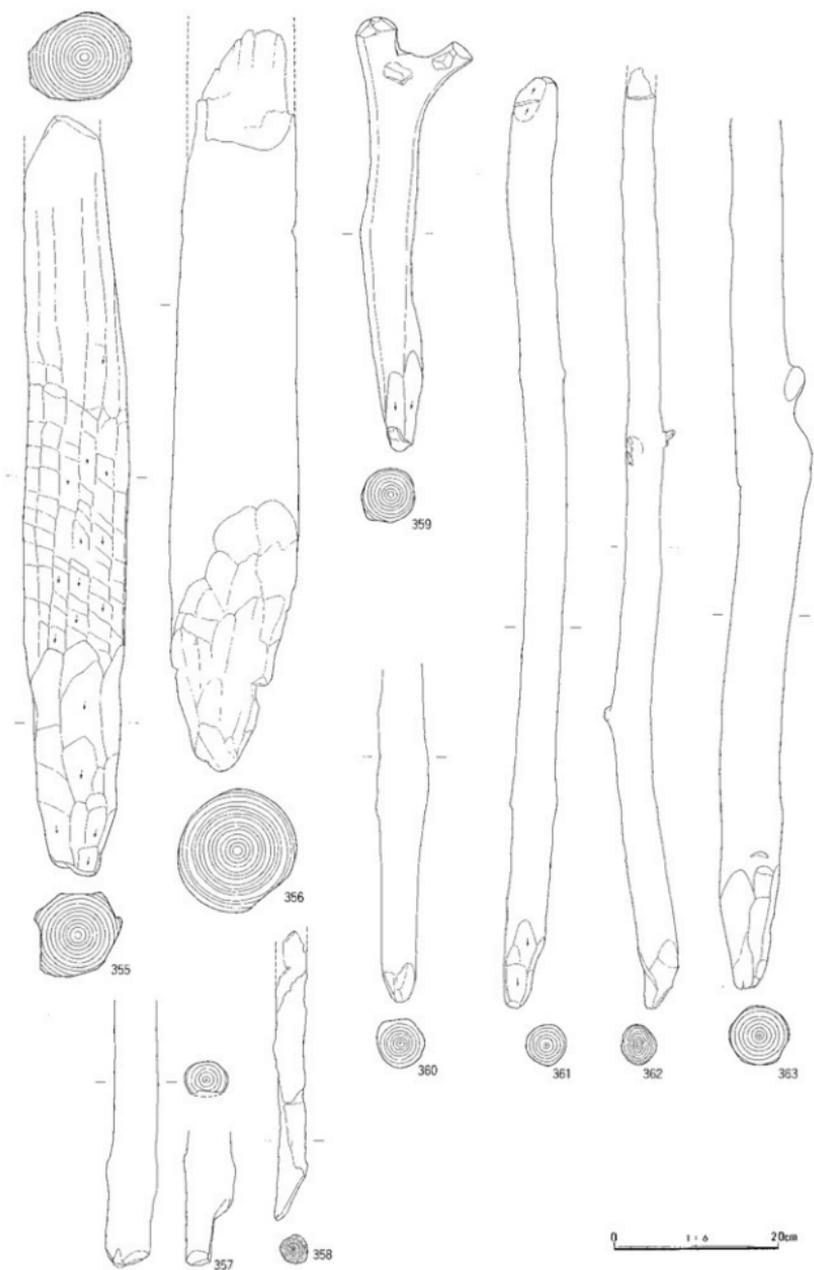




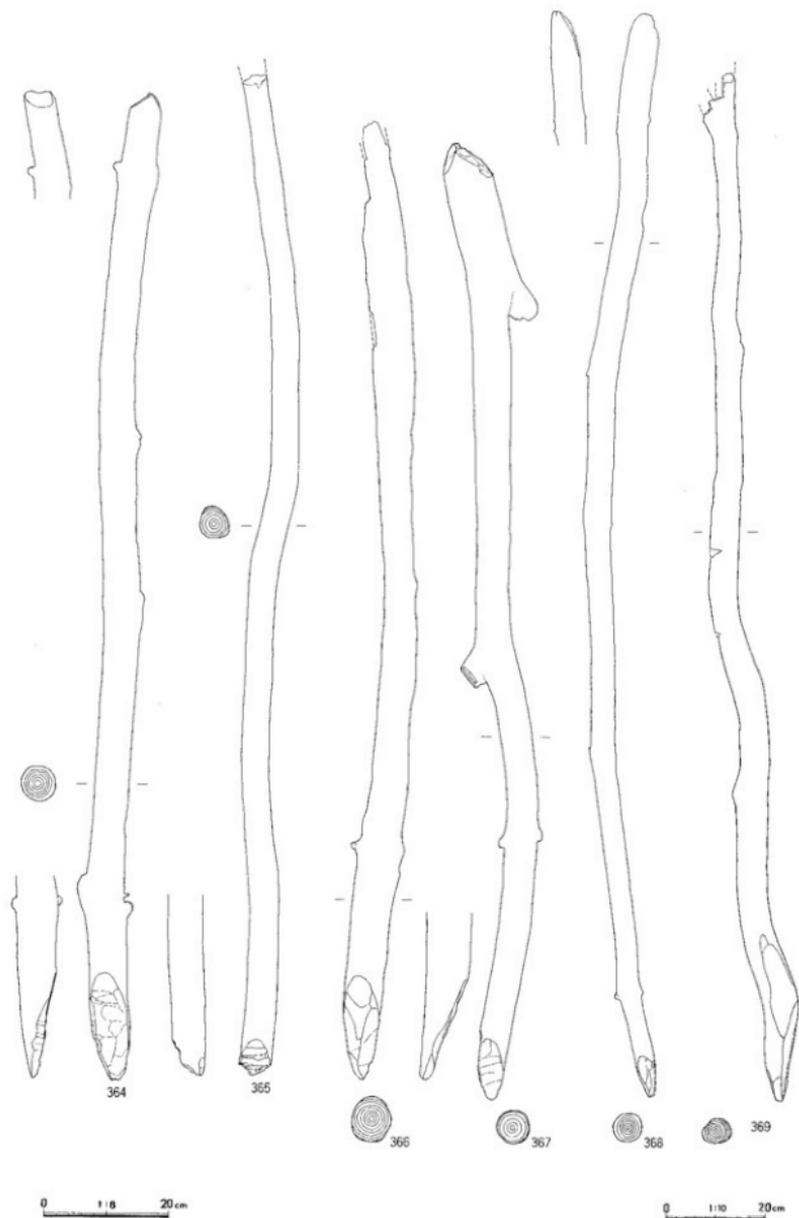
木製品(4)建築部材 S = 1 / 6、341は S = 1 / 8

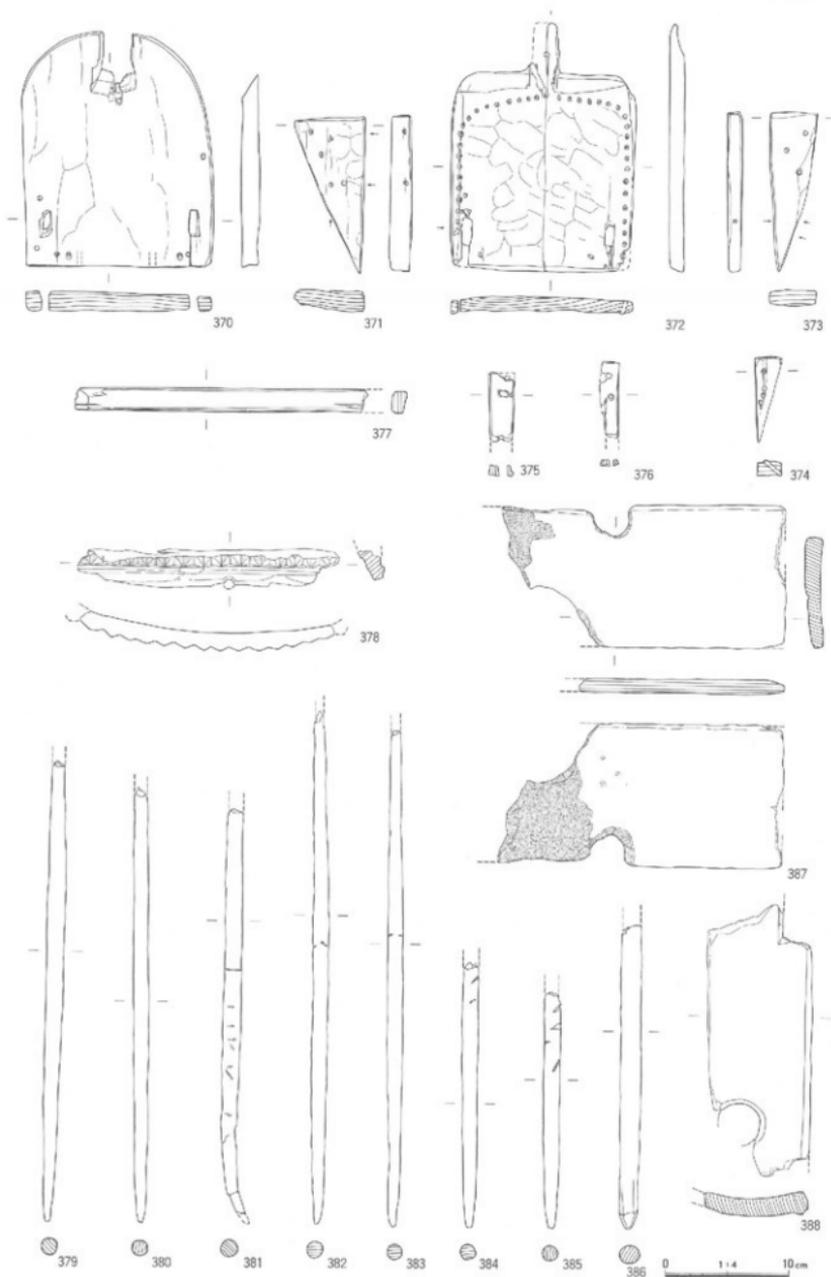


木製品(42)建築部材 S = 1 / 6

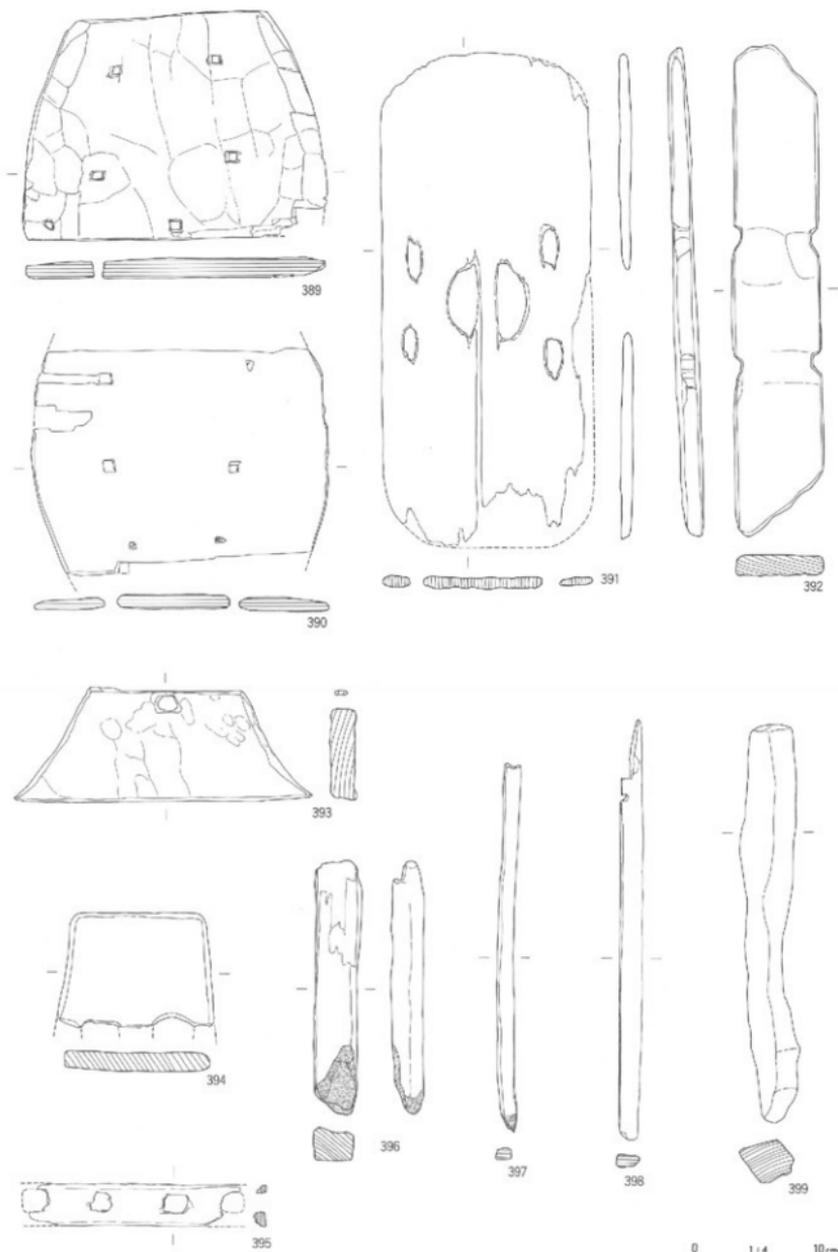


木製品(43)建築部材 S=1/6



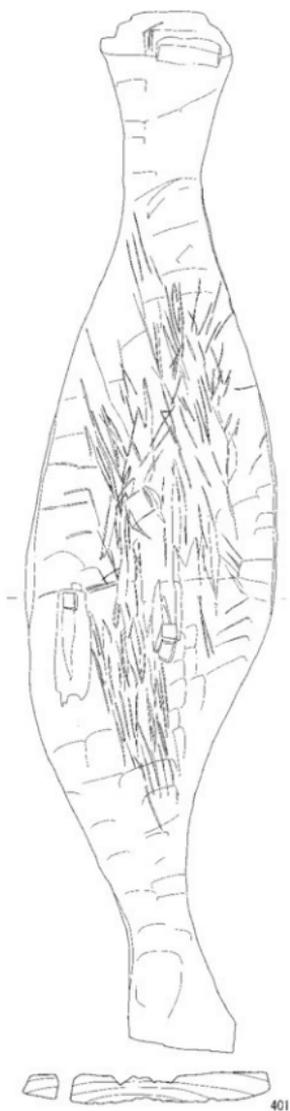
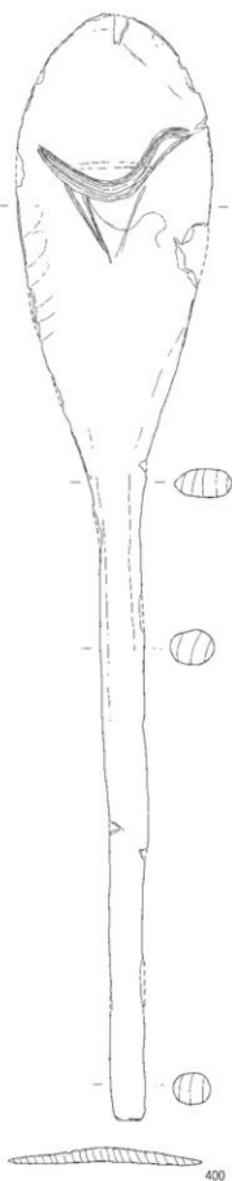


木製品(45)その他・用途不明品 S=1/4

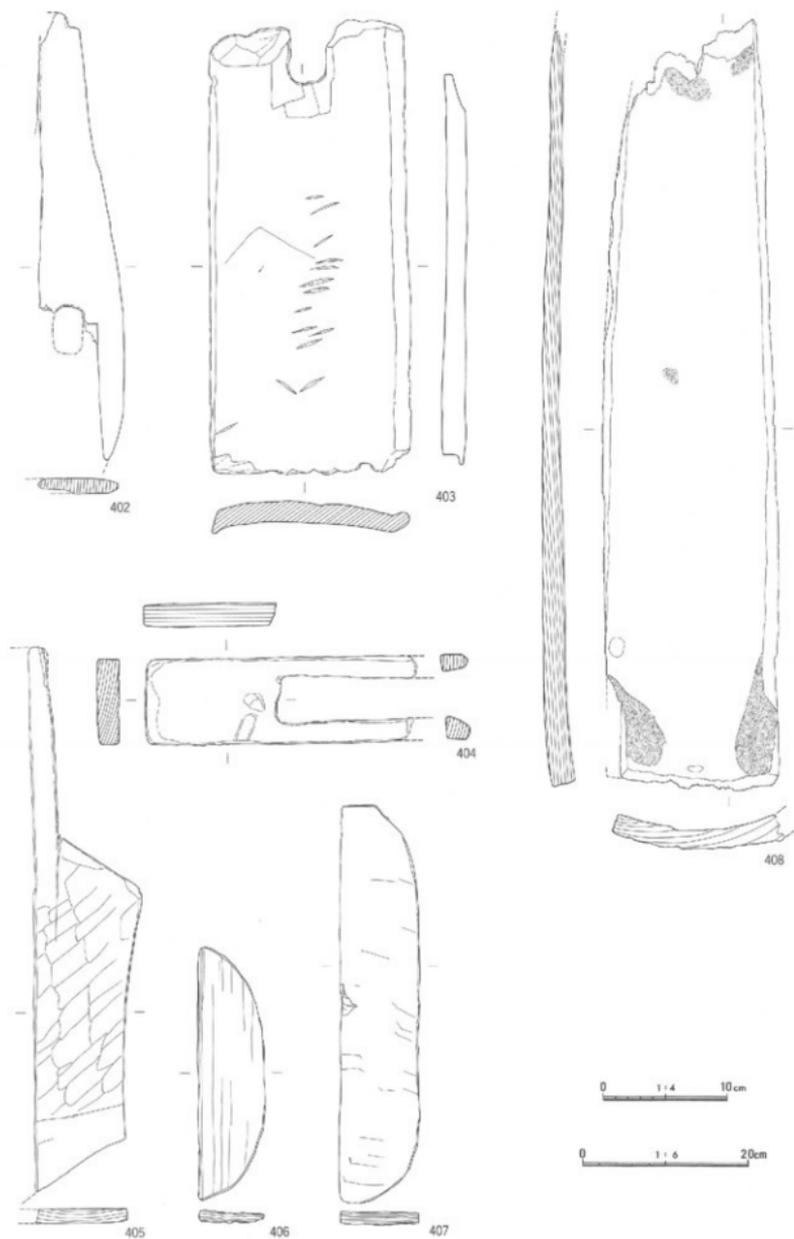


木製品(46)その他・用途不明品 S=1/4

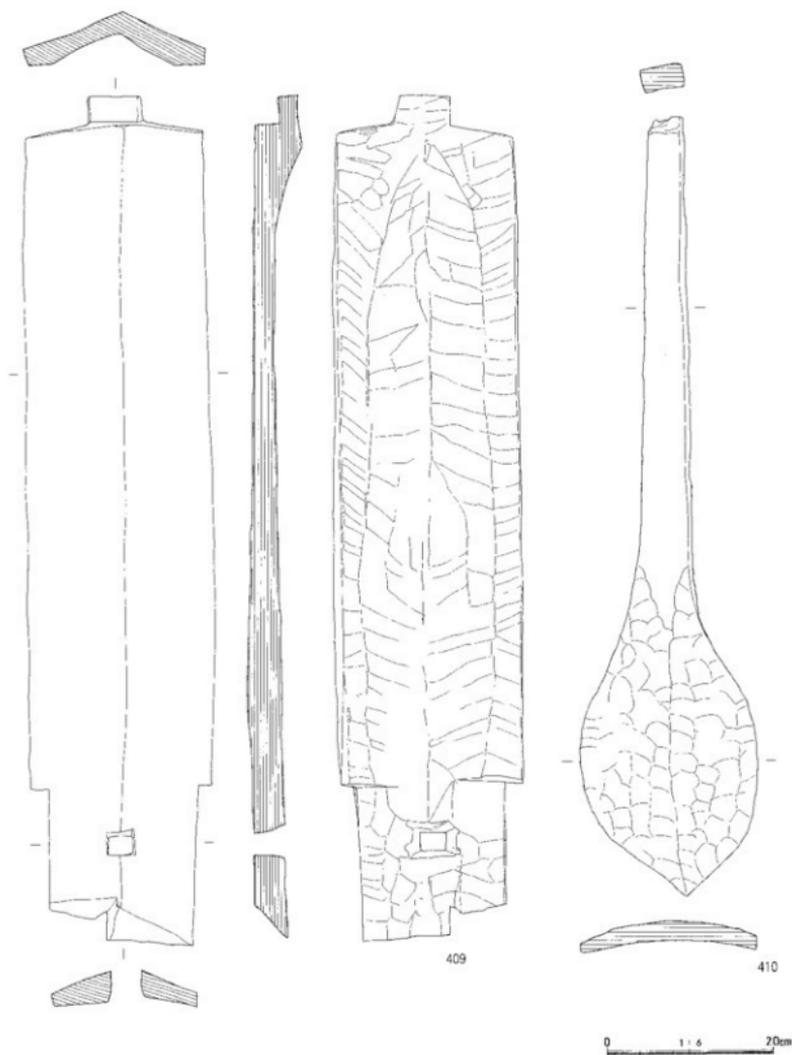
0 1 4 10cm

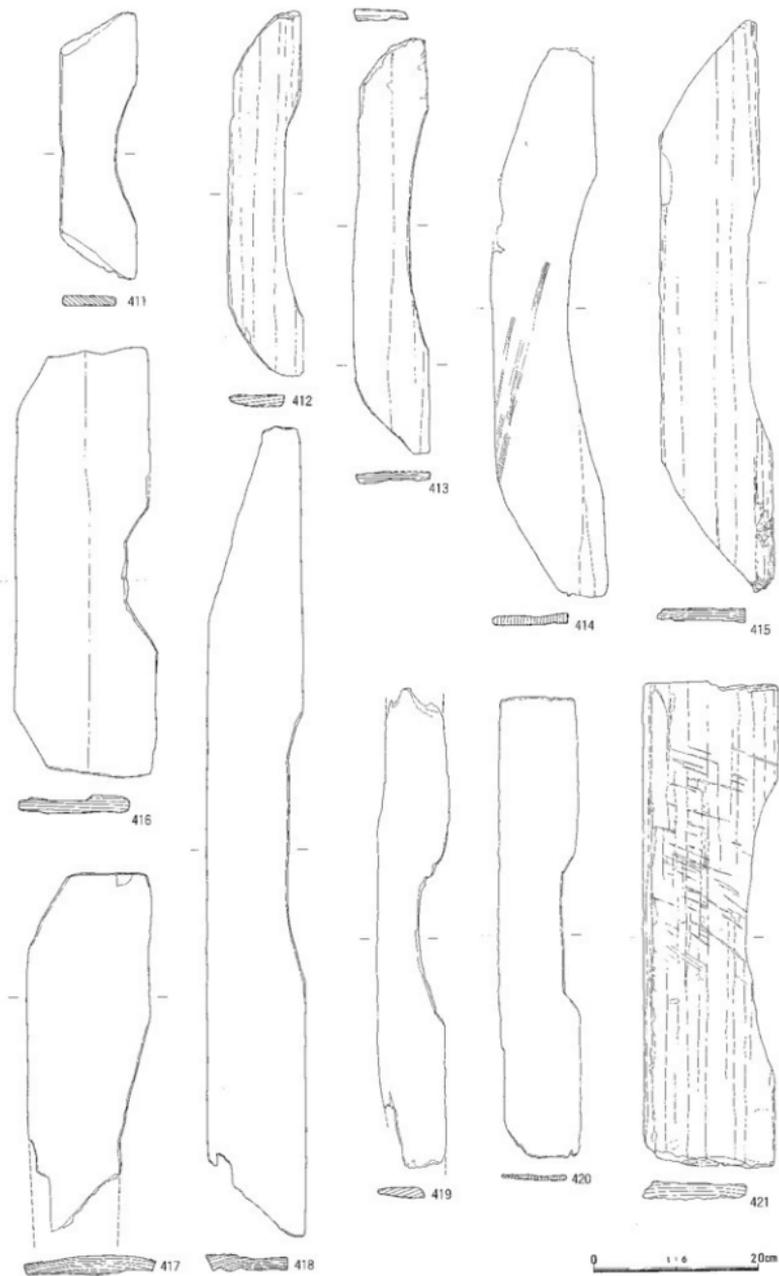


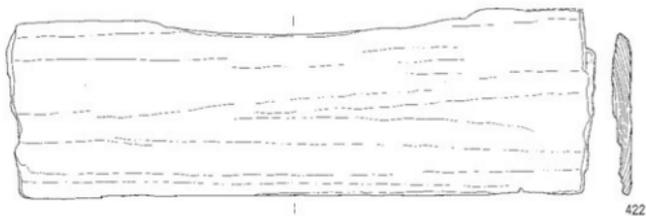
0 1.4 10 cm



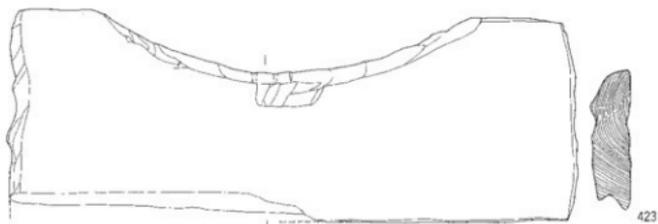
木製品(48)その他・用途不明品 S = 1 / 4、404・405・408は S = 1 / 6



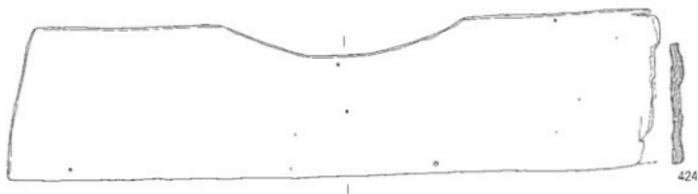




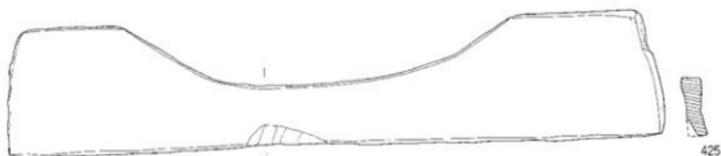
422



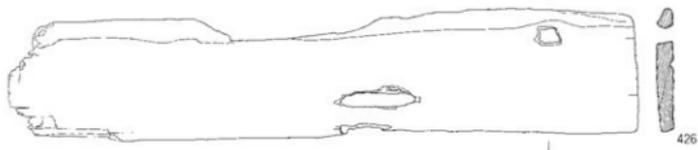
423



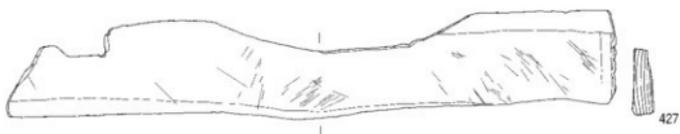
424



425

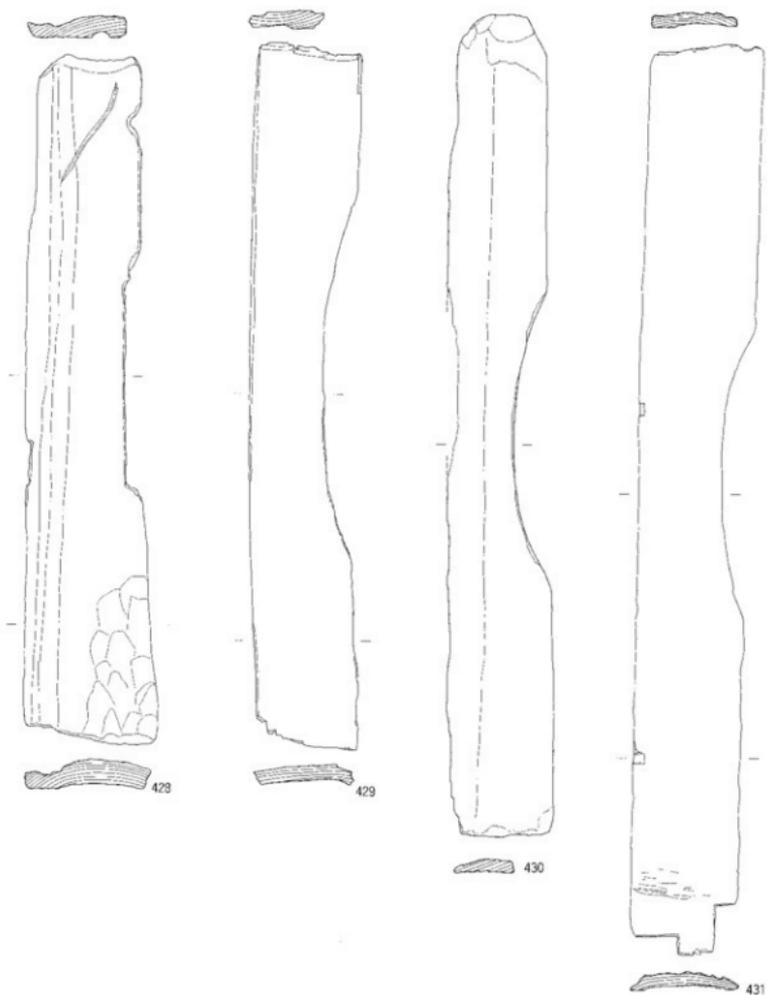


426



427





写 真 图 版



遺跡遠景（南東から）



同上（北西から）



調査区全景（南東から）



C区畦畔（北西から）



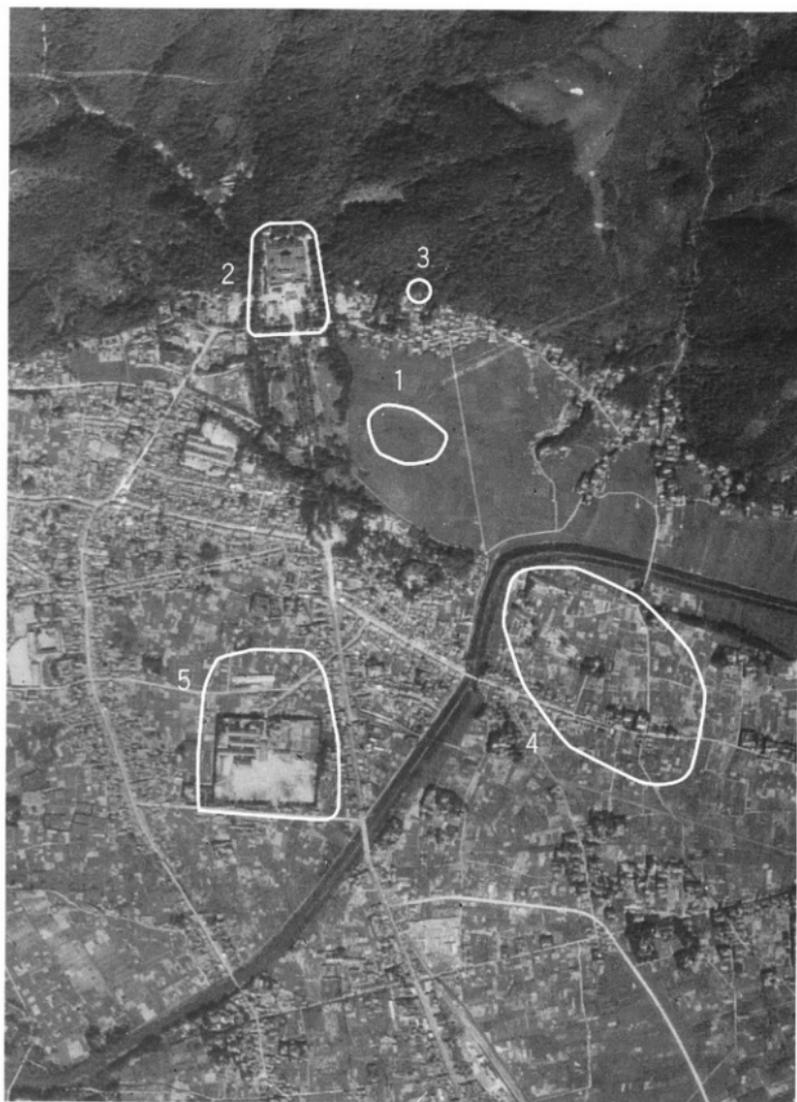
D区河道、溝（西から）



D区6層上面
弥生土器 (24)
出土状況

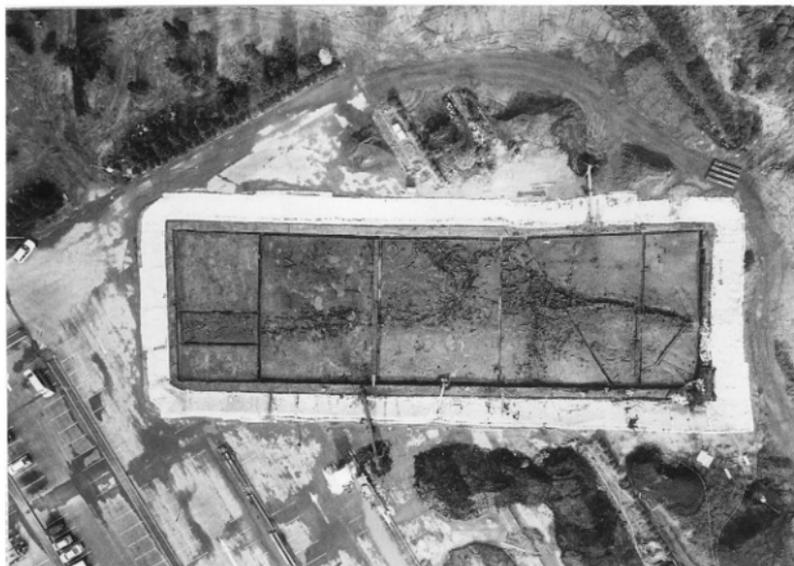


B区14層上面
縄文土器 (1)
出土状況



1947年米極東空軍撮影空中写真

- | | | |
|---------|------------|----------------|
| 1 五反田遺跡 | 2 出雲大社境内遺跡 | 3 真名井（命主社境内）遺跡 |
| 4 原山遺跡 | 5 鹿蔵山遺跡 | |



調査区全景（真上から）



A・B区（真上から）



B区北側（真上から）



B区南側（真上から）



C区 (真上から)



D区 (真上から)

A区地割遺構
(北から)



同上
(西から)

